
仮面ライダーBEST × 平成ライダー ~ギャグとリイマジとドタバタ耐戦！？~

時流 明日無

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー BEST × 平成ライダー ～ギャグとリイマジと
ドタバタ耐戦！？～

【Zコード】

Z1945W

【作者名】

時流 明田無

【あらすじ】

仮面ライダーBESTのキャラも気休めがしたい！！
という要請を（主に大智から）受けたのでスピノフでみんなではじけよう！と言う事で、士達も巻き込んでドタバタ大暴れ！
結局気休めにならないですが…

十枚目よつスピノフではなく、ギャグ耐戦として生まれ変わりました。

一枚目　　スピノフといつも氣休めコーナー始めました。

大智「…………。」

海斗「スピノフ初回であいつなにやつてんの？」

ツバサ「ほら、大智、戦闘描写はあつても、第5話現在、変身シーンが無いでしょ？」

ダイキ「それで落ち込んでるよつだ」

麻衣「変身シーンがないのは作者のせいでしょ」

——麻衣、お前はヒロインなんだ、毒舌キャラにならないでくれ。

海斗「あ…天の声（作者）が聞こえる」

ちゅど――ん！！

麻衣「何！？この昭和臭漂う爆発音！」

海斗「…誰？上の人達。」

？？5 「奴らは気にするな！」

麻衣「え！？」うつうつ腕が

?? 6 「あー!! アンカ!! 刑事さんの本」眾れ!!

「次回の作に期待」

「火野！お前が来ただのが」「

？？6- 後藤さん！後藤さんもなんですか？」

? ? 8 「ゲホッ… おい！ フイリップ！ 何だここは！」

？？9 「待ちたまえ、翔太郎。僕も今調べているところだ。」

? ? 10 「俺に質問するな！」

? ? 9 「してねえよ！」

? ?
1 1 「 ちよつちよつと翔太郎くん！あの人は達！」

「あ、あれ?」

「お前は、羽二郎

? ? 1 - お前は... 翔太郎 !

ハビト「職業」

「……の、割に楽しそうだな、

エリカ「つていうか誰ですか？あなたたち」

海斗「…もしかして…世界の破壊者とその（不運な）仲間たちと現

在絶賛放送中だけど、もうすぐ別の仮面ライダーになっちゃう欲望達に放送終了→二つ一続編が出来た→電王のハーフボイフレバ達が

！？」
「だとお送り」したのは紅緋が出たホント魔王のハートホイルト達が

ダイキ「何故お前はそんなに知っているんだ!?」

麻衣「心は少年だから…」

？？1こと門矢士「ああ、俺は世界の破壊者、門矢士だ！」
海斗「おのれディケイドー」

麻衣「もしかして…あれですか？わざまで無かつたのに急に建つたなんですが…」

夏海「それです！良かつた…」

??3こと小野寺コウスケ「良かつたね、夏海ちゃん」

??4こと海東大樹「僕達は分かるけど、何故W君や〇〇〇君もいるんだい？」

??5ことアンク（と一緒に泉刑事もつれて来ました）「ふんつ知るか！」

??6こと火野映司「なんかタトバ色のオーロラが…」

??7」と5103…否、後藤慎太郎「俺も会長のケーキを食べてたら…」

??8こと半熟卵…否、左翔太郎「コーヒー飲んでたら…」

麻衣「あれ？この人、イケメンパ…」

海斗「言っちゃダメ…！」

??9ことフイリップ「検索中だつたのに…」

??10こと照井竜「左と会話してたら…」

海斗「…そこは「俺に質問するな！」が聞きたかったな…」

??11こと鳴海亞季子「竜くん優しくなったから…」

海斗「でも、何故ここに？」

――俺が呼んだ。

全員「「「は？」」」

麻衣「ワンモアブリーズ」

――俺が士達を呼んだ。

照井「…絶望がお前のゴールだあッ…！」

アクセル！

――あ～また！暴れるな！

士「天の声（作者）は…俺が潰す！」

夏海「士くん！」^{パンツ}

映司「俺の明日を洗濯してたのに…邪魔しやがって…！」

ブテラ！トリケラ！ティラノ！ブツ！ティラノザウルス！

アンク「映司！？」

――までえ～～～～！

ツバサ「数分後」

天の声（作者）「…あれが…三途の川…」
半死

海斗「えつと天の声はスピノフは番外編なんだしギャグでいいよね、って事で呼んだらしいよ」

「シンジ、俺も呼ばれた」

尾上タクミ「…ぼつ僕も…」

アスムー 師匠！」

海東少年君

#バット「ワタル!? それ、黒ハゼえええ!!」

モモタロス「あれ？ カメたちは？」

三三三ショウサイチ「なら、俺を呼ぶなあ！」

天堂ソウジ「ん？」

士「なんでリイマジネーションが…」と言いたいところだが…本来ソ

んでいるんだ?」

あ、クロシクアップの辺際に一たるギャグにならぬ一じや

ん。だから特別に引き摺り出したま、この世界で直して帰えつたら?

ソウジ「だ、そうだ。」

「さあ、直すのはいいですが

ダイキ「…おい、天の声、アレみろ。」

—
—
—
h?

BEST「そんな暇あるならな… そんな暇あるならな…

B E S T F i n a l A t t c k - C a r d

元亨利貞

「ライダーテツワ

**G
O
!
!**

士「…俺、この世界に来たく無かつたかも…」

一枚目 親交を深めよ！ボーリング大会 其の1

海海「コンビ」「みんなでボーリングしない？？」

大智「何故だあ！？っていうか名前に海がつく同士仲イイなー？お

前ら！」

海海「コンビ」「いえす」

海斗「だつてね、ほかの世界の仮面ライダーたちと親交を深めるなら…」

海東「ボーリングが一番かな？ってさ。」

士「…大体分かった。…よし、みんなでボーリング行くぞー！」

ライダーズ「おー！」

ツバサ「…僕達は見守るつか？フイリップ君。」

フイリップ「だね。」

ちなみに、ダイキとエリカオマケにアンクは研究所に残り、ツバサ、フイリップ、麻衣、ワタルは見学となりました。

～～～～～と言つわけでやつてきたのは渚沙市で一番大きなボーリング場、アシカボーリング。しかも貸し切り。

海斗「ちなみにチーム対抗戦にするよー！」

海東「チーム分けはこちらー！」

学生チーム～尾上タクミ、アスム、高見大智、一之瀬海斗～

W&○○○チーム～左翔太郎、照井竜、火野映司、後藤慎太郎～

もやしチーム～門矢士、光夏海、小野寺ユウスケ、海東大樹～

龍+虫チーム～辰巳シンジ、芦川ショウイチ、剣立カズマ、天堂ソウジ～

イマジンチーム～モモタロス、ウラタロス、キンタロス、リュウタロス～

海東「あ、そうそう、ルールは普通のボーリングと一緒になんだけど、玉壊したり、ピン壊したり、玉以外でピンを倒したらNOカウント！」

海斗「ちなみに、変身して投げるのは1ターン限りだよ～」

大智「…それ、他でも無いお前が不利じゃ無いか？」

海斗「いや？俺、バース借りるから。」

後藤「貸すのはいいが、訓練受けてないと使いこなせ…」

海斗バース ブレストキヤノン装備「セルバーストかますぞ～」

後藤「…すいませんでした！！」 土下座

海東「そして、優勝チームには素晴らしいお宝があるから頑張りたまえ！」

海斗「最下位のチームは…楽しみだね。」

全員「～アンタナニヨヤツタンダ～～～～～～」

海東「さあ、練習を始めたまえ！」

ツバサ「さあ、始まりました、「親交を深めよう!ボーリング大会!
略してボーリング大会!

翔太郎「略してねえじゃん！」

「実況席に近いからつてツツコまないでよ、翔太郎。」

翔太郎「はあ！？誰でも突っ込むだろ！さっきのわー！」

ツバサ「実況担当は、僕、ツバサが！」

全員「「「鬼進行！？」」」

•
•
•

ソウジ「俺はクロツクアップの世界に閉じ込められてたから人々だ

「… ここへおでん作りをここへ

ショウイチ「オイオイ、こいつでおでん作るなよ!」

ショウイチ「食つなよ！和むなよ！」

ソウジ「【天堂屋】自慢のおでんだからな。ショウイチも食うか?」

シヨウイチ「誰が食うかああああああああ！」

ツバサ「おつと、ここで芦川ショウイチ氏のツツミが決まりまし

たね

「アーリット、おでん六味」（ 、 、 ）

翔太郎「風都署ではボーリング大会あるのか？」
照井「年に一回」

翔太郎「Bestスコアは？」

照井「俺に質問するな」

翔太郎「は？」

照井「俺に質問するなあああ！」

海斗「来たああああ！！！＼(^o^)／」

フィリップ（態度でまるわかりだね…）

後藤「火野！ボーリング経験は？」

映司「旅に出てからさっぱりです」

後藤「だよな…」

翔太郎「後藤慎太郎、」

後藤「左翔太郎、」

W太郎「俺たちが頑張るぞ！」

モモタロス「俺、参上！」

ウラタロス「ちなみに僕達は天の声の力でこの大会限定で実体化されたんだ…そこの中！」

麻衣「はい？」

ウラタロス「可愛いね…これがおわつ」

大海「貴様ムツコロス！！！」

ウラタロス「う、うわああああああ！」？

士「…ここチームが一番まともな気がするのは俺だけか？」

ユウスケ「大丈夫だ、士！おれも思つた！」

士「ちなみに俺はボーリングの腕前は普通だぞ」

ユウスケ「俺も普通」

夏海「私も普通です」

海東「…戦力は僕だけかい？」

orz

タクミ「アスマ君ボーリング経験は？」

アスマ「いつ、一回だけ…ザンキさんとテンキさんとの二人で…」

大智「そういうタクミは？」

タクミ「僕は友達付き合いで何回も…。あ、あと由里ちゃんと…」

大智「もういい。分かった」ちなみにそこそこ上手い

海斗「こここのチームはタクミ君が主戦力だな」ちなみに普通

ツバサ「次回！開幕！ボーリングゲゲル！」

ユウスケ「ゲゲルじゃないだろ！？」

三枚目 親交を深めよう！ボーリング大会其の2

前回のあらすじ、海海コンビの発案で親交を深めよう！ボーリング大会！が始まった。

海東「じゃあ、始めようか。麻衣くん。」

麻衣「はい！それでは、さっそく始球式を始めたいと思います！」

投げてもらうのは…ワタル君です！」

ワタル「…行きます！はつ！」

ガコングコーン！

ストライク！

ハッピッバースデイツ！！！！

後藤「何故鴻上会長の声なんだ！？」

ツバサ「声は気にするな！」

麻衣「でわみなさん！がんばってくださいー！」

全員「「「おー！！！」」

ソウジ「でん！」

ショウイチ「勝手に付け加えるなああああ…！」

ツバサ「さあ、始まりましたボーリング大会！実況は私、ツバサが」

フィリップ「解説は僕と」

園咲若菜「園咲若菜がお送りします」

ショウイチ「なんか増えてる！？」

翔太郎「っていうかなんでここに若菜姫が…天の声か」

——最初に言つておく、園咲若菜は呼んでない、しかも俺も想定外だ。

……。

全員「「アンタド「カラヤツテキタ！？」」

——本当に、どこからやつて来たんだ！？

若菜「え！？ ヒーリングプリンセスの収録後、空間が裂けて来人に

「面白いものが始まるからねえさんも来なよ」って言われたから…」

翔太郎「フィリップが空間を裂いたのか！？」

フィリップ「いくら僕でもそれは不可能だよ、翔太郎。空間を裂いたのはコレだ」

ツバサ「僕だ」

ツバサは自ら拳手をした。

翔太郎「教えてくれ…お前のロボットは常識とか定理とかは無視なのか？」

大智「まさか！俺の親父に限つてそんな事はない！」

フィリップ「その通りだ、翔太郎。人知を超えた、まさにミラクルが起きたんだよ」

翔太郎は泣きそうな顔をしながら先ほどから目をこすりまくつている大智に尋ねたが、相棒にまでりえない現実を直視させられた。

哀れ、ツツコニ。

——思ったんだが、園咲若菜姫は実況の方に座るべきで無いか？ 照井「俺に質問するな、俺に質問するな、俺に質問するな、俺に質

問するな俺にし……グヘブツ！？

シンジ「煩い」

ツバサ「若菜姫はどうでもいいから早くみんな投げ無いか？」

士「お前が言うな！元凶ううツー！」

翔太郎「お前が狂わせたんだぞおおおおおおー！」

ソウジ「とうつ！」

がらがらんがらー！

スペア！ハッピッバースデイツ！！！！

ショウイチ「普通にプレーするなああああああああああああツ！」

！――！

人知を超えたロボットが鬼進行を見せ、リア充？破壊者と半熟卵探偵が叫び、フリーダムおでん屋の息子が投球し、リア充超能力者が大音声で叫ぶ…

それを見ていた大智は思つた：

今このいつらにカオス達が目をつけたら、渚沙市は一日で崩壊する

と。

天の声「ここで、どのチームが優勝。最下位になるか皆さんの意見を聞きたいと思う」

麻衣「ちなみに作者もまだどこが優勝か最下位か分からぬいそうですね」

ワタル「当ても特に賞品がある訳で無いですが、コメントに予想ランギングを投稿して頂くと幸いです

ツバサ「ちなみに投稿して頂いた予想ランキングが全部外れた人にはなんと！ワタル君（13歳）による公開処刑かフリーダムおでん屋の息子による尻キックか左翔太郎の熱血ハードボイルド講座かを受けてもらう！！」

全員「「「それは止めるおおおおーーー！」」」

翔太郎「俺はそれしてもイイぜ！」

フィリップ「翔太郎、『熱血』の時点でハードボイルドじゃ無いつて事に気付くべきだよ」

天の声「ちなみにフィリップの予想は？」

フィリップ「検索中だ」

ツバサ「僕の予想は、
イマジン最下位

もやし四位

W+〇〇〇三位

学生二位

龍+虫一位

だよ～」

映司「皆さんの投稿お待ちしております！」

四枚目 親交を深めよう！ボーリング大会其の3

前回のあらすじ、なんか知らないけどボーリング大会が開幕した。

士「色々あつたけど総てを破壊してやるぜッ！…」

ガコンガラン！

6ピン！

シユツ！

ユウスケ「シユツ！つて何！？シユツ！つて！」

士「大体分かった、響鬼のヒビキさんがよくやるあのポーズだ！」

ツバサ「あ、言い忘れてたんだけど、2ゲームするからね？」
フイリップ「1ゲームだとあつさり終わるからね」

天の声「3ゲームはしつこいだろ？俺もうこの企画飽きたし」

全員「「「飽きるなよ！作者！…」」

（学生チーム）

大智「…今まで俺達、軽く仮面ライダークウキになつてたよな？」

海斗「あ、それは！？」

タクミ「言つちゃダメ！ユウスケさんが聞いちやつたらまずい！」

アスマ「いや、もうユウスケさんがもの凄い勢いでこちらに…」

クウガRU「誰がクウキだあああああ！」何気にライジングア

ルティメット黒目

大智「ゴフウ！？」 R Uに思いつきり殴られたため10m離れたボーリング場の壁に突き刺さる

麻衣「大智イイイイイ！？」

海斗・大智！大丈夫か！？

全員「「「いや、大丈夫

BESTの世界の住人「「だつて大智だもん」」

あ！！！」
大智 アスムに引っこ抜かれた「行くぜ…俺は一番になる者だああ

ストライク！

ハッピーバースデイツ！！！！

タケミ：「轉ぐ恨みが混じった不^ハイケですわ」

「思つたんだけど、ボーリングの玉を

てもいいのかな?」

タケミ（十六歳） もう……ここで話題が掛けまでは？

無理ですよ?
一
アスムの玉50ポンド

全員「いや、みんなまことに玉持てないから……」

「ううん、かとこが空持てるから、それ」

ショウイチ+土+翔太郎「」「」「」

場！！」

海斗「とりあえずサイドスロー行くぜー！」 9ボンド

ガランガランガラン！

9 ピン!

名譜わんは略題です。

「夕川」
- ! ?

「大体分かった、キバの紅渡だな」

「普通はサヘトでしかモガ一つかかで9
ピン!?」

昌黎縣志

二、ハツ・ハリ・批

(イマジンチーム)

ナニヤアホ

モモ「俺達つてこんなにキヤツ薄か

リエウー他が濃すぎるんだと思うよ?ねー

三一七

シンジ「うつさい、所詮桃の身分で」

モモ - な！？

ノルマニ

ショウイチ「お前も喰つなああああーー！」

映司「よつと」

が
こ
ん
！

2ピソ！

行きますよ～！

翔太郎「なんだ!?」この音声…」

フィリップ「これは、仮面ライダー・アギトの津上翔一だよ、翔太郎」
若菜「今までの見ていると、1～9ピソまではクウガ～キバのオ
リジの主役の一言が聞ける様ね」
ツバサ「ストライクとスペアは鴻上会長みたいですね」

ユウスケ「…と言う事は…1ピソだと五代さんか!?」

士「あくまで勝負なんだから試すなよ…? 試すとしたら一投目でど
う頑張つても1ピソしかとれないときにしろよ…?」

ユウスケ「いけつ！」 3ターン目一投目

士「人の話を聞けええ！！」

がこん！

1ピソ！

おやつさああああああん…!

ユウスケ「…?」

翔太郎「俺…?」

フィリップ「これは興味深い。たまにＫＹな人物のセリフが混じる
みたいだね。」

士「それを早く言えええ…!」

翔太郎「俺ＫＹなの…?」

クウガＲＵ「翔太郎おおおお…!」

翔太郎「え…? ちょ…? まつ…? キャーす…!」

照井「おりや…」
がこん！
ガーター

もういいだろう翔太郎。早く帰ろうよ？

翔太郎「…」半死

士「 翔太郎！？」

ユウスケ「ちなみにさつきのガーターのセリフはWがシャドームー
ンを倒した後のフィリップくんのセリフだね」

アスマ「 ユウスケは鬼ですか！？」

タクミ「 鬼が言った！？」

後藤「バースッ！」

翔太郎「いや、おかしい！おかしいぞその気合いの入れ方！…」

復活

後藤「バースッ…！」

ガコンガコンバコン！

ストライク！

やるねえ、後藤ちゃん！

後藤「…伊達さん！伊達さああああああああん！…！」

一緒に

来れなかつた伊達さん思い出した

伊達「どうしたの？後藤ちゃん」おでん喰いながら参上

後藤「だてさあん！」

ショウイチ「 つてお前もかあ！」

フィリップ「 なんで彼はここに！？」

天の声「いや、後藤がカズマみたいにうえいうえい言い出す前に呼

「んでおいたほうがいいかな、と」

カズマ「俺うえいうえい言ってないよー?」

「つえ こつえい 言つのは剣崎の方だ！」

カズマ「うえい！」

ソウジ「あ、言つた」伊達におでんのお代わり渡しながら
伊達「うまいねえ」れ

翔太郎「つていうか、ボ

あ
「. . .」

五枚目 親交を深めよう!ボーリング大会其の4

天の声「……。」

大智「バースの歌聞きながらなにやつてんだあこいつ」

海斗（Ｔ　Ｔ）

大智「うえつヒー！」いつも泣いてやがる

麻衣「泣いてる理由は？」

伊達「どうしたの？そんなにしおげて？」

天の声 + 海斗「「つわあああああああああああああん……！」伊達さん
ああああああん……！」「。」「。」「。」「。」

麻衣「海斗！？作者！？」

伊達「お～、よしよし」泣いた元凶

大智「あんたなんで驚かずに対処出来るんだ！？」

伊達「とりあえずみんながよんでもるから戻ろくな？」

親伊達組（海斗 + 作者）「うえい！」

大智「そして『新』じゃなく『親』なんだな！？」

ツバサ「ボーリングのわりに長く無いかい？」

フィリップ「みんな自由気まだから仕方ないんじゃないかな？」

全員「「「お前らがいるなあ！」」「」

天の声「ソウジさんのおでんうつまー（ 、 、 ）」

ソウジ「お代わりいるか？」

ショウイチ「和むなあああ！」

天の声「だつて飽きたし」

ソウジ「飽きたらしいぞ？」

ショウイチ「飽きるな、作者ああああああ！」

士「変身1ターン限りいいんだからやつてみるか

Kamen Ride DECADE！

ディケイド「変身したはいいけど、このままで投げるのか？」

海東「いや？ FARしてディメンションキックで球をぶっ飛ばしてもいいんだよ？」

ディケイド「壊れるんじゃないか？ この球」

海東「そこらへん大丈夫みたいだよ？なんか仮面ライダーがいっぱいいる街の天堂ソウジにそつくりだけどその街の天堂ソウジと性格が思いつきり違うワームとそいつの漫才の相方で、芦川ショウイチに似ている鬼が共同でつくった球らしいから」

ユウスケ「なんでわざわざそんなところから！？」

ディケイド「大体分かつた。詳しく知りたいやつは『おいでよライ

ダータウン！』で検索だ！」

ユウスケ「何気に宣伝！？」

ディケイド「物は試し、やってみるか

Final Attack Ride D E - D E - D E - D

E C A E D！

ディケイド「はあ――ツ――！」

ばこーんと弾け飛んで行く球

少し軌道はそれたが、そこは風圧でどつにかなり
がこー――ん！

ストライク――！

ハッピーバースデイツ！！

士「いえーい！」

ユウスケ「いえーい！」

海東「だけどよ／＼ポンのところまで行つたね。ノーハンだと…」

海東が指を刺した方を見る。

そこにはカズマが○ｒＺの状態で死んでいた。ちなみに球を投げた（というか蹴り飛ばした）芦川ショウイチだった。

(どうか跳り飛ばした) 芦川ショウイチだつた。

仕方ないのでソウジに翻訳してお

ソウジ「『荒川ショウイチさん』アギトのグランジホームになつ

「おでんの汁の味見しながら
超金力士下座

カズマ「うん、一球（無傷）を抱えながら放じ

士「球強度強ツ！？」

シンドジ「いやそれ畢々……ホッ」おでんの卵を箸で掴みながら投げる

ユウスケ「何故投げたー！？」

コントロール良過ぎじや無いか!?」

カズマ「モグモグウマーーー！」
復活

ユウスケ「カズマ何者!?

シンジ「カズマね、おでん（ソウジさんのならなら良し）の卵が大

好物なの

士「それカズマ復活理由になるか！？」

カズマ「うえい・うえい・うえい！」

ソウジ「『カズマにもっとライフナジャー（おでんの卵）をー』分かつた、分かつた、はい」

カズマ「ウツマーー（ ）、（ ）、（ ）」

伊達「カズマ、イマドキの子にしては強いねえ。ステキッ！」
後藤「伊達さん、感心しないでカズマを一応診察してもらわせんか？」

伊達「オッケイ、後藤ちゃん、任せときな（ ^—^o ）」

（ —— 診察中 —— ）

伊達「うーむ……」

ショウイチ「かつ、カズマは！？」

伊達「…あのな…」急に眉間にシワ

ショウイチ「まつまさか…」

ユウスケ「かつカズマ…」

伊達「…このボーリングの球、隅からすみまで見回ったけど、どこにも傷が無いんだよね～」

ドタバタガシャンドンガラガツシャンーーー！

全員（おでん屋とおでん喰つてる人除く）がこけた。

後藤「違います！カズマの方です！」メガダブリュー構える

映司「ちやんと診察してください……」 ディエンドライバー構える

海東「いつの間に僕の『ディエンドライバー』を！？」

全員（（（映司、泥棒になれるんじやないかな？ 淫腕の）））

伊達「診察ちやんとしたつて！ ま、器具が少ないから完全にとは言えないけど、目立つた怪我、身体内部への影響は無かつたよ」

全員「「「良かつた」」」

翔太郎「いや、よく無いだろ！ 逆に怖いわ！」

シンジ「カズマだから許されるんじや無い？ 一説にはカズマは拳銃の弾さえ貫通出来ないらしいよ？」

リイマジ全「「アンダニヤーモー！ ヤンディスカー！ ？」」

残り全「「「ウソダンドンド」「ゾーン！ ！」」

カズマ「うえい！ ？ （。。）」

ツバサ「大波乱としか言えない混沌！ ！ そして進む気配の無いボーリング大会！ 果たしていつ終わる！ ？」

天の声「。。。。」

六枚目 親交を深めよう！ボーリング大会其の五

今までのあらすじー、

ま、ぶつちやけ、ボーリング大会やつてます。

翔太郎「手を抜くな、作者！」

芦川・剣立事件のあと、

芦川が切腹しようとしたり、

大智がまたクウキ発言してユウスケライアルに殴られて天井に突き刺さつたり、

伊達さんがいなくなつた（原因トイレ）ため後藤と海斗と天の声が取り乱したり、

ユウスケがライアルで球を投げたらボーリングの機械が壊れたので違うレーンにうつつたり、

Wがジョーカーエクストリームで球を蹴るうとしたらサイクロンの一撃だけで吹っ飛んで、メインの翔太郎が落ち込んだり、辰巳シンジが寝たり、

天堂屋アシカボーリング出張店が予想外の大盛況だつたり：

ま、とくに何も無いまま「ゲーム終了」。

翔太郎 + 士 + ショウイチ + 大智 「問題ありすぎだろおおおおお
おおおお！――！」

天の声「誰につつこんでんだ？」

Wショウつかだい（ようするこたつきの四人）「「「いや、お前が書いたナレーションだよーー」「」」

と、まあ、ツツコミ病患者達「「「ライ！」」「」

ツツコミ病患者達「「「ライ！」」「」

長い、長い1ゲーム目を終え、みんな一度休憩をしていた。

士「中間発表とか無いのか？」

ツバサ「ないですよ？」

士「普通あるんじゃないかな？」

ツバサ「相手がどんだけ点をとったかモヤモヤしながらプレーしゃがれの方針です」

いつもならここで「そんなのありか！？」だの突っ込みが飛ぶが：

士「あ、そうなのか」

ユウスケ「士がおかしい！？」

結局ユウスケがつつこんでいた。

士「いや、もう、突っ込む気力がない…」

ユウ Wショウウ大「頼むからツツコミに戻つて！！」

ソウジ「とりあえず、おでん食つか？ 気力回復に

ユウスケ「ソウジさんのおでんの効用すげっ！」

ソウジ「ははっ… そんなに万能じゃないさ。ただ、体力及び気力回

復、傷回復、戦いのコンディションUP、運UP、不運ダウン、力ズマなら半死から蘇る、シンジなら睡眠効果、ショウイチなら六割

の確率でドM化、あと、そうだな、恋愛が成就する「

ユウ翔大「「「：万能超えてる！！」」

ショウイチ「 つてか俺への効果最悪だああああああああああああ——！」

! ! !

モモ「頼む、良太郎のために作つてくれ、いや、作つて下さい！」

伊達「相変わらず、美味しいなあ……」

「アーヴィング、アーヴィング、アーヴィング！」

ノルマニヤの前回に於ける「風引矢」の「風」

親伊達組（海斗、後藤、天の声）「　」
ヤメテ！ヤメテ！？

映司「気にならないほうが勝ちだよ、大智。」

伊達一 でもさ、おでんはいろいろな具材があって、みんながみんな輝くように作るもんだろ？」

ソウジ「天堂屋の味は家族の味。他ではマネ不可能な最高調和の味だ。この3つが減つても増えても成り立たないんだ」

「あ」の二音節化

士「ああ」

ショウイチ「全員退避！…退避せよ。」

全體「」「」「」

ボツ（これ以上言葉に言い表せないので脳内でご想像下さい）

伊達「 意識不明
ソウジ「 意識不明

大智「…とつあえず、起^レしそうか
シンジ「だな。ソウジさん、おでんが煮えたぎります」

ソウジ「はつー?」

大智「伊達さん、具だくさんおでんをやうじさんが作ってくれる
そうです」

伊達「おでん!..」

士「いや、無謀な約束だろ!..それ!..」

海東「それでも無いみたいだよ?」

ユウスケ「なんで?」

海東「あちらを^レ覽下せーい」

全員海東がしめす方を見る。

そこには…

天道「俺は天の道を往き総てを司る男だ」
津上「いひですかー!..ソライマジの皆さんがいるのは」

全員「「「またまた来たあああああ！」！」

士「しかも何気にオリジの料理上手二人だし」

ユウスケ「何気にリイマジでは三十路コンビだし」

大智「何気に津上さんあげぽよだし」

ショウイチ「アギトが2人いいい！？」

一人、悲鳴のような物が聞こえたが、彼らが、ここにいる理由はすぐ分かつた。

ツバサ「あ、やつと来た」

全員「「「またお前かああああああああ！」！」」

またしても犯人は大智の父親が科学技術の粋を集めて作ったロボット…又の名を歩く人知を超えた爆弾といふものの仕業であった。

フィリップ「君達、オリジナルのかブトとアギトだね？ちょっとまだくさんおでん作って欲しいんだけど」

天道「ああ、わかった。おばあちゃんが言っていた…人に頼まれた限り、全力でもてなせと」

津上「じゃ、ウチの畑でとれた野菜を！」

つかユウ W ショウ「「勝手に話まとめるなーしかも用意良すぎー」

「」

こうして、天道と津上の二人がおでんを作る事になった。

ちなみに天堂屋はソウジさんの懸命な努力でいまだ健在である。

ツバサ「次回はボーリング大会一回脱線します」

全員「「「え…！？」」

七枚目 海海コンビと大喜利とフローダム

海東「えーっと、第一ゲームは現在進行形で行われているんですけど…」

海斗「1ゲームでみなさん疲れ切ったためあまりに単調過ぎるので今日は簡単な大喜利をして逝きます」

翔太郎「おい、また漢字が違うぞ！」

海斗「ルール説明」

海東「僕達がお題出すから答えていけばいい…」

全「「お前らは答えないのか…？」」「」

海斗「うん」

海東「出題が忙しいからね」

全「「せこひー！」「」「」

海斗「ちなみにいまのボーリングのチーム継続！」

海東「最初は座布団がわりのピンが五個あるからそつから大喜利ル

ールで増えたり減つたりして一番多いチームの勝ち！」

海斗「一番少なかつたら…ふふふふふふへへへへへ…」

全「「なんかあいつヤバイ…」「」「」

海東「最初のお題はこれだ！」

お題・「これ絶対倒せないだろ！」「思わず誰もがそう唸るピンは？」

士「おっしゃあ…」

海東「はい、士」

士「全部のピンがアフリカゾウ！」

海東「…」

海斗「…」

夏海「…」

ユウスケ「…」

アスマ「…」

ワタル「…」

ショウイチ「…」

カズマ「…チーズ…」

モモタロス「いくらなんでもなあ…」

ソウジ「…」 ポタージュ作りながら

シンジ「…」 おでん食べながら

士「何故黙る！？」

ユウスケ「若干名あやしかつたが…」

翔太郎「とにかくそれでイケると思ったお前がスゴイわ」

海斗「ツバサ、2ピン持つて行きなさい」

ツバサ「3ピンだろ」 持つていく

士「ウソだろ！？」

リュウタロス「はい、はーい…！」

海東「はい、リュウタ」

リュウタロス「先頭のピンが和田アキ子！」

翔太郎「たつたしかに倒せない…ってか投げられない…」

海斗「ベターだけどなかなかだな、1ピン獲得」

ツバサ「はいはい」

リュウタロス「やつたー！」

大智「あ…思いついた」

海斗「はい、大智」

大智「…ピンがソウジさんのおでん…」

士「無理だ〜！死ぬ覚悟無さや無理だ〜！！」

ショウイチ「それするとわつその伊達以上になるぞー。」

海東「1ピン獲得」

ツバサ「…ピン運びダルいな」

映司「あ、はい！」

海東「はい、オーナー」

映司「…キヨちゃん×100がいる」

翔太郎「不気味！！」

映司「さらに真木博士がキヨちゃんを制作している」

士「怖えつ！」

海斗「確かに投げにくいな、俺なら投げるけど、1ピンかな」

ソウジ「ん！」

海東「ソウジさんどうぞ」

ソウジ「……おばあちゃん、Wハ代刑事、羽黒レン、チーズ、ヒビ

キさん、由里、良太郎、オトヤがピン」

リイマジ全」「つぐつ……！」

士「あーと、これは大ダメージだな」

海東「多分これに勝る解答は無いよね」

海斗「ソウジさん3ピン！」

海斗「次のお題はコレ」

お題・フォーゼがスイッチ・オン！しかし誰もが驚愕！？その武器とは？

カズマ「あ、はい」

海斗「どうぞ」

カズマ「全身にシンケ ジャーの大きいなる力が...」

ショウイチ「仮面ライダーとの夢の共演！？」

士「いや、それは俺がしたぞ」

シンジ「真っ白がゴチャゴチャになるね」

タクミ「つていうか何故シン ンジャー限定！？」

カズマ「なんとなく」

海斗「でもあんまり面白く無いから、1ピソね」

カズマ「うえーい」

後藤「はい」

海東「はい、バースくん」

後藤「メダガブリューを足に装着

士「なんでそこー？」

映司「さらにシャウタのウナギムチを両手装備ーー！」

全「「「ヤメテ！？」」

海東「あーーとここれはエグい！」

海斗「2ピンかな

津上「なら、はい！」

全「「「あんたも参加してんのー？」」

海東「ちなみに得点は津上チーム（津上、天道、田高、紅渡）に入
るよ」

ヒビキ「よう、青少年達シユツ」

渡「お邪魔しまーす」

全「「「いつのまに呼んだー？」」

津上「とりあえず、答えますよ～

海東「はい、アギト」

津上「… まな板とー、包トヒー、フライパンヒー、おたまヒー…」
士「調理グッズー？」

津上「フライ返じヒー、ボウルヒー、鍋ヒー、皿ヒー、菜箸の…」

調理器具コンピューター…」

……。

全「「「はー?」」」
津上「え?だから調理器具コンピューターですよ」
士「… 大体分かった、フォーゼゼビティケイドコンピューターフォーム
を勘違いしてるな?」
津上「あ!?違いました?」
海斗「でも面白かったから3ピン!」
津上「やつたー!」

海東「次のお題は「?」

お題・おもわず破壊者も驚愕! もやし達が訪れたまさかの世界は? .

士「 ちょいまでー!」
アスマ「こめわいもやし発言! ここでも意味無こと思こます」

ワタル「これ、なかなか難問じゃ無いですか？」
フィリップ「どんな風に驚愕なのが重要だからね」

全「…うん…」

ツバサ「なかなか答えが無いから次回までの宿題ね」
士「次回もこれかよ！？」

ソウジ「そ、い！」「
ガコンガコン！」「
スペア！」「
ハッピッバースディッ！」「
全」「あ、主忘れてた」「
ショウイチ「つてかアイツフリー・ダム過ぎるだろ…」

八枚目 火野映司の火野映司による火野映司の悲壯

前回のあらすじ、大喜利なう。

海東「みんな、宿題を各チームひとつ提出してね！」
全「「え！？発表形式じゃ無いの！？」」

海斗「…いやならいいよ？ただ、従わないとコレだから…バン」
G - 01ショットで鳴滝撃つ
鳴滝「おのグフウ！？」即半死
全「「出します！出させて下さい！」」
大智「…みんな腰低いな」事情を予め聞いていた人
麻衣「…海斗すごい…」

海東「ちなみに彼らが作品を出してくれたよ！」

もやしチーム…光夏海
リュカブチーム…辰巳シンジ
学生チーム…尾上タクミ
イマジンチーム…モモタロス
オリジンチーム…津上翔一
ダブオーチーム…火野映司

士「ちよいまで、火野達のチームの略がガン ムみたいだぞ！」
ユウスケ「…それよりもヒビキさん達が来た意味なかつた件について…」

翔太郎「そんなユウスケはあちらを『』覧下さい」
ユウスケ「へ？」

アスマ「」の前武者童子がでまして…」

ヒビキ「あー、ややこしいかったでしょ？」 鮎の塩焼き作りながら
アスマ「やっぱり童子とかは攻撃しにくいですよね…人間みたいな
形で…」 薪追加しながら

ヒビキ「だよね…ところで、紅にはなれるの？」

アスマ「絶賛修行中です！」

ヒビキ「来年の夏までに出来る様にした方がいいよ？少年」

アスマ「はい！あ、そういうえば…」

翔太郎「…鬼同士、意見交換をしています」

ユウスケ「…鮎の塩焼き…焚き火…平和だな…」

翔太郎「だな…」

伊達「渡くん、どこが勝つかなあ？」

紅「そうですねえ…翔一爆弾でしようかねえ…」

後藤「いや、津上は爆弾じや無いですよ？」

伊達「そういう後藤ちゃんは？」

後藤「…タクミくんは普通に面白いと思いますが、あえて辰巳シン
ジで」

紅「なら伊達さんは？」

伊達「俺モモにしようかな？」

フイリップ「どこが一番面白いと思つ？ねえさん」

若菜「うーん…ヒビキさんは発表しないかな？」

フイリップ「…ヒビキさんは発表しないよ？」

若菜「あつそつか！ごめん、火野映司と間違えた！」

士コウ翔「…「どこをどう間違えた！？」

芦川ショウウイチは投球のためつっこみませんでした。

海東「ちなみに、素点は僕たちが決めるけど、今回のお題がお題だから門矢士特別点として、士の心を掘んだ作品はプラスあるよ」

士「そう言つ事だ、せいぜい頑張れ」

もやしチーム以外「「セコイセコイ……もやしチームへの覇廻禁止止……」」

海斗「……ちなみに明らか覇廻だろつて満場一致の場合もやしチーム問答無用で最下位だから」

海東「まず、ナツメロン、逝つてみよつ」

夏海「夏海です！！！」

海斗「とりあえず答えお願いしまーす、時間無いんで」

夏海「はい、これです」

答え・ついた瞬間性別的な意味で男女逆転世界

士「ぎゃああああああああ！」

ユウスケ「いやああああああああ！」

海東「……僕が…女…！？僕が…僕が…僕が…ONNA…！？」

O N N A

夏海「何故そんなに萎えるんです！？」

ソウジ「……なら、夏海くんのお祖父さんはおばあちゃんか…」

ショウイチ「なんでおまえ知つてるんだ？」

ソウジ「クロックアップの世界にいた時にたまたま光写真館に入つて「一ヒーご馳走になつたんだ」　ちなみに現在ダイキによつてクロックアップの暴走が止まつた

ショウイチ「ライダーフォームで？」

ソウジ「それ以外にどうやってクロックアップの世界にいろと？」

ショウイチ「いや、何故コーヒー飲めたんだ！？」

ソウジ「ははは」超満面の笑み

ショウイチ「もういいや」

海斗「…色々な人が崩壊したから2ピンで…」

海斗「次、シンジさんお願ひしまーす」

シンジ「了解しましたー」黒い笑み

答え・おんりーもやしばたけ

士「…」○rn

ユウスケ「…ああ、二人目にしてトドメ入ったな、士」復活

海東「僕が…」引きずつてゐる

大智「…海東、お前単獨行動出来るんだからその時だけ違う世界に行けばいいだろ」海東の介護担当

翔太郎「もしし畠つてことは常時夜つて感じだな…」もつ眠い

カズマ「翔太郎、眠い時はソウジさんのおでんだよ！」半熟卵食べながら

ショウイチ「どうしてカズマ、心が読めたんだ！？そしてお前の dendanはどれだけ万能なんだ！？」叫び過ぎて喉痛い

ソウジ「ははは」相変わらず満面の笑み

海斗「とりあえず一ピン」

シンジ「ええ～」

海東「次、ファイズくんね」復活

タクミ「名前覚えて下さいよ…」

答え・仮面ライダーがペットの世界

翔太郎「…実は、士が女になつたり、仮面ライダーがペットな世界つて存在するんだ…」

タクミ「本当ですか！？」

士「俺限定かよ！？」

映司「うーん、少なくとも、あのペットは…色々と怖い…だが、可愛いいいいいい！」

後藤「おい！火野？火野おおおーー？」

アスム「あと、士さんは女になる事に抵抗皆無ですし…」

士「大有りだ！！」

海東「とりあえず、これは1ピングで…」

タクミ「すいませんでした…」

大智「まあ、気にするなつて！」

介護担当

海東「じゃあ、イマジンくん！」

モモタロス「モモタロスだ！」

答え・

全「…」

モモタロス「…」

全「…」

モモタロス「…」

全「…」

モモタロス「違う！端つー」「端つー」

海東「ここかい？えつーと？」

答え・この世界

士「…うん、すごい分か」

海斗「ちょいまて？」

ツバサ「この世界？」

大智「俺たちを否定する気が？」

麻衣「…あんまりだよ…」

モモタロス「え！？ちょっと…あのう…」

ツバサ「そんなに否定したいのなら…」

：準備中です。しばらくお待ち下さい

海斗バース・デイ「ははははは？」

ツバサ電王^{プラットフォーム}「ふふふふふふ？」

大智歌舞鬼「…」

士「何故この世界のライダーを使わない！？」

翔太郎「つていうかあのロボット何気ライダー史上最弱と言われた電王の最弱のプラットフォームだぞ！？」

海東「しかもデングガツシャーは何故かモモソード…？」

ユウスケ「……！」反射的に尻押さえる

夏海「…ユウスケ、ドンマイ」

カズマ（何故大智は歌舞鬼に？）ヒソヒソ

アスマ（正直、あの無言の歌舞鬼が怖いです…）ヒソヒソ

タクミ（大丈夫、アスマくん。僕も大智が怖いから…）ヒソヒソ

ワタル「ヤレヤレー」

ショウイチ「なに言つてんだあああああ！」

シンジ「ははふふん？はふはひほへはへはほ」卵類張りつつ

ソウジ「ワタルくん？流石にそれはダメだよ」と言つてる」卵

追加

ツバサ電王PF「覚悟しやがれええええ！」

モモタロス「きいやああ

現在放送「コードに」とくひつかかる事が行われています。しばらくお待ち下さい。

シンジ「ただ待たせるのは悪いからカズマが一発芸しまーす

カズマ「聞いてないよ！？それ！？」

ソウジ「……ハイッ！」

ショウイチ「やるのはいいんだが…W回しみたいな読者の皆さんに分かりづらい一発芸はやめろおおおおおお…！」

海東「……。」
夏海「こいつ怖いです……」

海斗「気を取り直して、続いては津上翔一さんです……」超満面の笑み！

津上「これです！バン！」負けじと超満面の笑み…
答え・平和すぎて気分悪くなる世界

士「あー、逆に！？パターンできたか～」
ユウスケ「でも平和が一番だよ」
夏海「そうです！そうです！」
ツバサ「だよね！だよね！」
全「お前が言つたな！！！」

海斗「……オマケで1ピソ」

海東「最後は…オーブくん……」
映司「OK セイヤー——！」
答え・戦時下

士「ああ！？映司らしい……」

海斗「たしか紛争に巻き込まれたんだっけ？」

海東「そして、目の前にいた一番仲良くなっていた子を助けられず…
手を伸ばされずに親が金で解決してマスク//では『政治家の息子が命懸けで村を守った』と語られ、利用され…」

夏海「可哀想です……」 哭泣

ユウスケ「夏海ちゃん…ぐすり…涙はなにもすぐれないよ…」
上に同じく

紅「そんなことが……」　上に同じく
天道「なんてことを……」　例に漏れず

映司「ははは……そうだよ……ああ……」めん　ちょっと書き直す……」

答え・戦時下、降りたつて現地の人から人の温かさに触れ、その後
戦闘に巻き込まれ写真館メンツ生還

士「やめろおおおおおおおお……」

後藤「火野！やめろ！もうその傷を抉るなああああああああ……」「
ショウイチ「お、おい！！早く精神安定剤（と書いて高見大智と読
む）と一緒に退席させろおおおおおおお！」

タクミ（というか何故火野さんは付け足したがるのでしょ？…）

ヒソヒソ

シンジ（付け足したがための大惨事）　ヒソヒソ
カズマ（とりあえず、次、シンジ投げてね。ボーリング）　ヒソヒソ

大智「あ、次、俺だ」

ユウスケ「そんな暇あるかああああああ……」

（～～～大智と映司、退出（大智の代わりに伊達さんが投げました）
（～～～

海斗「…映司さんの…重過ぎるよ……」

海東「…三[ピ]ン…否…5[ピ]ンにしよう…療養費として…」

士「いや…映司は…入院とかしてないから…ってか、この特別点1
0[ピ]ンをオーズチームにあげてくれ…」

海斗「…次回、結果発表します…ボーリングも…」

九枚目 うふふな結果発表

前回のあらすじ：つてか結果、火野映司、乙。

~~~~~

「お行がたれ、絶景発表が子、」「」「なんか増えたああああああ！――！」

士「その通りだ、ナシミカン—ナシミカンならナシミカンらしく柑

海東「違うよ、士一ナツメロンだよ。」

夏津  
夏津二三事

麻衣「あの？そろそろ結果発表初めません？」

大智「と、いうわけだ、は

演義

海東一ちなみに発表は一位と最下位のみだよ！あと、大喜利の方は僕達はチームに属して無かつたから、優勝賞品も罰ゲームも無しだ

10

海斗一 ます、大喜利第一位！…オーラス&Wチーム！！！」

タノ木「チー！」……………」

海東一代表 左翔太郎 前にでてきたまえ

麻衣 ここで、表彰する人の発表を行います

ワタル 新番組、仮面ライダー「フォーリーゼ」より… 歌星賢吾さんです！

全「「おおい！そこは如月だせよ！…」」

賢吾「…俺じや不満だと？よし、一位剥奪、全員罰ゲ」

全「「ヤメテクダサイースイマセン」シタ…」」

―――とつあえず、賢吾の気分を（おでんを使って）直しました  
―――

賢吾「表彰状、オーナー＆チーム。あなたがた（中略）…よつて  
ここに表彰します。 歌星賢吾、如月弦太郎、城島ユウキ、鴻上」  
士「なつ長かつた…」

ユウスケ「表彰だけで一十分とか反則…」

ショウイチ「どうせ、読者の皆様は中略で俺たちの苦しみわからな  
いんだろうな…」

シンジ「え…そこの…？」ヒドイ…」

カズマ「眠い…」

タクミ（最後の署名？にはつゝこまないのかな？）

アスマ（みなさんHPですか…）

ソウジ「なかなかいいこと言つてたな…」

全「「そう思つてるのはアンタだけだ…」」

海斗「ちなみに、ダブオーチームには、副賞として…」

誰か一人を爆発させる権利が『えられます』

ダブオーチーム以外「…ちょっとまでええええい…！」

後藤「…とりあえず保留」

映司「俺も…」復活

照井「今使う予定ない」

翔太郎「にしてもコレはありなのか？」

海斗「アリです！」

全「「「なしだあああああ！！！」」」

海東「最下位はもやしチームだよ」

海斗「優勝したんだから、この権利くらいあります！」

全「「「フツウ金とかだらおおお！！！」」」

海斗「ありー（現在論争中です。しばりへお待ちください）。何度もお待ち頂いて誠に恐縮です。）

士「ゼーゼー…とりあえず、最下位は？」

海東「さつきいったよ？」

ユウスケ「何時の間に！？」

夏海「もう一度お願いします！」

海東「さ、次はボーリングだ」

全「「「ちょっと待つてよ！？」」」

海斗「はえあるボーリング第一位は…

ダブオ「

ダブオーチーム「「「おお！？」」」

海斗「一チームは3位で…」

ダブオーチーム「「「ガクツ！？」」」

士「まあ、二つも取りやがつたら流石にやり過ぎだよな  
海斗「第一位は…！」

「ぐ…」

学生チーム「おおつー！」

海斗「せいチームは一位だから」

学生チーム「ぐく・く・く・く」

海斗 - 第一位はあ！！

イマジン

ミシマ＝ムラカミ＝」

イマジノチーフ

士「そろそろ発表しろよ！！」

海シ・第一位は!!!!!!

龍&虫

毎斗「チームが一位

龍&虫チーム「…がつ…く?」

二 いヤ 桑森レニレニモハルカリ

一一一

卷之三

「カスケ、『やつちよつと書く』が何よ？」

麻衣「代表として年長の芦川ショウイチをーん？」

「タレ」 土上ひかる  
著

ショウイチ「いや、無視かよ！？」

アスム「…」

タクミ（どうしたの？アスムくん）

アスム（いえ、あの人…歌星さん？今にも吐血して倒れそうです）

タクミ（え…？）

賢吾「表彰状…グフツ！…ぐはつ…ひつ…！」 吐血、意識不明

ショウイチ「ちよつ！誰か救急車！！救急車呼べ！！」

キヤーキヤー…！

アスム（…ピンゴ）

タクミ（アスムくんスゴイ…といつか、救急車呼んでおこうか…）

アスム（…是非お願ひします。多分誰も通報しないでしょ…うし…  
僕は携帯無いですから…）

伊達「ピーポーピーポー」

全「…ふざけるなよつ…！」

親伊達組「…でも伊達さんはお医者さんですが？」

カズマ「だてえしゃん、おいしゃしゃん…！」

シンジ「思いつきり嘔まないでね？カズマ」

カズマ「うえい」

伊達「…というわけで、任しちゃな」

…とつあえず、伊達さんに簡単な応急処置と診察をしてもらひこ

ました――

伊達「これは……やつぱ病院にいかないとな。点滴がいの」

全「「「結局かい……」「」」

ピー・ポー・ピー・ポー！

翔太郎「おい、誰だ？ 気が利いたやつ」

タクミ「あ、やつと救急車きた」

全「「「流石携帯電話で変身するライダー……」「」」

―― 賢吾搬送のため表彰する人は天堂ソウジになりました――

全（（（なんでソウジ（さん）？あの人も表彰される側だろ？）））

ソウジ「表彰状、龍＆虫チーム。以下割愛。おめでとう」

全「「「略したあああ！！！」」」

ショウイチ「あつありがとう…？」

アスマ（そりやそうなります）

大智一（誰だよ、ソウジさんを壇上にあげたの…）

海斗（…ツバサ？）

タクミ（…またですか…）

海東「優勝した君たちには…」

とりあえず、次の次の回の企画を考えてもいいつー好きな様にしたまえ！」

士「え！？たつたそれっぽっちかよ！」

カズマ「うーん…『カズマのお料理教室』は？」

士「却下。どうせならソウジがしろ」

カズマ「チーズうつさい」

シンジ「けど確かにそうだ…なら…『パーフェクトレンさん教室』…？」

士「それに興味あるのはお前だけ！」

シンジ「士、口出し無用」

ショウイチ「うひむ…『隠れた才能を見つけよう！超能力開は…』

ソウジ「そして、アギトの仲間を増やす気だな？」

ショウイチ「…ハイ」

カズマ「かくいうソウジさんは？」

ソウジ「『カズマのお悩み相談室』」

カズマ「うえい！？」

シンジ「あ、それならみんな納得だし、みんな幸せですねーー！」

ショウイチ「いや、カズマが困るぞ…」

ソウジ「ところで何故次回じゅ無いんだ？」

天の声「次回は宴会。とりあえず、このボーリングが辛すぎた」

翔太郎「ならなんでしたんだ…？」

夏海「愚問です、翔太郎さん」

士「とりあえず、最下位は…」

海東「先に罰ゲームいいまーす。

大喜利罰ゲーム…ウェイトレス姿で次回の宴会の裏方担当  
ボーリング罰ゲーム…ぶつ飛び！打ち上げ花火！

だよ」

海斗「そして最下位になつたのは…

もう発表したから次回、罰ゲーム決行」  
全「…ちょっととまてええええええええ…！」

フィリップ「これでボーリング大会は閉幕だ。次回から企画がコロ  
「口変わるけどよろしく！」  
全「…勝手にまとめんがああああああああ…！」

## 十枚目 ドタバタ耐戦スタート！（前書き）

――今日は大会お疲れ様という事で宴会に来ています。

：ただし、モモタロスは繩で打ち上げ花火口ケット一十個にくくりつけられて…

海斗一をひ、まづは打ち上げ花火をどうぞ

卷之三

キンタロス「千発の花火とモモなんて…泣けるでえ！」

54

ヒューバーン！

海斗「たーまやー」  
大智「たーまやー」  
麻衣「たーまやー」  
士「おーけやー」  
海東「つーかさー」  
ユウスケ「あーねさーん」  
夏海「つーかさーくん」  
ワタル「ヒーさーん」  
アスム「しーしょー」

タクニ「由里ちゃんと見たかつたな」

ダイキ(タクミ、長いな...)「ふーりんー」

エリカ「コーヒー」

ツバサ「いやあ、キレイだ」

カスマーチースー

卷之三

シテハナセテシテ

翔太郎「おーやつさん」

「花火」興味深いね……」

照井「あーきー」

鷗海「りゅーくん」

映言一ハーリング

万葉「バヌ」

伊達「おいで!!」

イメージズ「「「ばーいばい！モモタロス！」」

モモタロス「お前ら色々とおかしいぞおおおおおおお

- 1 -

## 十枚目 ドタバタ耐戦スタート！

――とこりかわつて宴会場

モモ打ち上げタロス花火のあとで、みんなのテンションはフォルテシモ+クレッシェンド状態

海東「…さて、ボーリング大会も終わつた事だしみんな、宴会といこう！」

全「「「いえーい！」」

海斗「ボーリング最下位のイマジンチームの花火、良かつたよねー！」

全「「「いえーい！」」

海海コンビ「「というわけで…カンパーアイ！」」

全「「「カンパーアイ！」」

みんながファイーバーしている一方…

士「…くそっ！なんで俺達がこんな事しないといけないんだ…！」

夏海「うぐつ…えぐつ…あんまりです…」

ユウスケ「士があなことー（七枚目参照）言わなければ…」

士が怒鳴り、夏海が泣き、ユウスケが愚痴る…ウェイトレス姿で。そんなかれらに…

シンジ「仕方ないらーん！賭け事に負けたんからー！」

カズマ「ちょ、シンジ！ビール一口でどんだけよってんの…？」

ベロンベロンに酔つたシンジがやつてきた。しかもカズマの言う事を信じればビール一口だけでこうなつたらしい…

シンジ「らいろーぶーおい！もやしいー！ビール大ねえー…！」

士「いや、流石にもうビールはやめろ…ビールは…！」

シンジ「じゃ、焼酎でいいやあー！」

士ユウ「『妥協案になつてない！』」

泥酔シンジ注意報発令した現場にユウスケが徐々に巻き込まれている一方…

ショウイチ「ナツカボス！枝豆と焼酎。ビールは飽きた」

伊達「ナツユズ！俺はおでんと焼酎ね！よろしく！」

ソウジ「…じゃあ、ナツグレープフルーツ、塩辛と焼酎。」

ナツミカン「何度も言いますが夏海…つて！なんで『ナツミカン』って書くんですか！！笑いのツボ！！」

天の声「あははははははは！」

オヤジ三人のおかげでナツメロ「夏海です！！」…注意報発令していた。

こんなに収集がつかないときは彼にカメラを向けるしか無い。

様々な注意報発令現場を見ていたその彼、

ハーフボイルドこと難波・ゲフン左翔太郎は、「なんでこん『翔太

郎！翔太郎！興味深いよ！！』なこ…」

翔太郎「だあ―――ッ！たくツ、フィリップ！俺がハードボイ

ルドに決めてるときに…」

フィリップ「そんな事どうでもいい。それより！とても興味深いよ！元々花火はね、死者の魂をともうう為に…」  
…検索バカに捕まっていた。

タクミ「…酒つてそんなにスゴイのかな…」

大智「…いや、あいつらがスゴイだけだ…」

麻衣「…ジュースで良かった…？」

アスマ「…もう何も言えません…」

ワタル「…いつてるじや無いですか…」

未成年組は絶句していた。

…（強制的に）笑わされていた天の声を除いて…

大智「とつあえず、俺らもはしゃぐか…それっぽくタクミ「じゃあ、マジカルファイズ！ファイズといったらケータイ！」

大智「…いや、何故にそれ？」

アスマ「ケータイといつたら機械！」

ワタル「機械と言つたらG3！」

大智「（まあいいや…）G3つたらクウガ！」

麻衣「クウガと言つたら…コウスケさん？あ、烏龍茶お願いします」

ユウスケ「俺と言つたらあねさんだよな…ちょっとまつててねー」

大智（何故にまじる？というかコウスケウエイトレスなれ過ぎ）

タクミ「あねさんと言つたら…あねさん？」

未成年同盟「「「アウター！」」

大智「いや、未成年同盟ってなんだ！？」

大智、麻衣、タクミ、アスマ、ワタル、天の声の総称です。  
海斗がいない？いやいやあいつは海海「ンビ」です。

映司「士ー！こつちにコレとアレとー」

後藤「それとこれを頼む」

士「こそこあぢで言つたな！大体分からんツー！」

映司「…ふーん？」　スイッチ見せながら

後藤「使う機会はないとおもつてたのだが…」　上に同じく

士「すいませんでした、爆発はやめて下さい」　土下座

コウスケ（もはや脅しを超えてる…）　烏龍茶運び中

海東「さて、よつた勢いでキャラ崩壊して欲しいね…」

海斗「……シンジさんが異様に早く崩壊しちゃったけど……次は……？」

? ? ? 「ははははは？」

? ? ? 「ちよつーやめてくれええええーーー？」

海海二ノビ、すぐ口に奇声が上かつた方を見る。そこには

の業切たああああああああああああああ!!!!」

を踏んでいた。

ノウジ「ん? シヨウサイチと游んでる

シヨウイチ「嘘をつくなああああああああああああああ！」

卷之三

## ワタル「ソウジさん！」

「アーティスト」の言葉は、要するに「アーティスト」の言葉

! !

しかし、ワタルの口からでたのは、とても子供とは思えない一言だった。

ワタル「なに面白そうな事を...どうせやるならシモウイチさんをベロンベロンに酔わせてからだで開発しましょう」

シナジ「税」叢書

… もはや誰にも止められないと

そう思つた矢先、先ほどまで寝て酔いをさましたが、また飲んで酔つたシンジが…  
シンジ「ああ、ソウジさんも飲んだ飲んだあ～」  
ソウジ「んむー？」  
全「あんたなにやつてんだあ……………」  
無理やりソウジに酒を飲ませた。

…あると

ソウジ「うぐう…うぐう…すまん…ショウイチ…」  
全「今度は泣いたー？」  
ソウジ「俺が…俺が変な事し無かつたら…ショウイチは…ショウイチは…」  
ユウスケ「いや、ショウイチさん生きてる…生きてしまふ…」  
ら、ショウイチさんもー！」  
ショウイチ「驚き気絶  
ユウスケ「ショウイチさん…」  
シンジ「あれ？ ショウイチさん死ーしたのー？」

全「「「お前のせいだ！混沌神ジ！」「」

翔太郎「つていうかソウジさんは！？」

ソウジ「…かくなる上は！…！」 包丁取り出し  
全「「「誰かあいつを止めるおおおおお…！」」「」  
ソウジが切腹をしようとM・Y包丁（もはや切れ味日本刀並）をとりだし、いまにも切ろうとした時…

大智「煩い、止める」 手刀

ソウジ「ぐふつ！」 気絶

全「「「ああ！ソウジさん！でもナイス大智！」「」  
伊達に甘酒を飲まれた大智が間一髪で止めた。

ソウジ「ん…」

海東「やれやれ、やつと目を覚ましたかい？」

ソウジ「…みんなは？」

海斗「俺と海東さん、ショウイチさんに、ユウスケ、大智とカズマ以外は写真館やTAKAMILAB（写真館メンツ以外はここで部屋を借りてます）に帰りました」

ソウジ「ん…あれ？俺の包…」

大智「これでしょ？はい」

ソウジ「ありがとう…と言つ事は、みんなに迷惑かけたみたいだなすまない」

ショウイチ「ああ…とくに俺にな…」

ソウジ「…すまない」

ユウスケ「とにかく、なんであんなに…」

ソウジ「ん？ああ、俺、酔いのレベルに応じて……なんというか、キヤラが変わるみたいなんだ……」

カズマ「つまり、酔った時限定多重人格？」

ソウジ「そういうとこかもしれない……えっと……どんなことやってた？」

ユウスケ「ショウイチさん踏んづけて、シンジに酒飲ませて、切腹しようと……」

ソウジ「ならレベル3くらいか……」

全「……まだ先あるの……？」

ソウジ「……」

ソウジは少し頷く。それを見た面々は、「ソウジさんにあまり酒を飲まないようこじょつ」そう誓つた。

そして、天の声は…

最終レベルが見てみたい…

そつねむつ「……思うな……」

## 十一枚目『カズマ』とこいづりつけ... (前書き)

天の声「ふう……やれやれ、ステージやつとかんせ……」

アカツキ！？

海斗「だつ大丈夫ですか！？」

天の声 -  
zzz . . .

「海斗争」：寝てる？

た」  
ノヨリソニテ  
アリモリ天の音教玄なズミ

大智「大丈夫だろ、雑務担当は」  
天の音「心二や心二や ハノ思ハト冒  
ニギイ

海ノヒシミヒ・ - - - - 「 面蒼白で大智見

海シ おで…い…か…」 漢字をハな題  
ソウジ「…理由は…い…んだ。 言わなく

大智「ちがああああああああああう！……！」

## 十一枚目　『カズマ』とことわせつけ

「」はTAKAMILAB食堂。

カズマ達に呼ばれて士達（オリジ勢や照井やイマジンズは元の世界に帰宅、後藤+伊達は観光、フィリップは検索、ロボット達は整備や料理中で不参加 モモタロス？今さらどうだらうね）が集まつていた。

士「なにが始まるんだ…？」

夏海「カズマのお悩み相談室…って感じじゃなさそうですね…」

ユウスケ「ここんとこカズマのやつ、ゴソゴソ何かしてたしな…」

ピカ――――――

海東「あ、仮設ステージが光だしたよ」

ボン！

カズマ「レディース・ヒーラー・ジョントルメイン…」

シンジ「…本田は、お集まり頂きまして誠にありがとうございます」

カズマ「今回の司会、進行を担当する剣立カズマとー」

シンジ「…辰巳シンジです。どうぞよろしくお願ひします」

シンジ「いえ、緊張ではなく、司会を務めさせて頂く以上、適当にすますのは如何なものかと思います故…」

ユウスケ「いや、シンジがそつだとカズマがかなりやりこくそうなんだ」

カズマ「シンジ… m」

シンジ「…カズマ…じゃ、いつも通りで司会するよ

カズマ「うえい…」

カズマ「とりあえず今回は「mをします！」

ソウジ「…「m?…触った感じは紙?プラスチック?で臭いは…む…厨房の臭いと…校長室のような臭い?」 田嶋ししながら「いや…シヨウイチ「分かった!カズマのラウズカードだ!」

翔太郎「…つまり手触りクイズに臭いも混ぜたクイズか?」  
カズマ「そういうこと 箱の中にある何かに手を突っ込んで臭いをかいんで周りの人があえるってわけ」  
シンジ「ちなみに優勝とか無いから自由に楽しもつー。」

大智「…海海コンビの企画より気楽で楽しそうなんだが…」  
麻衣「これから当分カズマさん達が企画して下さい」

士「賛成する」

海海コンビ「… o r n 「

カズマ「それでは第一問!触る係りはあみだくじで海東に決まったよー!」

海東「うつうわあ…うわあああ!」 中々手を入れない

シンジ「早くしろー企画倒れになるー！」

海東「うわああああああーー！」

ガツ

シンジ「…」 海東の両腕掴む

海東「え？」 田隠しで何が起こったか分からない

シンジ「……！」 海東の腕を無理やり突っ込む

海東「ぎやああああああーー！」

シンジ「どーだ？早く触り心地をいえー！」

海東「ぎやああああああーー！」

翔太郎「…シンジ、ちょっとどいてろ」「  
シンジ「？」 4m下がる

どつかあああああああああんーー！

海東「炭

アスマ「しょおおおおおおーー！」

海斗「海東おおおおおおおーー！」

シンジ「あ、そうか、翔太郎さん達爆発権があつたつけ？」

翔太郎「ただしコレは帰った照井のやつだがな

全「…」 もはや寒気しかしない

カズマ「役立たず海東の代わりにアスマがやつてるよ

アスマ「んー…布？で、穴が三つ…」

海東「なんだ…ナマコじや無かつたのか…」 復活

海斗「あれ？ナマコ嫌いは士さ…」

士「本当の設定では海東だつたんだが、海東の中の人気が無理やり俺に設定を押し付けたんだ」

大智「メタ話はやめましょ」 背後にウヴァ 完全体オーラ

海海士「「「ハイ」」」

映司「怖い！そのオーラ怖いから止めて……」

アスム「で、臭いは…少し塩素臭い…で、あと砂漠やら街中やら森の中やらの臭いが…」

ワタル「そんなに沢山の場所を巡つていて…」

タクミ「洗剤でなく少し塩素臭い布つて」とは…」

映司「……」

ワタク「「映司さんのパンツ！」」

カズマ「当たり～！」

映司「ばれないように丁寧にあらつたのになあ～…」

シンジ（丁寧に洗つたからこそ…だね）

麻衣（あと、アスムくんの嗅覚なめてはいけません）

提供した人

シンジ「続いて第一問…今回は士がやります…あと、触る係りは今後触れるだけにしてね！」

全「「「つい一す」「」」

士「うーん…まず、第一感触、きびつてるとかちよつといい生地の布だ。キザな奴だな。あと不思議な形に固められていくよつだ」

翔太郎「……」

ユウスケ「ちょっとといい生地…ファッショングの趣味があるのか…？」

アスム「うーん…ファッショングにこだわりがあるといえ…士さん、翔太郎さん、照井さん、フィリップさん（？）、で、如月さん、海東…そのうち違つるのはフォーゼくんと、おそらく士だらうね」

大智「問題は不思議な形…だな。パツと思いついたのはショウイチさんなんだが…」 黒い笑み装備

ショウイチ「何故だッ！」 舞台裏から登場

大智「純粋になんとなく」 黒い笑み満開

ショウイチ「なんとなくで決めるなあああああああああああああ…」

士「で、臭いは…ホコリ臭ッ！…洗濯なりなんなりしろよ…きびつてるクセによ！！あと無駄に「コーヒー臭い…」田隠ししてても分かる苦悶の表情

麻衣「コーヒーってことは接客業でかな？」

海斗「しかし、もう接客業のソウジさんはおでん屋で多分違う。タクミくんはアルバイトであるだろうが…」

タクミ「僕にきどった生地で不思議な形の布類はありません

大智「いや、接する…でなく、よく飲む人と仮定したら…真相は見えてくるだろ？」 分かつた人

アスム「…照井さんに翔太郎さん？」

ワタル「で、きどつたちょっとといい生地+不思議な形の布…あつ…」

アスム「分かりました！」

タクミ「なるほど！」

アスワタク「…翔太郎さんの帽子…」「…」

カズマ「あつたりいー！」

翔太郎「はつはつはー、さあて、士？お前の罪を数えろ…」 口しか笑っていない

『ジョーカー』

士「なつなんのことだ！？」

『マキシマムドライブ』

ジョーカー「はあーーーっ！！！」

士「ぎやあああああああ

ユウスケ「多分、一言多いから…だな」

カズマ「第二問…今日は映司にやつてもらひよー！」

映司「えつと…コレは…何か棒?なんかゴシゴシしたのもある…」

海斗「音撃棒・烈火」

カズマ「はやつ！」

シンジ「でも当たりなんだよな」

アスム「…というかいつの間に！？」

ソウジ「俺が拝借した」「舞台裏から声

海斗「つてかこれは分かりやすい」

カズマ「まあ、そうだね」

シンジ「勢いで第四問！今度は大智担当です」

ユウスケ「そういうえば今日夏海ちゃん最初以来喋ってないな」

士「ナツミカンの事だ、そこらへんぶらついてるんだろ」

大智「…それがこの箱に入つてるとしたら?」まだ目隠ししている

タクミ「うわ、なんか今度は車輪付き!？」

ワタル「サイズが違います！」

アスム「つて言うか確実動いてますよー？」

大智「いや、もう夏海だろ?」

カズシン「…チツ！」

全「…ライー！」

夏海解放

夏海「さつ最悪ですか…」

麻衣「…ドンマイです…大智、私夏海さんの介護してくれる

大智「分かつた」

——夏海、麻衣退出

カズマ「さあ、盛り上がってきたところで最後の問題はこちら!」

全「「おー!!」「」

シンジ「係りはユウスケ! あ、ゴム手履いてね」

ユウスケ「何それ!? 今まで無かつたのに!? 不安しか無いんだけど!?」

カズシン「張り切って、ビーズ!」

ユウスケ「無視!?」

ユウスケ「うえ…」

ワタル「ユウスケ、震え過ぎです!」

ユウスケ「自分じゃないからってえ…」

士「とりあえずユウスケ、頑張れ!」

タクミ（士が応援してる…）

ユウスケ「うわ…ねちゃつとしたあ…」

ボルボル…

全「「!?!」「」

大智「きつ聞き間違いか?」

士「いや…何か奇妙な音が確かに…」

ボルボルボル…

全「「」「コワイ」「コワイ」「コワイ」「」

カズマ「大丈夫! 安全だから!」

全「「」「いくら安全でも怖い!…」「」

士「つてか正体なんだ!?」

シンジ「えーっと、『』 箱をとる

：

ユウスケ「なにこれ？カルボナーラ？」

タクミ「…の、様ですね…」

カルボナーラ？「ボルボルボル！」

全「…うわああああああ！？動いた！？」「

アスマ「魔化魍！？」

ワタル「アンデット！？」

映司「ヤミー！？」

タクミ「未確認生命体！？」

シンジ「タクミが一番近い」

士「で、結局のところコレはなんだ？」

ソウジ「えーっと、コレはハルルという方の剣立カズマが作った力  
ルボナーラだ」 本日裏方

ショウイチ「正確にはそのハルルさんとのカズマがドジって生  
まれた未確認生命体ボル子だ」 本日裏方

参照

<http://nocode.syosetu.com/n18888>

q / 4 /

大智「いやいや、ドジって生まれるのか！？」

海斗「あつありえない…」

カズマ「ちなみに初代は食べられたからこれは改めて作つてもうつ  
たボル子セカンドちゃん」

ボル子？「ボル」

「

士「も、もしかして……なんだが……」

海東「士、恐らく同じ事を思つたよ……」

アスワタク「「「多分僕たちも」「」」

Wショウソウ「「「ああ……」「」」

大海「「もしかして……」「」」

全「「「いっちのカズマも作れるんじゃない?」「」」

シンジ「あー、それ気になつて試してみたんだけど……ボル子は出来なかつた」

全「「「…は?」「」」

シンジ「……いや、実はカルボナーラ作つてたらカズマがドジつてラーナつて言つやつ（相違点はパセリと発する声）が出来たんだ……」

ラーナ「ナーナーラーナ!」「

ボル子?「ボルボル!」

カズマ「ラーナ君（雄?）もボル子ちゃん（雌?）も可愛い~」「

士「言つといてなんだが……」

全「「「カズマあああああ……」「」」

ショウイチ「とにかく、彼らはどうする？」「

ソウジ「そりや食べるに決まってるだろ」

全「え…？」

カズマ「みんなー！ボル子ちゃんとラーナ君を食べてあげてええ  
えええ！！！」

ボル子？「ボルボルボル～！」

ラーナ「ラナラナナーラ～！」

全「嫌だああああああああ～…」

ソウジ「まあ、俺は食おう。おばあちゃんが言っていた…料理は見

かけじやなく味だ、とな」

映司「俺も、いただきます。」ひつゝ類は出会った事が無いなあ～

全「チャレンジヤーが一人も…」

ソウジ「…ん？」

映司「コレは…？」

ソウ映「うまい／美味しい！」

カズマ「でしょ？（^ ^）」

全「ええええええええええええ！」？」

海斗「え？ホント？……あ、うまい…ただ、口の中で跳ねる…」

全「…………」後退

カズマ「逃げないでえええええ！ボル子ちゃん達食べてあげてええええええええええ！」

士「逃げろおおおおおお！」

全「うわああああああああああああああああ！」

大智「確かにうまい」

ソウジ「うむ」

海斗「はつはねる…」

映司「こーゆー料理は有難いなあ…何せ美味しいし…」

海斗「…旅先でどんなのがでたんですか？」

映司「うーん…強烈だったのは…幼虫（生）サラダ／獣の生き血ソース／…とか…あ、あともっとスゴかつたのが…」

ソウジ「もういい、分かった」

大智「うまいですね、ボル子」

映司「うん」

カズマ「食べてあげてええええええええええええ！」

海斗「とりあえず…あいつらはまつとくか…」  
ソウジ「止めるのも面倒だからな」

十一枚目　『カズマ』といつやつは…（後書き）

ちなみに…

ボル子？とラーナは火野映司が完食しました。

もつとちなみに…

フィリップが検索してたのは…

フィリップ「よし、やつと花火を全て閲覧した！」　花火玉二百個  
に囮まれながら

## 十一枚目 陳情？士の大運動会！

アスム「うわあああああああああん！……！」 泣きながら全力

疾走

海東「少年くん！？どうしたんだい！？待て、待ちたまえ！…」

通りすがりから全力疾走

ソウジ「あれ？あれは…アスムくん？」 アップルパイ調理準備  
士「…？アスムのヤツどうした？」 アップルパイつまみ食い待機中  
タクミ「あ、あははは…」  
ショウイチ「ははは…」  
ワタル「はははは…」

ソウジ「…三人とも、ちゃんと真実を言おうか？」 超絶笑顔で力  
ブトゼクター構えつつ  
ワタクショウ「…すいませんでした！」  
士「強ッ！？」

海斗「その三人+アスムで平成ライダーで誰が人気か話し合つてい  
たんだよねー」 走り疲れた海東を支えながら  
海東「…すまない、久々に全力疾走したから…」 支えられ中  
大智「アスム、もう泣かなくていいからな」 アスムお姫様抱っこ中  
アスム「…ぐすっ…とりあえず降ろして下さい…ぐすん」 恥ずか  
しがりながら

士「平成ライダー……なら俺様が一番じゃないのか？」

海斗「いや、それはない。……で、四人は目安として興行収入から調べてみたんだが……」

士「断言！？」

大智「響鬼がダントツで最下位」と

天の声「ヒドイよね……俺、響鬼好きなのに……」

翔太郎「といいつつあんた響鬼のグッズ持つてないじゃないか」

天の声「……グッズはアギトしかゲットしなかったッ！……」 ドヤッ

！！

全「……ドヤ顔するな！！！」

ちなみに作者にコレクションの趣味はありません。鉄道マニア風に言つと『見るライ（？）』です。

アスマ「ぐすつ……ぐすつ……」

天の声「まあ、響鬼のグッズは集めるタイプじゃなかつたから……仕方ない。オーナーがチートなんだよ……」

映司「何その俺が悪いみたいな空氣！？」

海斗「アレは恐ろしかつた……人間つて欲望解放したらああなるのか……」 と、いいつつ白色以外のメダル所有

後藤「……というか、多分ガンバライド効果も多いにあつたとおもう

……」「メダルよりカードです

大智「まあ、火野映司。責任とつてアスマに謝罪

映司「だからなんで俺が悪いの？」

アンク「オラ、さつさといけ！」 海東のメダル奪取（砕けたモノ

は別の世界から）で復活（ちなみに他のグリードも同様）

映司「……アンクも来ようか？」 グリードでも無いのに目エ怖え

アンク「…チツ、アイス一本な」

アスマ「…。」

映司「えー、この度は大変申し訳ありませんでした」

最敬礼

アスマ「い…いえ…映司さんは謝らなくていいですよ…」

アンク「ふん！そんなの負けたお前が悪いんだがな」

アスマ「…」

カズマ「アスマ　は　アッパー　を　放つた」

シンジ「アンク　どうする？」

ソウジ「カウンター」

海東ガード

？？？

避ける  
喰らう

「

士「なんだこのRPG風な表現…」

海東「ちょ、僕ガードって何！？」

海斗「個人的に『？？？』に興味が…」

天の声「そういえば、RPGあんまりやつた事無いなあ」

大智「俺も：よくやるのは牧場語

全「…なんでそれ！？」

アンク「決まつてんだろ！」

カウンター  
海東ガード

？？？

避ける

喰らう

」

アスム「え？」  
カズマ「アスム」のアツバーは外れた  
大智「ん？ぐふつ！？」アツバー炸裂  
シンジ「大智」に40のダメージ  
大智「あー、痛かった」  
後藤「大智」は耐えきった  
アスム「あー！大智さん！？ゴメンナサイイ！」  
カズマ「アスム」は連續ストレートパンチをくり出した  
シンジ「アンク」どうする？」  
ソウジ「カウンター」  
カウンター  
海東ガード  
？？？  
喰らう  
「  
アンク「避けはるは無いのかよ！？」  
アスム「お見通しです！」  
カズマ「アスム」はカウンターを見破った  
アンク「何！？」  
シンジ「アンク」の右拳は大きくからぶつた  
翔太郎「え！？お！？ちょいぐふあつ！？」  
後藤「翔太郎」に当つた  
伊達「翔太郎」に1971のダメージ  
翔太郎は倒れた

ソウジ「アンク　は　経験値　753　上がった」

士「ちよ、翔太郎弱過ぎるだろ！？」

ユウスケ「違う！アスマの鉄拳耐えきつた大智が異常なんだ！！！」  
海斗「…というか超個人的に『経験値』が気になつたんだけど…」

アスマ「たあっ！」

カズマ「アスマ　は　若くだけ　を　くり出した」

士「いや、あれただのパンチだろ！？」

ユウスケ「アスマの拳は指を碎くんですかそうですか！？」

シンジ「アンク　どうする？」

ソウジ「海東ガード

？？？  
「

アンク「選択肢すくなつ！？」

海東ガード

？？？

喰らう

海東「ギヤース！？」

カズマ「海東　は　たて　と　なつた」

アスマ「師匠！？　これはいざとなつたら師でも倒せといつ教えで  
すね！？」

シンジ「アスマ　は　かんちがい　を　した」

海東「違うよ！少年くん！　こうい…ギヤース！？」

後藤「海東　に　4AP　の　ダメージ」

伊達「海東　は　殉職した」

士「ちよ、待て！？最悪だぞ！？」

映司「…APってどのくらい？」

フィリップ「検索しよう…キーワードは？翔太郎…はムリだから士

士「俺に振るのかー？」『龍騎』『攻撃力』『カード』……でいけるか？』

フィリップ「うん、大丈夫だ。APとは龍騎系ライダーの攻撃力をあらわし、1APで約0.05tつまり50kgをあらわすようだ」

士「つまり、あのアスマの（おそらく手加減）パンチは200kgもの破壊力が…」

映司「…最近の13歳怖い…！」 頭面蒼白

ユウスケ（どちらかといつと昔の13歳じゃ無いかな？響鬼だし）

やはり頭面蒼白

アスマ「しょ――――――！」

海東「…ぐつ…少年君…』LOVE & PEACE……だよ…ガクッ』

アスマ「しょおおおおおおおおおおおおおおおお！」

海斗「かいとおおおおおおおおおおおおお！」

士「ちよい、までえい！？海東が最後の最後に何かに目覚めたああああああああああああ！」

天の声「3日後に神々しく巨大化して見えるパートン？」

ユウスケ「いや、どこのキリストだよ！？あとパートンって！？」

アスマ「ユルサン！」

ソウジ「？？？」

喰らひ

アンク「選択権剥奪！？」

アスマ「おりやああああああ！」

アンク「ぐああああああああ！」

海斗「その先塵ええええええええ！」

シンジ「この後、泉刑事の姿を見たものは誰もいなかつた…」

映司「あ、すっかり忘れてた！ オイ、アンクー？ 刑事さんの身体返せ！！」

士「その前にタジャドルになつて救出してこよー。」

映司「あ…そつか…変身！」

タカ！ クジヤク！ ハンドル！ タージャドール！！

オーブツト g「はつ」 追跡

ワタクショウ「「「とりあえずアスム…ごめんなさい」」

アスム「ははは…どうせ響鬼は異端ですよ…ベルトで変身しないし

…」

ソウジ「待て、アスムくん！ 地獄兄弟な！」

大智「そうだぞ！ 大体昭和ライダーはベルト無いライダーもいたし、大体アマゾンなんてかなりの異端じゃないか…アマゾンがライダーなら響鬼はモチロン仮面ライダーだろ！」

ショウイチ「いや、アマゾンをそこまで下にするなよ！？」

アスム「…うわああああああああああああああん！…！」 走り寄る

伊達「おー、よしよし」 とりあえず慰める  
ソウ大「何故あなたのトロに…？」

海斗「…なんかバトル始まつたからいいのがしたんだけど、視聴率的に言つと最下位はキバでしょ？」

ワタル「それは僕のせいじゃありません。電王と紅さんが悪いんです」 モモタロスヘッドロック

モモタロス「あばばばばばば……」泡吹く

カズマ「ちょ、モモタロスが死にかけよ

「アーマー」「油燃のマグ」

「ウチケ、当然の末路だ」

士「あの恨み（ テンガツシャーを刺された）は一年以上たつた今

ても僕在なのだ

海斗「女性人氣が一番高かつたのは、雄志を見た感想」ミーハーは

後藤「…何を持つてそう思つたんだ、雑誌社?」

海斗一えーと……主人公って感じらしい

八  
中華書局影印  
新編全蜀王集

ソウジ「さらにフォーゼなら仮面ライダー部の七人全員が主役になららしいぞ？」

方々、ある事例は、この発達を阻害する。

井上 井上たつたな

タケミ「あとアレですかね？芸能人走り高跳び最高記録保持者……」  
士「ふつ……当然だ。何と言つても俺さ」「「「だけど、こっちの士なんかいいとこ無いな」今まで」「」まつて、人のセリフに全員で割つて入るな！！」

「……なら証明して下せ」「…………」

！  
もちらんだ！ 最強の仮面ライダーの面子にかけて……やつてやる

タケミ（あれ？最強のライダーは確かに…）

~~~~~

一時間後

ツバサ「と言うわけでやつて来ました渚沙運動公園…通称競技場！」
ダイキ「はつきり言って、もう渚沙競技場でいいと思つこの施設で、
もやしのチカラを見せてもらおうと思う」

エリカ「実況は私とツバサ。解説はダイキが担当します」

ツバサ「行つてもらうのは攻撃力や防御力、俊敏性など、仮面ライ
ダーとして必須要素をゲーム化したものと」

ダイキ「なんとなく料理をやつてもらう」

士「なるほど、料理を出来なければ真の男で無い」と…

天の声「違う、なんとなくだ」 ドヤッ！！

全「「「ワイ！」」」

ソウジ「みんな、アップルパイ食べないか？」

ショウイチ「今この状況で何言つてんだ！？」

天の声「食べる！」

大智「自重しろ…」

ツバサ「第一種目は『ピンボール&ランニング』…」

タクミ「あれ…？」

麻衣「どこかで…」

海斗「聞いたような…？」

エリカ「ルール説明します！まあ、ぶっちゃけ『ピンボール』ンナ

ー』です！」

全「「「パクリかよ！…」」」

ソウジ「…？」そもそもクロックアップの世界に閉じ込められて
いた

アスム「…？」俗世にやや離れている

映司「…？」旅人と言つ名のフリーター

翔太郎「あー、この三人は分からぬみたいだぞー？」

大智「一応軽く説明を……モモタロスがします」

モモタロス「久々登場なのに扱いヒドイな！？まあ、ぶつちやけ
カゴおぶつて走ってボールをゲットするゲーム！」

ツバサ「制限時間は長めに三分間。ピンクボールは4球その他ルー
ルは本家と変わらずおこないまーす！」

エリカ「ちなみに、指令台には、今日、出る幕がなかつた夏海ちゃん
んと、士の相棒、ユウスケにしてもらいますー！」

ツバサ「指令台、指令台。どちらが、ピンクボールを……」

夏海「…………ですかり…………」

ユウスケ「いや、夏海ちゃん…………」

ツバサ「指令台？指令台？？」

夏海「…………わくわく…………」

ユウスケ「…………だから…………」

ツバサ「指令台？指令台？？」

夏海「は、ハイハイ」

ユウスケ「何でしようか？」

ショウイチ「お約束だな…………」

タクミ「いや、そこまで本家に近づけなくとも…………」

ツバサ「どちらがピンクボールを担当するんですか？」急に

モノマネ

翔太郎「いや、声まで真似しなくてもーー？」

フィリップ「完全にパクリだね…………」

ユウスケ「えーっと、黄色は私が担当しまして……ピンクが夏海ちゃん
です」櫻のモノマネ

夏海「はい」

エリカ「それでは、スタートーー！」

ユウスケ「33333…5！」

士「え！？」

ユウスケ「88888...あ！2！」

「いや、ムリだろ！？」

コウズケ - 555555 !

夏海：あ、ビンタ！ビンタ！ビンタ！ビンタ！」

夏威士忌の歴史と文化

「國學」之研究，當以「中國文化」為中心。

(以下割愛)

上「ゼ」ハ「ゼ」ハ「

麻衣「結果：150ptです！」

全「「「」」」

ダイキ「フツウならもう少しできたはずなんだが…」

「ちよつと……まで……れりあ……のは……指令台が……」

エリカー 150 吋で第二種目突入です!!

二十九

ツバサ「第二種目は『生身、ゴールキーパー！』」

説明書

立つておられます。モチロン生身で。

ツバサ「そして、キック側は全員変身！そして一人ずつでキックを

「じんじんはなつてさこ」

「オイ！？ ちよ！？ ピテエ！？ これでも体力ヤバいんだぞ！？」

ツバエリ「「いや、
スタート

士「まてえええええええー!?

クウガ「おりやあああ！」

BEST「よつと」 普通にキック

三國志

卷之三

ギハ一はあああああ！！！
響鬼「恨みいいい！！！」
ターケネスマーリンキック
キックスペックが40t

十一
「おひる？」

W 「「ジョーカー」

ファイズ「すみません！」
手加減

土「ぬあ！？」

「アーチャー、ボーリングで勝手に勝ったんだ！」

龍騎「あ、しくつた」 外れ

上「ホツ」

エリザベス

馬鹿の回し蹴り形三ツバタニシテ少

ハセガワ

十一
批注

御前ハ」又「行きますよ 伊達さん！」

伊達ハリス門下オツケイ 後藤ちやん！」

「ハリスーはあー!!!」

「器とか無い、無い!!」

電玉SF一行く世行く世行く世――――――

ア go (喜愛)

ユウスケ「ちょ！？ ショウイチさんの扱い！？」

ショウイチ「おれ」

十一、一九四〇年

タク!!! (こ、生きてる...)

アスム（す、スゴイです）

海東「…よし、六十八球中外れが十球…残りの内四十八球は「ゴールだよ。つまり記録は十球だね」 キックニガテなので集計

麻衣「ちなみに、外れは、剣立さん五回、辰巳さん一回、タクミ、モモタロス、ワタルくんが各一回外しました」
タクミ「全部「ゴールしたのはソウジさんと、伊達さんと、ショウイチさんだけなのに…ショウイチさんの扱い…！」

ショウイチ「…。」

ツバサ「あれ？ 以外と少ない気がしますが？」

ダイキ「まず、常人なら十球守る事が不可能だ。なかなか高得点だろう」

エリカ「と言つわけで第一種目は星・みつつつです！」

ユウスケ「マチャ キ！？」

ダイキ「ポイントに直すと300ptくらいで」

ツバサ「第三種目は…」

大智「おい、おい、ツバサ。 いくらなんでも士の体力はヤバい。 正確な記録を取るために今度にまわそう」

ツバサ「えー！？ ガチですか！？」

大智「… それまでにどびつきりの種目、考えればいいだろ？」

ツバサ「… 分かりました… その代わり…」

大智「…？」

大智「よし、みんな、聞いてくれ
ソウジ「ん？」

ショウイチ「…。」

大智「第三種目以降は俺たちも参加だ」

全「「うげ…」」

大智「…だけど、今日はもう遅いし、主役がこれだからまた今度と
しよう。それまで軽くトレーニングでもしてくれ」

ダイキ「器具なら大体あるからな」

タクミ「トレーニング…」

ワタル「僕、棄権ダメですか…。」

大智「じゃ、お楽しみに！」

全「「楽しみじゃねえよ…」」

十一枚目 陳情?十一の大運動会ー（後書き）

そろそろ本編を…

そんな十一枚目です。

五百アクセス残り八十を切つてテンション高いです。五百アクセスしたら記念作品HPかもしけないです

そろそろこいつらの実況中継に飽きてきました…代打…いないのか…?

にしてもハルルさん凄すぎる…

この作品、かなりハルルさんの影響受けてます…

さ、勉強、勉強

999枚目 大体500アクセス記念！

大智「どうも、高見大智です。

スピノフとして始まり、ドタバタ耐戦となり今に至ったこの小説も、ついに五百アクセスを突破しました。

みなさまの温かいご支援、誠にありがとうございます。

これからもドタバタ耐戦は皆様にギャグを提供していく所存で」

バツシャー——ン！—

大智「
」
水浸し

ワタル「ブブッ…」

卷之三

士 · 二

BESTCard
Change!

士「逃げる――――」

天の声「…オイオイ、勝手な真似をせんでくれよ…お前ら…書く量が増えるだろ？」「

ソウジ「確かに。すこし自重して欲しいものだ」

ショウイチ「…と書いて何故お前はおでんを作っている？」

ソウジ「…あ？」

ショウイチ「あ？…じゃねえだろ…！」

天の声「うーん…うーん…」

海斗「なにやつてんの？」

天の声「ギャグ小説の勉強」

麻衣「…フツウの勉強もしようよ」

天の声「（グサツ…）…ま、まあ、なんだ、これからも読んでもらうには刺激が必要じや無いからってね」

海斗「で、答えは…？」

天の声「うん…」

ウチの小説に足りないもの…

それは…

キヤラ！…主に不憫なやつ…！」

ショウイチ「田の前にいるだろ？がああああああああ…！」

~~~~~

天の声「…不憫云々はおいといて、男女比が男女男女男女よりひでえんだよ、若干どころじやねえんだよ」拳骨でやられたとこ触りながら

シンジ「今いる女性は…夏海さんと麻衣のみ?」

麻衣「あれ? 鳴海さん…」

翔太郎「あー、亜希子は照井と一緒に帰ったからな」天の声「…だろ? これだとオトコ比率強いから…」

門矢小夜「こんにちはー」

天堂マユ「おにーちゃん!」

ソウジ「マユ! ?」

泉比奈「映司くん!」

映司「比奈ちゃん! ?」

天の声「…を連れて來たんだ…鳴滝パシラせて」

鳴滝「ゼーハーゼーハーゼーハー…」

タクミ「それで鳴滝が死んでるんですか?」

アスム「生きてますよ! ?まだ! !」

翔太郎「殺したいのかアスム! ?」

アスム「…殺はしません、清めます」

大智「あー、清めるなら奴らからしてくれ」

全「「「?」「」」

士「」廃人  
ユウワタ「」言つまでもなく

シンジ「通りで小夜ちゃん登場シーンがないと思つたら…？」

海斗「…大智のマジギレにあつたのか…」

海東「…スゴかつたよ…スゴかつたよ…うん」

見てた

夏海「…」見てたのを後悔

大智「…いや？今日は手加減して50%くらいしかやつてない」

全「「「あれで！？」」

鳴滝「是非君を対デイケイドの為にスカウトしたい！…」

復活

シンジ「！」そどばかりにはなにいってるんですか…？」

大智「まあ、それは断るとして、」

ショウイチ「サラッと拒絶、流したな」

鳴滝「○○」

大智「…マコさんと比奈さんと大首領のいもーと以外に誰か連れて  
来たのか？」

天の声「あー、一気に増えたらファイールドアウトが増える（例・フ  
ィリップ）から今回は三人だけ」

カズマ「じゃあ、歓迎パーティを…」

伊達「やろうじゃないですか」

全「「「今日居ないなと思つてたら準備してたんかい…！」」

—

シンジ「まあ、結局してるんだけどね…」

アスム・シンジさん、ソウジさん、お酒禁止!!」

卷之三

ショウイチ「…土とユウスケ、ワタルはまだ復活しないんだな」

ソーラー…みたいになあ」「おのタケイト三ツ巴」弄じなか

ソフビ「アーティスト」

**を腰にセツト！**

ショウイチ「早速やつてんしー?」

卷之三

每斗

ソウジ「どのカードだー？」  
適当に弄つてゐる

海斗

ソウジーあー、カブトー」カブトを入れようとしているか分から

海斗

ソウジーんー?

海王丸 買ひて 】

毎斗「まず、ドライバーをセット! そしてこのディケイドのカード

右手で器用にカードを前に見せながら出す

海斗一通りすがりの仮面ライダーだツ！覚えておけツ！！」スナップを生かしながらカーデを返してドライブリに投げてドライブリ

を弄る

斗ディケイド「！」一するの……」

小夜「……お兄ちゃん並みに上手い……」

ソウジ「……ムリじゃないか？」

ショウイチ「それ思った」

タクミ「投げつけて入るわけがないですよ……」

斗ディケイド「そこには編集でなんとかなるシ……」

大智「編集とか言うな……」

伊達「……フツウに考えてムリと言えば、後藤ちゃん」

後藤「はい……あれですよね……伊達さん」

後伊「火野のメダジャリバー」

映司「……言わないで！？ホント言わないで下さい！？」

フィリップ「照井竜のエンジンブレードもそつだよね、翔太郎」

翔太郎「確かにな」

マコ「おにーちゃん出来るよね……？」

ソウジ「ぐつ！？」

比奈「……メダジャリバー瞬間装備出来る映司くんなら……」

映司「えつ！？」

夏海「士くんが出来るんですよ？出来るに決まってるじゃないですか！ねえ、みなさん！」

全「……ええつ！？」

翔太郎「おーっと！？早くも女性陣がキバを剥ぐ！」

小夜「お兄ちゃんをそこまで下に言わないで！ミカンのクセに……」

カズマ「……ブラ」「何か言いました？（小夜超絶スマイルモード）

……言つてません！！」

大智「…」おもむろにティケイドライバーを掴む

麻衣「流石にこんなのは誰でもム…」

大智「…」セットしてカードを前に突き出す

大智「…」スナップからの投げつけ&弄る

麻衣「え?」

Kamen Ride DECADE!

大ティケイド「…」

男全「…無表情&無言&編集ナシでやりやがったー?」「…」

麻衣「なんで!?!なんで!?!」

マコ「ほらーおにーちゃん!」

比奈「映司くん!」

夏海「みなさんも!!!」

男全「…マジデスカ!?!」

→結局投げつけてできたのはソウジだけでした

男全(（ほんと、ソウジさんって何者?）)

後藤「個人的には…ファイズになりたいが…伊達さんはもしかしたらとして、常人にはムリだから、ブレイドに…」

海斗「ブレイドは少し難しくて…」何時の間にかブレイバッкл&スピードのAのカード装備

カズマ「…」自分のブレイバッкл&カード確認

海斗「あ、これ、剣崎さんのなんで」  
全「…どうやって手に入れた!?!」「…」

海斗「まずはこのAのカードをブレイバッклにいれてくださいーー」

後藤「はーい！」 カズマの使用

映司「後藤さん！？後藤さん！？」

海東「バースくんがキャラを見失つてしまつてゐるね…ブレイド恐るべし…」

カズマ「ブレイドのせいじゃないもん…」 泣き

シンジ「カズマ泣かすな、バ海東」 背後にカブブトHFの残像

ショウイチ「なつ…ソウジ！？」

ソウジ「ん？」 明田のおでん仕込み中

海斗「で、ベルトが出たら左腕は腰！右手は手の平を自分に見せながら…顔の前方左側にまでもつてくる…ギャレンは逆側でしかも少し斜めに手を動かす動作があつて難しい…あ、指はこいつでお願いします」 親指と人差し指を立てた状態を見せ

後藤「…むつ難しい…」

翔太郎「これ、下手すりやつるよな」

海斗「で、スナップ利かして右手首回転、右手でブレイバックルを弄りながら左手を前に突き出して…へシン…」

ショウイチ「変身！だろ！？」

翔太郎「オンドウル語になくなても…？」

T U 「…」

全「「…え？」」「

海斗「…」

全「「…なんでえええええ！」」「

海斗「こつちが聞きたいんだよ…！何回やつても出来ないんだよおおおおおー！」

後藤「…伊達さん…」 できなかつた

伊達「…ドンマイ、元気だせ、後藤ちゃん」

フィリップ「その理由、お答えしよつ」 全身に花火巻きつけながら

斗後「フィリップ！！」

翔太郎「ちょいまてえええ！！お前花火をおいとけえええ！！！」  
！」

フィリップ「実は…いや、まあ、普通に考えたら当たり前なんだけ  
ど、仮面ライダーになるのは条件があつて、一之瀬海斗や後藤慎太  
郎はブレイドの条件に適していないんだ」 花火装備

海斗「じゃつじやあ、誰がブレイドに…」

フィリップ「そうだねえ…あえていうなら…翔太郎、君には出来る」

翔太郎「俺！？っていうか花火置けよ…！」

フィリップ「翔太郎はいつも切り札の記憶とともにいるからねえ…  
他は…そもそも似ている辰巳シンジ…かな？」

シンジ「似ている…あ、A P的な意味か」

天の声「詳しくは今度するから今回はスルーな」

カズマ「あ、そうだ！マユちゃん達忘れてた！」

ショウイチ「というか、マユとソウジ…どんだけ年離れてんだ…？」

アスマ「素朴な疑問すぎます」

マユ「はい、これが『天堂屋』白麪のおでんです！」

女性陣「…おおー！！！」

マユ「あ、そうだ、おにーちゃん！味見してよ！」

ソウジ「ん?どれどれ…つん、上達したな、マユ」

マユ「エッヘン…ハハハ！」

ソウジ「ハハハ！」

カズマ「…微笑ましい！！」

タクミ「素晴らしい兄妹愛…！！」

シンジ「…写真撮りたくなつてきた…」

カメラ装備

アスム「僕も妹欲しかつたな…」

海東「少年くん…あの二人はあの二人だからこそあの兄妹愛になるんだよ…」

麻衣「にしても…」のおでん美味しい

夏海「おじいちゃんのよう…」

比奈「私のよう…」

小夜「月影より…」

ソウジ「…『天堂屋』の味の最大の秘訣、教えてあげようか？」

女性陣「「「うん！うん！」」

シンジ「…」無言で微笑ましい兄妹の写真とつてる

マユ「私のおばあちゃんは言つてたよ、味の秘訣は…食べてもらつ人の笑顔を想像すること、相手を思いやることだ…って私は…、今日はおにーちゃんに会えたからおにーちゃんを思つて作つたんだよ…」

ソウジ「これもおばあちゃんの言葉…真心、これが最大の隠し味。真心無しで着飾つてうまくみせようとしても逆にマズくなる。真心こめて、大切に作るのが料理のコツなんだ…もつとも、料理だけじゃない、人間関係を築くのも真心次第だ」

女性陣「「「ブワッ…！」」号泣

天堂兄妹「「！？」」

大智「…大丈夫、感涙だから…」号泣

ショウイチ「…いい言葉すぎる…」号泣

タクミ「深イイ…！」号泣

シンジ以外その他全「…深イイ…！」号泣

シンジ「…」涙をカメラで隠しながら撮り続けるプロ魂スピリッツ

マユ「…おにーちゃん、どうしよう？」

ソウジ「…とりあえず、みんなにおでん配ろう。おばあちゃんが言

つてただろ…真心籠つた食べ物は人を笑顔にする…つて」

マユ「だね！」

## 十三枚目 オリジ達とおでんと大運動会

ツバサ「さあ、リイマジVSオリジVS DCD&W&amp;BEST連合の大運動会を始めるよーー！」

カズマ「え!? オリジ勢よんだの!?!」

シンジ「鳴滝がぱしられたらしいぜ」

アスマタク太（（（ああ、だからあそいで虫の息なのか…）））

ダイキ「…だが…例によつて電王は除外なんだな」

天の声「ああ、だつてなんかリイマジとオリジの区別つきにくいし、野上一人いると戦力にかなり不公平だし。無駄に…特に響鬼より長くやるなんて…!!」

海斗「つまり作者の嫉妬ね」

ツバサ「知つてる人はもうお分かりと思つが、一応チーム分けを発表します」

### チーム分け

オリジジ…つまり本編の主役

五代・津上・城戸・乾・剣崎・ヒビキさん・天道・紅

リイマジ…つまりDCDで出た各世界の主役

小野寺・芦川・辰巳・尾上・剣立・アスマ・天堂・ワタル

DCD&amp;W&amp;OOG&amp;BEST…言わずもがな

モヤシ（リーダー）・ホモ・半熟玉子・検索バカ・パンツ男・51

03・伊達さん・関西弁オカン・ポセイドン

海斗「いや、俺なんでポセイドン!?!?」

天の声「いや…ほんとなんとなく。現状でお前を一言で表す」とが出来なかつたから…」

大智「伊達さんは『伊達さん』やん? なんでや?」 関西弁

天の声「『伊達さん』の時点で全てを表していいからそれでいい」 翔太郎「…つてか1番ヒドイのは大智のだぞ…怒らないのか?」

大智「ん?」 超絶スマイルで作者ヘッドロック

海東「関西弁になつてると思つてたら…?」

ショウイチ「泡吹いてる…泡吹いてる…ヤメろ! 離せ…!…」

士「作者が変なこというから…!…!…」

ソウジ「ん~とりあえず、流石に危なくないか…作者の生死が例によつておでん製作中

伊達「あと一分だな」 時計見ながら

〜〜〜とりあえず作者は泉信吾に保護されて病院に行きました〜〜

ツバサ「じゃさつそ…」

五代「まつて! これじゃあ勝負にならない気が…」

ユウスケ「人数差がツ…!…」

ダイキ「あー、そちらへん大丈夫。ツバサがとつとつやらかして…

さ…」

全「…やらかした…?」「…」

弦太朗「俺は仮面ライダー全員と友達になる男だ!」 スマイル炸裂

ユウキ「ここが異世界か…星座も違うのかな?」

賢吾「…いや、そつくりだし多分同じだり…」

JK(「お女子高生」「弦太朗さん…」)「じゃあのおつかない奴

「…ねえかさんまではござりません」

美羽「なーに怯えてるのよーしつかりしなさい！」

全「――フォーゼ勢来たあああああ――」

「…でも、賢吾、美羽はおはオリジ、弦太朗はリイマジの方に追加だ」JK「運動会とか…小学生じやないっすか…」

弦太朗「おう！任せろ！」

ツバサ「ちなみにこの前の土のポイント消去…よつて、全チームから頑張ってくれ！」

11

マユ『第一種目は…大縄全員飛びです!』

小夜子ハの子じや無いですよ！間違えないで下さいね！』

士「：いいか、大繩で大事なのは」

海斗「回し手！」

士一地...だから」

海王山川無邊れんじ巻きわらび山八重山島

土  
「  
o  
r  
z

翔太郎「ドンマイ」

五代「…で、回し手が重要みたいだよ?」

城戸「誰が行きますか…？」

剣崎「ヒビキさんとたっくんはびつへ..」

巧「... オイ...」

ヒビキ「構わないけど」

五代「じゃ、頑張るぞー！」

全「... オーッ！..」

ショウイチ「... なんでこのチーム俺がリーダーなんだ...」

ソウジ「最年長だから」

ショウイチ「いや、リイマジのヒビキがいるだろ」

ソウジ「今居ないから仕方ない」

ショウイチ「なんでサボったあのオヤジ... !..」

ソウジ「ショウイチも十分オヤジ」

ショウイチ「俺はオヤジ臭いってか！？加齢臭と言いたいのか！？」

ソウジ「... カレー臭？ショウイチ、朝からカレー食ったのか？」

ショウイチ「食つて無いわ！.. お前とおんなじ朝食（今朝の研究所のみんなの朝食はダイキの目玉焼き定食）だつただろ！」

ソウジ「いや、今朝はおでん（自作）食べた」

ショウイチ「お前はおでんしかアタマに無いのか！？」

ソウジ「いや、ある」

ショウイチ「... なんだ？」

ソウジ「天堂屋のこと」

ショウイチ「結局おでんじゃねえかああああああああああ...」

カズマ「... 回し手は俺とシンジでするか？...」 ヒンヒン

シンジ「みんなで頑張りつ...」 ヒンヒン

全（口論中の一人除く）「... オーッ...」

夏海（スターター担当）「よお... スタート...」

賢吾『各チーム一斉にスタート... なんで俺が...』

ユウキ『ああつと…？ オリジチーム速い！速い！…猛烈スピードで飛んでいます！！かつカウントは…もつ40…？』

美羽『…このチーム野上良太郎が居なくてよかつたわね…』

比奈『のがみ？』

美羽『仮面ライダー電王の装着者よ』

全（（（なんで知ってるんだろう…）））

巧（というかマイク入ってる…）

士「クソッ！伊達！後藤！早く回せ…！」

伊達「引っかかるな…コツ…！」 スピードアップ

Dチーム「…「うぎやああああああ…？」」「」

後藤「伊達…さん…！…腕が…もげるうううううう…」

ショウイチ「大体お前は…！」

ソウジ「ショウイチはさ…」

タクミ「口論（と舌づか漫才）しないで跳んでトモ…」

五代「81…82…」

JK「はあつ…はあつ…ひぎやー…」

比奈『ああつと…！』、オリジチーム脱落！記録は…84…！』

小夜『原因は…』

剣崎「たっくん！引っかかる無いでよ…！」

巧「え！？え！？俺！？いや、俺回し手…」

城戸「たっくん…信じてたのに…」

ヒビキ「青年、あともう少し頑張って欲しかったな…」

紅「ゼーハーゼーハー…」

天道「おばあちゃんが言っていた…大縄跳びで引っかかるたっくんはチームに悪影響をもたらす…と」

巧「ホントに困ったのかよー?ってか俺じゃねえつて!」

五代「まあまあ、たっくん、そんな時もあるってーー！」

津上「うん！たつくん笑顔えーかおー！」

巧「俺じやねええええええ！」

JK巧さ

巧一 お前は言うな、犯人！！

フィリップ「もうもう、無理だッ！」

ユウキ『あー、ついでにチーム脱落! カウントは... 85-』

## フイリップ「すつすまない」

伊達「OKOK、気にすんな！」

「それはそんと伊達……後藤が廃人になつてゐる」

映同「」と――――さあ――――ん！！

ノルマニ「うめ

ソウジ「ショウイチは！」

タクミ「漫才やめてちゃんと跳んでええええーーー。」

弦太朗「あ、タケミ！！」

タケミ・ギャン!!』 繼で足強打&転げ

!

賢吾『成績からポイントを入れると… Dチームが30点、オリジナ  
ームが15点、リイマジ0点だな』 カンペ読み

マユ『弦太朗くん、不良らしからぬさり気無いフォローー！』

比奈『弦太朗くんつて、もともとは優等生なんですか？』

ユウキ『確か…そうですね！』

美羽『…なんで時代遅れの不良に…』

麻依（救護担当）「んー…軽い打ち身だね、シップ貼つたら大丈夫でしょ」

弦太朗「良かつたな！」

タクミ「う、うん…（オルフェノクだから元々そんなに痛く無いし…）」

麻依「まあ、頑張つてね…あ！でも大智達が勝つと思つけど」

弦太朗「俺がいるから百人力！勝ちはこっちだ！」

麻依「はははー、ビーかな？ま、早くいきなよ、次始まるよ」

弦太朗「おう」

タクミ「はい」

麻依「さて…後藤さん、大丈夫ですかー？」

後藤「　　」伊達と映司に抱き込まれた

――――――

ソウジ『第一種目は400メートル走だ』

全「…ソウジ（さん）がなんでアナウンスするのー？」

ソウジ『おでんを差し入れたからだ』

ショウイチ『正確に言うとソウジのおでんを差し入れに本部席にやつて来たらみんな食い始めちゃって、で代理でアナウンスしてるわけだ』

リイマジチーム「…戻つて来て…ウチのツートップ！…！」

カズマ「カムバツク！カムバツク・ザ・ヒューマン…」

「

ショウイチ『俺は人間だッ！…』

アスム「まずヒューマンはいらないですよね？なんで付け足したんです？」

ワタル「無理ですよ、カズマ。ショウイチはもう覚醒してますから」  
ショウイチ『覚醒つてなんだッ！…アギトのことか…？』

ソウジ『…！…』

ショウイチ『…お前はなんでそんな目をする…？』

ソウジ『…ショウイチ、人間じゃ無いのか…？』

ショウイチ『うるさい…！…よく考えたら人体に悪影響あるタキオン粒子をずっと浴びてたお前の方が人外だらうがあああああ！』

！』

タクミ（また漫才始めちゃったよ…）

士「あて、資料によると四人でリレー形式で走るらしい…あとアンカーのみ変身可（ただし、クロックアップなどは禁止）、アンカーは800メートルらしい…」パンフ見ながら

海東「じゃあ、僕がアンカーだね！」

全「…何故？」

海東「士は知つて欲しかつたな…実は…」

五代「さて、僕は足には自信があるよ…」一番走者

ヒビキ「鍛えてますから！シユツ！」二番走者

天道「俺は走るのも頂点に立つ男だ…」三番走者

剣崎「さて、鍛えてる2人（+リーダー）が集まつたところで…」

巧見る

城戸「こにはやつぱり…」巧見る

巧「…いや、確かにウルフオルフェノクだけど…オルフェノク体は禁止だろ？」

剣崎「大丈夫、アンカーだから変身出来る」

巧「だつたら翔一さんの方が…」

城戸「名譽挽回にも……」

巧「だから俺は引っかかつてねえッ！！」

カズマ「ソウジさんとショウイチさんすっかりアナウンス席行つち  
やつたよ……」 一番走者

シンジ「ショウイチさんは警察だしソウジさんはNECの訓練受  
けてきたから速いはずなのに……」 二番走者

タクミ「……でも僕よりアスマくんの方が速い気がする……」 三番走者

弦太朗「なあに、俺が1番とつて来てやるぜ……」 ラスト

夏海「よおい……スタート……！」

ソウジ『各チーム一斉にスタート！』

映司「パアアアアアアアンツ……」 Dチーム一走

ショウイチ『おっと、火野映司速い！奇妙な叫びを上げているがこ  
れは公然わいせつにならないのか――？』

士（実況始まると仲イイな…あの一人）

カズマ「うええええええええええええ……！」

五代「僕も負けないよ！」

（最後で五代が追い上げて異様に速かつた公然わいせつ罪予備軍  
と並びました）

ソウジ『大体突筆する事もなく……殆ど同時に第一走者にバトンがわ  
たつ……』

映司「あつ――」 三回スピinn転け

翔太郎「おい！」

ショウイチ『なんと、トップの火野映司が転けた――！』  
ソウジ『左翔太郎、すぐさまバトンをとつて走るが……早くもこれで  
50メートルの差が……』

翔太郎「うおおおおおおおおおおおお！」

シンジ「おりやああああああああああ！」

ヒビキ「うんうん、最近の若者は熱血だねえ～」

ソウジ『哀愁に浸つてゐるヒビキが何気にして言つた圧倒的に一位だ！』

ショウイチ『このままだとオリジチームの優勝か！？ オリジチーム、バトンが渡つた！』

ヒビキ「青年！」

天道「…任せろ…おばあちゃんが言つていた…バトンを受け取つたらすぐに走れ…と」立ち止まってお決まりのポーズ

巧ファイズ「なら走れよ！…！」

ショウイチ『巧ファイズのツツコミが唸る…だがこれは完全にロストタイムだ！』

ソウジ『続いてタクミ、海斗が走り出す！』

タクミ「（…さつ叫ばなきやダメなのかな…）…うわああああああああああ！」

海斗「ねむー」

ショウイチ『ここでリマジチームとロチームが並んだ…天道は…宣言通りやはり速い！』

ソウジ『さて、このままアンカーに…』

士「天道！」

天道「ん？」

士「ほらっー！」 某東雲 イ役の時の榮 奈々の特大パネル

天道「…お嬢…え…え…？」 混乱

ショウイチ『ああっと…天道簡単に釣られた！』

ソウジ『中の人作戦成功だな、ちなみにこれは妨害工作にならない！というかカブト装着者がそんなことでどうする！…』

巧ファイズ「いや、完全に妨害だろおおおおおおお！」

カズシンアスワタ（（ああ、ソウジさんの独断だな…））

ショウイチ『その間にタクミがフォーゼに、海斗がディエンドにバ

トンバス！』

巧ファイズ「あーーくそ、天道！ バトンかせ！！」

ソウジ『やつと巧ファイズもスタート。あと『氣』になるのは… 海東がコソコソ言ってた…』

士「そう！ ディエンドには元々カード無しで（クロックアップには負けた）高速ダッシュも出来る機能があるんだ…！」

ディエンド「と、言うわけで僕が一位を貰うよ…！」

全「「「せけえええええ…！」」「

五代「よ」何かを掲げる

ディエンド「そつそれは…！？」

全「「「…？」」

五代「そつ、クウガの変身に必要なアーフルのような効果があり別名・擬似アーフルと呼ばれる、その名も『アーカム』…！」

全「「「なんじゅ そりやああああ…！」」「

五代「なんかね、岡山県の遺跡で発掘されたらしいのよ… 超変身！！」

ディエンド「その秘宝、僕が戴くよ…！」 ロース外れる

士「だああああ！！ 海東！ 戻つて来い…！」

翔太郎「だつ代走！ 代走OK？」

ソウシヨウ『NO THANK YOU…』

五代クウガ「ほーらほら~」 バイクで逃げる

ディエンド「お宝…！」 バイク無いので走つて追いかける

五代クウガ「ほーらほーらほーら

ディエンド「まちたまえ…！」

大智「… サッサと走らんか」のボケエエエ…！」 クロックアップ CUI並の速さ

で追いつき殴る

ディエンド「グフツ…？」

全「「「アンタナニヤツテンドー！？」」「

Wカズマ「「オンドウルルガギッタンディスカー！？」

ソウジ『…結果は…まあ、リイマジが一位で30pt、オリジが一位で15pt、D連合が0pt…全チーム30ptで並んだな…』  
ショウイチ『…土の時に反則言った方が良かったか…？』  
ソウジ『いや、カブト装着者があんなことでは恥だ…よつて天道には…フフフ』

「…海東は救護の所に運ばれ、後藤が復活しました…」

マユ『波乱に満ち溢れてきた運動会午前の部最後はムカデ競争です！』

カズマ「うわ、もう本格的に小中学校の運動会みたい！」

ソウジ「ただいまー」やりきった感満開

ショウイチ「お疲れー」ガチ疲れたオーラ

ユウスケ「…リーダーと副リーダーが呑気に…」

シンジ「おかえりなさい」

ワタル「天道総司になにしたんですか？」

ソウジ「ん？」笑顔満開

ショウイチ「…俺に質問するなオーラ

アスム「まあまあ…お茶ですか？ボーリですか？」

「…アスムのクーラーボックス（最大80kgまで可）

ユウスケ「いやいやあの二人さつきウチのチームのためになんもしなかつたよ！？」

ワタル「じゃ、僕「一ラで」

アスム「はい」「一ラ出す

ソウジ「コーヒーで」

アスム「どや」「一ヒー出す

ショウイチ「焼酎と製きイカ」

アスム「は…焼酎は終わってからにしてください」 焼酎出しか

けて引っ込める

タクミ「どさくさ紛れになに頼んでるんですか！？あとアスムどんだけ万能なんですか！？」

アスム「ソウジさん、ケーキもありますよ

ソウジ「喰う！」

タクミ「本当に何々入ってるんですか！？」

シンジ「まあ、とりあえず聞いてなかつただろうから放送の内容を言つとムカデ競争は各チーム七人で競争する、コースは二百メートルトラック一周だつて」

弦太朗「つまりアスムとワタルは応援だな…身長的に」

アスム「暇でーす」 リイマジ溢れ

ワタル「暇でーす」 リイマジ溢れ

巧「ちょっと休憩…」 オリジ溢れ

紅「暇ですねー」 オリジ溢れ

士「リーダーなのに溢れたー」 D溢れ

ダイキ「じゃあ、あんたちはちょうどもやしもいるしチーム対抗料理対決って事で」

ツバサ「お題は家庭料理の定番、肉じゃが！」

エリカ「午後の部開始前に審査します。ちなみに食材は何使つても結構です」

溢れ全「…聞いてない！？そんなこと聞いてないよ…！」

比奈『向こうでなにかあったみたいだけど時間ないから始めましょう…』

夏海「よおい…スタッツ…！」

カブトM<sup>スカジ</sup>F「1’2’1’2’1’2’先頭

ショウイチ「なんでソウジ変身してるんだ！？」

SカブトMF「（変身した方が）力が強いから」

ショウイチ「いや、下手すりや失格になるんだぞ！？」

SカブトMF「許可もらつた」

賢吾『おい、そこ！漫才するな！！あと誰が許可出した！？』

マコ『お兄ちゃん頑張れ————』

全（（…あ、やつぱり…））

SカブトMF「というかショウイチ突っ込まずに足を合わせろ。ほ  
れ1’2’1’2’1’2’」

津上「え！？先頭変身OK！？」今まで目立つ事なかつたから先頭

城戸「今は変身し無いでくださいよ！？」

ヒビキ「…と言うかやつぱり俺が先頭の方が良かつたんじゃない？」

最後尾

天道「　　廃人

JK「ちょ！？バラバラすぎますつて！？」

ユウキ「確かにオリジヂチーム明らかにこれは人選ミスです…バラバラで全くあつてません！！」

美羽『JKがしつかりしないからだわ…』

JK「違いますつて！？」

小夜『さてさて、こちらローダーとしてもパーフェクトなお兄ちゃんを抜かした愚かなDチームは？』

比奈『そのえげつない紹介やめてください…』

映司「1’2’3’4！」先頭

Dチーム「1’2’3’4！」ピッタリ

ユウキ『火野映司を先頭にスゴい組織力で早くも最終コーナーに差し掛かりました（他のチームは最初のコーナーで悪戦苦闘中）！』  
美羽『どのくらいの組織力かとあえて言つとあのNECCTを凌ぐ組織力だわ！』

比奈『だからなんで美羽さん仮面ライダー何気に詳しいんですか？？あと小夜さんバナナの皮投げるのやめてください！』 小夜押さえつける

小夜『火野…映司…お兄ちゃんの仇…！…くらえ、バナナの皮…！』

比奈の怪力を振り切る

映司「1・2・3・4！」 バナナの皮をつまーく避ける

ユウキ『あーっと火野映司バナナの皮をもろともしません…』  
全「…火野映司自重しろ！？」

――

賢吾『…言わずともわかると思つが自重しない男チームが一位（30pt）リイマジ一一位（15pt）オリジ三位（0pt）…で午前は終了だ』

大智「…もしかしてまた次回に引っ張るのか…？」

ツバサ「仕方ないんですよ。作者に文才が無いから…」

カズマ「あれ？アスマくんにワタルくんは…？あと土」

剣崎「たつくんも渡くんもいない…」

「…やああああああああああああ…？」

全「…悲鳴！？」

ダイキ「…次回をお楽しみに！」

## 十四枚目 破壊者と守護神と料理対決

### 【前回のあらすじ】

ツバサ「さあ、リマジンオリジナルSDCD&W&amp;P・OOO&amp;BEST連合の大運動会を始めるよーーー！」

天道「…任せり…おばあちゃんが言つていた…バトンを受け取つたらすぐに走れ…と」

五代「そう、クウガの変身に必要なアークルのような効果があり別名・擬似アークルと呼ばれる、その名も『アーカム』！！」

ダイキ「じゃあ、あんたははちょうどもやしもいるしチーム対抗料理対決つて事で」

～～～

…そして、現在に至る。

翔太郎「五代さんのセリフいらねえ！！」

フィリップ「どうしたんだい、翔太郎？」

…そして翔太郎は何故か地の文が聴こえる。

翔太郎「俺だけ！？」

フィリップ「だからなんだい、翔太郎！？」

～～～

～～～昼夜み中です。オリジナル、リイマジネーションはとても仲  
がいいです。顔が違うからかな？～～～

カレー話にふける者

五代「……で、インドでは……」

ユウスケ「なるほど……じゃ、スリランカではどうなんですか？」

記者同士意見交換する者

城戸「……へえ、そんなことがあったんですか～」

シンジ「そりなんですよ～」

説教する者、される者

ソウジ「大体な、カブト装着者がそのようなことでいいと思つて  
のか？」

天道「ぐつ……」

うえーい、うえーい

カズマ「社長つて……大変だうえーい」

剣崎「降格からのトップだもうえーい」

やさぐれる者、聴く者

タクミ「中の人のせいです……僕は……僕は……僕は僕は僕は僕  
は僕は僕は僕は僕は僕は僕は僕は僕は僕は僕

乾「……そうか」

ノホホンとする者達

アスム「日差しが暖かいですねえ……師匠

海東「だねえ……響鬼くん」

ヒビキ「眠たくなつてくるよな～……少年……」

依頼する者される者

ワタル「すみません、ヴァイオリンを作つていただけないでしょ  
うか…？」

紅「いいですけど…道具が無いんで帰つてから…」

そして…

ショウイチ「―――Wカズマなんかおかしい！！微妙にオンドウ  
ルになるな！あとタクミやさぐれるな！乾の方の『タクミ』も突つ  
込め！！あと鬼と泥棒と鬼和むな！っというか寝るなあ…そして  
天の堂に座す方の『ソウジ』、クナイ取り出すな！天の道を往く方  
の『ソウジ』も地面に屈するな！イメージが完全にひっくり返るだ  
ろうが…！だからWカズマ『うえーいつえーい』煩いッ…！」

突つ込む者

津上「ん~、なかなか大変ですねえ」

ショウイチ「そう思うなら手伝え…！」

士「いや、津上は絶対ボケだぞ…！しかも天然の方の…！」

翔太郎「あと、ショウイチさん一人で殆ど全部言っちゃつてツツコ  
むスキマが無いんだがな」

フィリップ「猛スピードで本めぐる

ショウイチ「いや、あるだろ…？」

―――

大智「みんな~、弁当到着~」 拡声器使用

全「~おおつ…！」

―――

麻依「今日の弁当は海斗イチオシの弁当だよ～」

海斗「フッ… もう、この街一番の『や』みんな集まれー（ 拡声器） ミ レ品、黒鷲（シマエナガ）

「ん？」  
大智　「ん？」  
　　拡声器ボイス

11

全「」...」」

金「」

全「」

全（ソウジ以外）「「「でけええええええええええええええ  
大智「ハハハ」 拡声器使用  
麻依「フフツ」  
海斗「ハツハツハー！」 腰に手あてながら

／＼＼＼＼

ちなみに、何故驚いたのか解説しよう

今回海斗が注文した弁当は個別に一つずつ…じゃなくて一つの弁当をみんなで囲つて食べよう!って形式なんだけど、その弁当一つ分が…

縦は…まあ、そこまでなんだが、横が寝そべった剣崎約1・5人分…

それだけならまだしも、それが何個かあり積み重ねると結果的に剣崎を抜かすくらい…しかも特大ケーキ付き…

Are you OK?

／＼＼＼＼

そのデータ…マジか?と唯一地の文が聴こえる翔太郎  
誰がこれだけ食べるの?…と美羽

限度があるだろ…と賢吾

なつなんじやこりや…と弦太郎  
検索を始めよう…とフイリップ  
無駄にデカイな…とショウイチ

うえ…とカズマ

これもたっくんのせいなんだ…と何気に比較対象にされた元祖もや  
し…否剣崎

だから俺関係ない…と乾

よくこれだけ食材あつたな…と天道

ケーキ…とソウジ

おにいちゃんのおでん食べたい…とマコ

ゴルゴムの仕業だ!…と南光太郎

翔太郎「…なんで南光太郎さんが！？なんで心の師匠が！？」  
士「なに！？南光太郎！？」

「…じや」  
「オーロラで回収される

フイリツブー 翔太郎！？ 翔太郎！！

（翔太郎の中の人は仮面ライダーBLACK系統が好きでジョーカーの変身ポーズもそれを意識してるそうです）

～とまあえずお食事開始～

タクミ「あ、この焼き豚美味しい！」

「ウジ、スケベキがあるな  
ケレキ食べていいか?」

天道「…弁当に入ステーキ…普通は硬くなつてうまく無いんだが…」

アスム「ホントですねー美味しいーーあとソウジさん、ケーキは食

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九

五代「ふむふむ… 美味しい！スペイスも丁度いい！」

•  
•  
•

映司『…えー、お食事も始まりましたのですが、皆さん…』注田下  
さい…』

全「…？」

映司『これより、チーム対抗料理対決を行います…』

全「…聞いてないよ！？そんなこと…！」

映司『今回、司会を務めますは、バイト（￥2000）で雇われました火野映司です』

タクミ「あ、それバイトなんだ…」

映司『出場選手はさつきのムカデ競争であまつたメンバーで、ムカデ競争の間に作つてもらいました…！テームは肉じゃがです…』

天道「肉じゃが…明治時代、東郷平八郎が考案したと言う日本版シチュー（というかポトフ？）…しかし、これは完全な和食ではなくお惣菜だ。その点を踏まえるべきであろう…」

ソウジ「あと、いわゆるお袋の味からどれだけ崩さずにうまさを極めるか…短時間だがどれだけ味がしみているか…だな」

ショウイチ「もう、お前らTVのコメンテーターしろ…」

翔太郎「投げやりにならないで下をこ、ショウイチさん」

映司『それでは尺もないでの早速いきましょう、Entryna・

1-王子と鬼が手を組んだ！ワタルエーンドアスム…！』

アスマタ「ハイ！これです！」

アスマタ肉じゃがが来た！

見た目は美味しそうだぞ！

映司『では会場の皆さん、試食してください…』

タクミ「美味しいけど…脂がスゴい…」

ワタル「もちろん、最高級黒毛和牛の脂のりのいいところを…」

ショウイチ「…いや、普通そんな脂ギトギト要らないから…」

ワタル「なんですか!? 高いものを使つと血くなるでしょ！?」

ソウジ「甘い！生クリームよりもケーキよりもシロップよりも断然甘い！ 値段と旨味は必ずしも比例しない！…その考えがある限り旨い料理はムリだ」

マユ「流石おにいちゃん…！」

ワタル「作ったのはアスマです、僕は料理無理です」

アスマ「材料チョイスはぜんぶワタルじや無いですか！? なんで僕になすりつけるんですか！?」

ショウイチ「とりあえず、アレを見てみる…」

天の声（退院）「うつーなにこのギトギト！? 僕だけムダに油浮いてんじゃん！? イジメ！? うぐ！? グフッ！? ! ? ? （吐血）

… アレ

海斗「あー、そつか。ウチの作者油に弱いんだ」

伊達「油負けか… とりあえず吐いてきな〜」

後藤「久々の登場でいきなりお食事中すいませんWordを言わないでござる」

映司『どんどんいきます！』  
ヒロ・2不憫なツツコミと真面目なハーフは何をしでかす！? 乾巧エーンド紅渡！?』

乾「司会おかしいぞ！?』

紅「僕らのはこれです」

イヌクレ肉じやがが来た

見た目は少し煮崩れしているぞ！

剣崎「（パク）…あ、素直に美味しい」

カズマ「（パク）…うん、単純に美味しい」

城戸「（パク）…ほんとだ、純粹に美味しい」

シンジ「（パク）…ですね、普通に美味しい」

天道「うまい、だが…これは…」

ソウジ「確かに…そうだな…」

巧「…つまり何が言いたい？」

道堂「…取り立てて目立つた点が皆無」

イヌクレ「…。」「」

映司『さてさて最後は、EntryNo・3自称万能人間もやしは料理も万能なのか！？門矢士！！』

士「フフン…俺様のはこれだ！」

もやし肉じゃがが来た

フレンチを香る綺麗な盛り付けだ！

タクミ「とても美味しい…ですけど…」

ショウイチ「これはお惣菜じゃなく…」

シンジ「フレンチ料理じゃないの？」

カズマ「うえい？」

士「わかつてないなあ？お惣菜なんて古い古い、これがホンモノの『二クジャーガ』だ！」

天道「…」  
背後に皆既日食オーラ

背後に皆既日食オーラ

ソウジ「…」  
背後に真っ黒なブトティラオーラ

士一 やれ大根の煮物だ、 やれおでんだなんて古い！今は世界を見る  
べきだぜ」

カブトゼクター「キュイイイイイ」

カブトゼクター（黒）「ギョイイイイイイイイ」

シハシ、あれ? 赤いセグメントと黒いセグメント?

海賊・船の力!?

天道「…変身、キャストオフ」 カブトゼクター使用

ソウジ「変身…キャストオフ」  
ダークカブトゼクター使用

Chamge  
Eetle

士「これで俺様の優勝は…」

1  
2  
3  
•

カブト&ダブト「「ライダー…キック…！」」

Rider Kick

±「ん？」

ト&タマト

士「ぐふうーー！」 飛んでいく

夏海「土くううううううううん！」

海東「士ああああああああああああ！？」

小夜「おにいちゃんああああああああああああああああああああああああああああ

あああああああああああああああああんー?」

ショウイチ「…アレ、言つとくか…」

タクミ「たーまやー」

ワタル「かーぎやー」

アスム「しーしょおー」

カズマ「うえーいー(訳・たーまやー)」

シンジ「レンルーん!(訳・かーぎやー)」

ショウイチ「やーしのー」

ダブト(ソウジ)「おーでんー」

翔太郎「みーなみさん」

フィリップ「おーやつさんだろ、翔太郎!?!?」

映司『ぱーんつー』

伊達「おーでんー」

後藤「もひ、5103なんて言わせないーー!(訳・たーまやー、か

ーぎやー)」

大智「まーいー」

海斗「まーいー」

麻依「!?.」

モモタロス「ふーりんー」 なんとなく交じった

乾「ナーヤツテンドお前らあああああああー?あとモモタロス何処からやつてきたあああああああああー?あと津上も言おつとするなーおい、五代、「かれー」とか言つなああああああー!!!

!」

天の声「ね、たつくん不憫でしょ？」

信吾「…同意しかねる…が、とりあえず突っ込むポイントはまだま  
だあるだろッ！…」

天の声「お前もツツコミか！？」

アンク「ライ、アイス！！」

天信「煩い！…」

とりあえず士は地球一周して帰つてきました（着地点・高見大智  
の腹に頭から突っ込む）

映司『…厳正な審査の結果、イヌクレチーム、優勝です！…』

イヌクレ「あの仕打ちで！？」

映司『二位はアスワタチーム、三位はもやし（天道と天堂が怖くて  
子夜以外誰も入れなかつた）でした！』

士「…orz」

ダイキ「よつてポイントはオリジに60pt、リイマジに30pt、

Dチームは0ptだ」

Dチーム「「何それ、ズルい！…」」

ソウジ「…ケー キ食べないか？」

アスマ「フリーダム発動しないでくださいよ…？でも今回は（Dチ  
ーム的な意味で）感謝します！」

ショウイチ「次回に続くぞー」 棒読み

## 十五枚目 リレーと破壊者とフォーゼキター——！（前書き）

〔前回、前々回のあらすじ〕

「バサ」をあ、リイマジ▼Sオリジ▼SDCD&▼W▼

ダイキ「じゃあ、あんたのせいかいもやしちもこのチーム対抗料理対決って事で」

海斗「フッ… そう、この街一番う「さ、みんな、集まれー（ 拡声  
器ボイス）」ま… 大智、無視しないでくれない？」

カブト&ダブト「「日本の味を汚すなッ！」」

}{}

…そして、現在に至る。

比奈「ウチの作者があらすじミステイク過ぎる件について」  
羽太郎「お前も他の文德ニあるのか!?」

## 十五枚目 リレーと破壊者とフォーゼキタ――――――!

昼食も終わり、午後の部が始まるようす。

賢吾『さて、午後の部が始まるらしいが……』

天の声『……てへつ』

賢吾『なんでお前がここにいる……？』

天の声『なんとなく』

賢吾『なんとなくでいるな！邪魔だ！！』

全（（（思いつきりマイク入ってるんですが……）））

小夜『第五種目は障害物リレーだよ！頑張ってね、おにーちゃん』  
マユ『まず一走がパン食い競争、二走が一人三脚、三走がハードル走、四走が借り物競争です！頑張れ！おにーちゃん』  
美羽『いや、貴方達ブラコン自重しなさい！』  
タクミ（それでも公正公平の立場から放送するだけましだと思いま  
す）

比奈『出場選手はコチラ』

映司「パン食いつて簡単過ぎ無い？」 一走

翔太郎「二人三脚と言えば……」 一走

フィリップ「僕たち以外いるかい？」 一走

海斗「ハードルなら任せろ……」 三走

士「ラストはやっぱり俺だよな」 四走

大智「もー勝手にしゃがれ」

海東「コレが『アーカム』…… 五代からウヴァ……否もうちた

後藤「泥棒ですかそうですね」

元警察

伊達「まあまあ、後藤ちゃん」

医者

天道「…フツ…」一走

五代「がんばるよー!」一走

津上「うん!」一走

ヒビキ「ベストを尽くすよ!」三走

乾「…そしてアンカーが何故俺なんだッ!!??」四走

剣崎「カズマ頑張れー」

城戸「シンジ頑張れー」

JK「なんで敵を応援するんですか!?」

紅「…（早く帰りたい…）」

タクミ「…頑張ります」一走

カズマ「うえい!（訳・よっしゃつ!!）」一走

シンジ「レンさん!（訳・頑張る!）」二走

アスマ「ハードルって低いんですね」三走

ワタル「…なんで僕がアンカーなんですか!?コウスケは…?ソウジさんは!/?ショウイチさんは!/?」四走

弦太郎「…最新ライダーなのに…〇ン」

ユウキ「ほつホラ弦ちゃん!応援も仕事だよー!」

天の声『あはははつ…みんなーー』でじゅーだいはつぴょうだよーー!』

賢吾『お前酔つてんだろ!?』

天の声『煩い賢吾。…で、重大発表とは…次の種目でラストだからポイントは10000ポイントだよーー!…』

全「「「定番だけど…今までのはなんだつたんだー！？」」「タクアス（（ぶっちゃけネタが無いんですね、分かりました））

ショウイチ「…位置について…」

全「「「なんであんたが！？」」「

ショウイチ「俺に質問するなああああああああああッ！…」

翔太郎「 フィリップ！？ショウイチさんの後ろに…！」

フィリップ「ああ…照井竜の生靈が…」

夏海「…唯一の出番が…。」

麻依「…ドンマイ…」

ショウイチ「モーいい！位置についてよーいドン！…」

タクミ「え…？ええ…？」

マコ『さあ各者一斉に…おおっと！？タクミくん出遅れました…！コレは完全なミスです！…』

ソウジ『さてと、おーい、ショウイチ！戻つて！…』

リイマジ「…「あんたがな…？」」「

ユウスケ「つてかなんでそこにいるんですか…？」

ソウジ『じつの方が見やすいから…つてかコウスケも暇なう…』

い』

乾「いや、誰が行くか…」

ユウスケ「…お邪魔しまーす」 本部席へ

乾「行くなよ！？」

小夜『セーフィーしているウチに全員パンエリアに…』

タクミ「…え…？」

映司「ええ！？」

天道「……ん！？」

全「「「……え……！？」」

全「「「……フランスパン？」」

天の声『うん。金が無かつたから…あとハンド禁止な』

全「「「しょぼい！？普通アンパンだろ！？」」

ショウイチ『と書つか全員で驚くといつ伏線張ったのになんでしょういんだよ！？』 疙る

天の声『アマテラスツ！？』

映司「うぐぐぐ…ぐへつ！ちぎれた！？」

タクミ「これは意外と…難題…」

天道「おばあちゃんは言つていた…男なら諦める『よし！翔太郎！』

フイリッピ『うううう…！…な…と…』

美羽『ああつとーーー』での天道が跪いた！？その間に連合チームはWへバトンパス！

ソウジ『…あの野郎…』

ショウイチ『ソウジ？』

ソウジ『…（同じカブトの資格者として）…ムツコロス』

ユウスケ『ヤメテゾヴィジザン！…オーテ、メドマベービードジヌードミ』

ダグ姉さん！…！』

カズマ「ウェイ！？」

シンジ「カズマ！擬似オンドウルに反応しない！…！」

比奈『全チーム一人三脚に移っていますが…流石ダブル！早い！』

翔フイ「…当たり前！…」

翔太郎「俺達は」

フィリップ「僕達は」

翔フイ「…一人で一人の「うええええええええええええい…！…！」

翔太郎「つてコラカズマああああああああああああああああ…！」

フィリップ「翔太郎ううううううううううううううううううううう…！」

美羽『あーっと翔太郎怒り任せに走る！走る！走る！…』

比奈『相棒のフィリップはついていくのにやつとの状況です！』

全（（（それでも引きこもりがあんだけついて行けるのはスゴイよ

…））

五代「…あれ？これ俺ら目立たないパターン？」

津上「えーとじじゃあ布団が吹っ飛んだ…-----！」

五代「コタツの上にアルミカン-----！」

・・・

…ヒロー…

天の声『…そして、誰もいなくなつた…』

ショウイチ『なんでミステリー小説になんだよ！？』

ソウジ作)ツツ「ミ

天の声『ノブナガツ！？』

マユ『Wの一人、海斗にバトンパス！続いてリイマジ、オリジと続きます！！』

麻依「海斗ー！ファイトー！」

海斗「応！マカセローーーー！」

大智「…。」

天の声(何故かは察してやつてください)「…」

海斗「ホツホツホツ」

アスマ「ヤツヤツヤツ」二つ一気に跳ぶ

ヒビキ「おりやー」三つ一気に跳ぶ

賢吾『おーい、くれぐれもスポーツマンシップにのつとつてやってくれよ！？』

ソウジ『いいんじやないか？俺が許す』

全『「ソウジさん何者！？』

天の声『ソウジさんはソウジさんですけど…何か？』

小夜『さて、ここでほぼ同時にアンカーへバトンパス！おにーちゃんが一位だよーーー』

士「よつしゃつ一番乗り! セーヒト..... オーナー」

運合

リイマジ「「「タル!!?」」

「恋入」の出来事 今の大業

士「俺なんて【ギル】だぞ！？ 映司はギル化阻止出来るし……だ」

ショウイチ『誰があんな紙を置いた?』

比奈『置いたのは…夏海さん』

ソワヅ『狂う』

天の声』 ちょっととまで！ ちょっととまで！ 僕が書いたのは【鰯味噌】

と【ヒサ】と【ケニヰ】た!!』

天の書『遊遊』がつかひかうべし。

ショウイチ『御託はいい！貴様：逮捕してやろうか…！？』

天の声『え！？オイ！！ちよつまで！！俺は無実だ！！知ってるか

?警察は現行犯以外独断で逮捕出来ないんだぜ！？逮捕状ねえだろ  
！？』

ショウイチ『しのい』の言ひつなああああああああああああああああ  
現行犯！！』

天の声『うわああああああん！！』逃走

ソウジ『オイ、天道。お前ハイクロして真相を見ててくれ……そり  
かいつそ俺に貸せ』

天道「……（しのい）の言ひと殺られるな……）分かつた変身、キャス  
トオフ、ハイパー・キヤストオフ、ハイパー・クロックアップ」

Hyper Clock Up

天の声『ギヤー・ギヤー！！』

ショウイチ『オラ、犯人確保おおおおおおおおおおおおおおおおおお

天の声『無実だああああああああああああああああああああああああ

道力ブトHF「ああ、作者は無実……」

全「……は？」

天道「犯人は……お前だ！！」

鳴滝「おのれカブトおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおツ！……！」

士「……鳴滝……！」

ワタル「ジジイ……！」

乾「てめえ……！」

鳴滝「なつなつ『ディケイド』が悪いんだ!! 私は!!」

天の声（イラッ！）

天の声「ショウイチさん?（一二口芝）」

ショウイチ「あ!すまん!すまなかつた!!」

ソウジ『あー、作者、許してやつて…』

天の声「いえ、そうじゃなくどいてください?（一二口芝）」

ショウイチ「…え?」

天の声「…鳴滝さん?（一二口芝）」

鳴滝「なつなんだ!? 寄るな!!」

天の声「お迎えがやつてこられたみたいですね?（一二口芝）」

全（（（オーラー! オーラがおかしい!!）））

鳴滝「よつ寄るな!!」

天の声「さてと…ツバサ! 鳴滝のクソ野郎がツバサを『やーーー!』の

人間以下のクソ鬼畜ロボットがwww』って言つてたぞ（一二口芝）

「

ツバサ「…何?」

G5!

G5「…てめえ、ツラか

現在放送出来ません。しばらくお待ちください

シンジ「ヒマだからカズマ一発茆やつて」

カズマ「前も俺に振ったよね!?」

ソウジ「まあまあ

カズマ「じゃあ…えー」ほん、ではく

鳴滝「」半死

ツバサ「ふう」清々しい顔

カズマ「…」

ショウイチ「…どんまい…」

天の声「…ウチの世界じゃまだあの程度か…」

大智「!?

賢吾『結果発表…』の勝負、引き分けとする』

オリジ「「「えー!!」」

リイマジ連合「「「…変な罰ゲーム無しで良かつた!!」」

実況側（（（ぶつちやけ鳴滝事件で記録が全部飛んだなんて言えない…））

天の声「あ、あと、オリジはいつも通り帰すけど…仮面ライダー部は新メンバーとして加入ね!」

弦太郎「よっしゃつ…友達作りーー…」

弦ユウ「「オー!!」」

賢吾「…つたく…」

美羽「仮面ライダーになれるかも!?」

JK「美羽さんウキウキですね!?」

士「さてと…後は鳴滝をどうするか…」  
天の声「捨てる、それいらん」  
タクアスワタ（（まあ、そのつり復活するでしょ）うばどねー…（

## 十六枚目陳情！？『ツヨウタロウ』事件！！

TAKAMI LAB 食堂…

そこで何故かあつたナオミちゃん「一ヒー」をのみながらモモタロス以下省略が哀愁に浸つていた。

そこへ…

モモタロス「はあ…」

士「どうした？モモタロス。落ち込んでるモモタロスなんてありえないぜ？」通りすがり

モモタロス「いや…なア、士」

士「ん？」

モモタロス「出番欲しい…」

ウラタロス「先輩も？」

キンタロス「泣けるでえ…」

リュウタロス「出番、増やしてくれるよね？答えば聞いてない！」

士「…流石にどうにも出来ない…な」

イマジンズ「「「えー！？」」

士「よし、出番がかなりある奴らにインタビューして廻るぞ…」

イマジンズ「「「…へ？」」

士「秘訣を聞くんだ！そして、ビバ 出番…俺も出番欲しいし…！」

と言つわけで、出番が欲しい会が出番のあるキャラクターを巡る事となつた…

――――――

ここはG5システム以下省略を大智の父が作ったところだ。  
そこには、機械弄りをしている大智が一人でいた。

大智「……で、俺に？」

士「ああ……イメージinzと俺を救つてくれ！」

モモタロス「オラ！早く教えろお！」

大智「……正直士は結構出番あるんだけどねえ……まあ、ツツコミかボケか明文化したらどう？？」

士「俺は……今ところツツコミか……」

モモタロス「俺はツツコミだな！」

ウラタロス「いや、先輩はボケじゃない？」

キンタロス「モモがツツコミはありえんわ！」

リュウタロス「うんうん！」

モモタロス「お前らな……」

大智「んで……そうだなあ……裏の顔とか？」

士「……それ、イメージinzに出来るわけないだろ……」

イメージinz「……ひどっ！？まあ出来そうにないけど……」「……」

士「じゃ、次いくぞ！」

――

高見研究所から道路を隔てた向こう側には駐車場がある。そこはそこそこ整備されていてちょっととした展望台となっている。そこには

海斗「それで俺達のところに？……海東トス！」

海東「僕に会いにきたのかい？士……アタッククッ！？」

アスマ「師匠、違います、絶対……タクミさん！」

タクミ「でも……僕や海東さんそんなに目立つてないよ？アタック

アタック豪快

「アーティストがおおきなおおきなアーティスト」

士「……大袈裟なんだよ……」

ウラタロス「とりあえず秘訣、教えてもらえるかな？」

「海海コンビ」「ぶつちやけMC」「

「つまり、今の俺！」

モモタロス「だあーー！ そうだ！ 司会ならイヤでも目立つぜ、クソ

野郎！

前は少興の兄を、今がリハートがなんやうでヤアでガ

10

「あ、ダメなハズ!!？」

アスム「ん…」

タクミ「どうしたの？」

アスマ、「海斗さん×師匠、ソウジさん×ショウイチさん……つまり口  
ンビが強いんじゃないですかね？」

「なんでも俺とソバシ【ベア】なんだ!!」

!

タクミ（あれ？空耳かな？）

アスム「ですね…」  
イメージinz「「全否定ー?」」

士「まあ、ヒントは貰つたかな？よし、次だ！」

――

光写真館…みなさん御存知のあそごだ。そこでは光夏海、奥に光栄次郎、お行儀悪くつろいでいるカズマとユウスケ、写真を現像する準備中のシンジがいた。

ユウスケ「…で俺達のどこのこと?…」トトか士は出番あるじやん」

カズマ「そうそう!」

夏海「まずお爺ちゃん初登場ですし」

栄次郎「はつはつは」

シンジ「…」

キンタロス「教えてくれたら…泣けるでえ!」

士「意味不明! ! !」

ユウスケ「…まあ、ぶつちやけ口癖じゃないか?俺は姐さん! ! はい、カズマどいつも」

カズマ「うえー!」

ユウスケ「シンジビ'うわー」

シンジ「レンさん!」

ユウスケ「次、そこの天の声! ! !」

全「「「何処の! ?」」」

天の声「天道様(ヒオウジ)総てを叫ぶ男)の名の下に悪は失せよ! ! !」

シンジ(厨二! ?)

ユウスケ「もう一度カズマどいつも」

カズマ「チーズ! ! !」

ユウスケ「まあ、口癖はみんなあるか…ビ'うわー」

モモタロス「俺、参上!」

ウラタロス「僕につられてみる?」

キンタロス「俺の強さにお前が泣いた、涙はこれで拭いとき! ! !」

ユウスケ「長い!」

リュウタロス「答えは聞いてない! ! !」

士「…ナツミカン！！」

夏海「士くんの場合なら『大体分かつた』です！なんでそれなんですか！？笑いのツボ！…」

士「あははははははははははは…」

ユウスケ「…そして、コレ…」

カズマ「うえい！うえい！うえ ああああああああ…！」

全「…オンドウル！？」

ユウスケ「そう。だからその人のズバ抜けた個性…かな？だから電王らオリジ、リイマジ本編では目立つて人気もあつたんだけど…作者が嫌つてるからムリだね」

士「つまり作者のせい」

イメージinz「なに それ ヒード イ…！」

士「さて…まあ、整理するか…」

高見研究所食堂に戻ると料理中のソウジとツツ<sup>スティッパー</sup>ゴミのショウイチ、自重しない男火野映司<sup>火野映司</sup>がいた。

士「…ついでに聞いてみるか…」

リュウタロス「教えてくれるよね？答えは聞いてない！」

ショウイチ「…マイペースや自重しない」

士「ぶつちやけ目の前の二人か」

映司「え！？俺！？」

ソウジ「ん？」

ショウイチ「ただし、ツツゴミが居なくてはバカの一人歩きだと言つ事で俺はソウジを突つ込むのをやめる…」

全「…混乱するからその発想やめて下さい…！」

和気藹々としている食堂…そこへつまみ食いにきた作者、疲れたさつきのバレー組、そして美羽とJKが来た。

天の声「そーじさーん！ 少しわけて！」

タクミ「疲れたあ…」

アスム「あの程度で！？」

美羽「もう、JK！ しつかりしなさい…」 耳引っ張りながら

JK「ちょ、いたたつ！ 痛い！ 痛いです…！」

士「…あー思つたんだが、お前達の良太郎さえ来ればイメージinz目立つんじゃないか？」

天の声「え…何の話？」

映司「んーっと…かくかくしかじか」

天の声「これこれうまうま…オリジとリイマジの区別が難しいからムリだよ…良太郎は」

美羽「そつそう、結局リイマジの良太郎でなかつたし…」

モモタロス「…ってか、オリジの『リョウタロウ』はどんなのか知らんが、俺達の『リョウタロウ』は『モガミリョウタロウ』だぜ？」

・・・

全「…ええええええええええええ…」

イメージinz「…いまさら！？」

士「じゃ、じゃあ、野上良太郎ではなくモガミリョウタロウっていう別人なのか！？」

ウラタロス「そういう事だね」

美羽「ウソでしょ……」

キンタロス「ほんまのこいつやー…」

海斗「なら…」

海東「もしかして…」

海海「ンビ」「呼び寄せられると…?」

天の声「…よし、ツバサ呼んでくる…」「食堂飛び出す

士「いや、お前がオーロラ呼べよ…。」

映司「…いですよ、オーロラ…。」

ファン… 紫色のオーロラ出現

全「…お前ホントに自重しろよ…!?!?」「…

アスマ「火野さんはまたギルになつたんですか!?!?」

鳴滝「おのれティケイドオオオオオオオオオオオオツ…!…」

ショウ美士「…煩い!…」

アスターク（あ、やっぱり復活した）

映司「…わくわく お座り待機

全「「「…?」「」」

映司「わくわく

タクミ「あのう… 映司さん?」

映司「わくわく

タクミ「映司さん?」

映司「なに? 今絶賛わくわく中なんだけど…」

タクミ「なにしてるんですか?」

映司「いや、いつヒットするかな? … ット!」 少年の田

イメージング「「コヨウタロウは魚じや無いんだぞー!」」「

??:??:「ひあつ」 オーロラからコト

映司「あ

タクミ「あ

士「あ

海海コンビ「あ」

その他全「「「あ…」「」」

・

イメージinz「「リョウタロウー?」「

全「「マジディスカ!?」「

映司「わーい釣れたー(棒)「

リョウタロウ「いてて…あれ?リョウタロスー!ウラタロスー!キンタロス!…と桃。久しぶり!…」

モモタロス「おおおおおい…!…『桃』ってなんだ『桃』ってええええ!…」

リョウタロウ「煩いよ、桃」

モモタロス「…。」

全「(あれ?リイマジのリョウタロウってオリジとキャラかなり違う?)」

リョウタロウ「えつと…どちら様でしょうか?」

士「まあ、当たり前だな」

モモタロス「えつと、こいつはもやじつつて、俺達の世界を助けた?やつ」

士「ちよ、俺は門矢つ…」

リョウタロウ「よろしくね!…もやし…」

士「…。」

モモタロス「で、こいつがホモの泥棒」

海東「いや、僕は海東大樹で、泥棒では…」

リョウタロウ「よろしくね!泥棒猫!」

海東「…。」

モモタロス「で、他は以下省略」

全「「おおおおおおい…!…?」「

リョウタロウ「モモタロス、テキトーはダメだよ!…」

士東「いやお前が言えるかあああああッ!…」

こうして、魔王の世界のリイマジ『最上リョウタロウ』がド耐に合

流する事となつた  
：

## 十六枚目陳情！？『リョウタロウ』事件！！（後書き）

リョウタロウ「最上リョウウタロウです！よろしくお願ひします！」  
大智「まあ、読者の皆様に分かるよう御説明を」  
リョウタロウ「えっと…電王の資格者で桃達と戦つてきました！」  
モモタロス「…にしてもリョウタロウはホントに頼りない…ノロべて不器用で…」

リョウタロウ「煩い、桃たまこ」  
モモタロス「ホント口悪いな！？」

リョウタロウ「とつあえず、これからよろしくお願いします！」

ちなみに…

ツバサ「俺たちも口癖、作らないか？」

海斗「いいね！やうううやうう…！」

アポロガイスト形式で語尾につける口癖にしました。

大智「俺か？俺は仮面ライダーBEST…一番となる者【父さん】

…！」

海斗「あんたもあいつも麻衣もみんな俺が守る【おじやああああああッ】…！」

麻衣「私に…できること【大智・海斗】…」

ツバサ「分かりました、サポートは任せ【破滅】」

ダイキ「俺には温もりは無い…だからこそ…温もりを守りたい【食べるか？】」

エリカ「だつて私、ロボットですから【了解】」

大智「ツバサアアアアアアア！？」  
ツバサ「ふふふのふーです」

リョウタロウ事件一週間後…何事もなかつたかのよつて田中まつこ  
する四人がいた…

映司「…平和だねえ、アスムくん…」

アスム「ですねえ…師匠」

海東「昼食の後まつたりするのはとつても贅沢だよね…海斗くん」

海斗「でも…そろそろアレをする時だと思つんだ!」

映アス海「…アレ?」「

海斗「そつ…よし、やるよ…」

と、言つわけで…

海海コンビ「ガチで探せ!」

映アス「君がなれる…」

映アス海海「超変身…仮面ライダーズ!…」

全「なんじゅそりやあああああああ…!?!?」

リョウタロウ「イエーイ」何の事が分からぬいけどとつあえず  
ノッてみた

カズマ「ウエーイ」上に同じく

海斗「いや、そろそろ他の仮面ライダーに変身してみたいじゃん!?

大智「つまり、お前なれなかつたからやりたいだけだな?」

海斗「(グサツ)…いや…まあ、五百アクセス記念で言つちやつた  
限りには…うん」

士「大体分かっただが、クウガやアギトは無理だぞ?...」ユウスケ  
やショウイチの腹裂くしか...」

ショウイチ「裂いても無理だぞ!?」

ユウスケ「いや、クウガは出来るんだ...」

海東「そう、五代くんが秘宝『アーカム』をくれたからね...しかも  
アークルと違つて取り外し可能だ!」

全「...何それ!?!?」

海斗「...アギトは無理だから放置の方針で...」

「クウガにならうーー」

海斗「さて、フィリップ、変身の条件は?」

明日無(=天の声)「おい、それ俺(が勝手に言つてゐる)の師匠(

『ハルルさん』)とかぶるんじゃないか?」

フィリップ「いや...あれは確かスマブラの世界での条件だらう?...つ  
まつここ(=BESTの世界)では違つんだ」

ハルルさんのベルト適合事情は主にスピノフで挑戦されていま  
すので是非ご覧下さい。

フィリップ「閲覧終了だよ、クウガになる条件はこれぞ!」

- ・誰かを守る勇気
- ・誰かを守るために自己犠牲を受け入れる
- ・優しい心

士「...誰がいる?」

リイマジ「...ユウスケ」

ユウスケ「いや、俺、クウガだし」

映司「...変身!」

全「…勝手に変身するなああ…？」

美羽「あと、クウガは超変身よ！」 ウキウキ

JK「美羽さんやりたそつすね…？」

ファンファンファンファンファンファン…トゥーン  
Eクウガ「…出来た」

全「…ええええええええええええええ…？？」

Eクウガ「…みんなヒドくない？」

海斗「あ、そつか。テレビ本編なら当てはまつてるもんな」

Eクウガ「うん、海斗、あとで裏来い」

タクミ「…いきます！超変身！」

ファンファンファンファンファンファン…トゥーン  
Tクウガ「出来た…」

士「まあ、タクミはギリ分かる」

ソウジ「ん…変身」

ファンファンファンファンファンファン…トゥーン  
Sクウガ「…ん？」

全「…反応薄つ…」

—割愛—

大智「超変身！」

ファンファンファンファンファンファン…

大智「ムリだつたか…」

海斗「じゃ、最後俺だな…」

海斗「まず、両手を腹部に当てるような感じでベルト…アーフルを

出現させる…まあムリだけど」

海斗「続いて右手は人差し指中指を立てて前に突き出し、左手はベ

ルト中央の上におく…そして、右手を右に左手をベルト横までもつ  
て…超変身！そして右手で左手の上から横の突起を押す！」  
ファンファンファンファンファンファンファンファン…トゥーン  
IKクウガ「よっしゃ！成功！」

フィリップ「つまりライダーでは火野映司、尾上タクミ、天堂ソウ  
ジ、プラス一之瀬海斗か…」

（アギ…龍騎になろう…）

フィリップ「…ん？」

翔太郎「どうした？ フィリップ」

フィリップ「…いや、龍騎系ライダーには制限が無いんだ…」

シンジ「…まあ、裁判で使われるくらいだから…」

龍騎、全員クリア

（555になろう…）

フィリップ「条件はコレだね」

- ・死からの復活
- ・クウガ適合

全「…何それ不可能過ぎるだろおおおおおおおおおおおおお…！」

！」

フィリップ「うん、尾上タクミ、君しかムリだ」

タクミ「…うとも限らないと思いますけど…」

P i p i P i p i P i p i P i S t a n d i n g b y

ユウスケ「…超変身！」

美羽「掛け声…！」

：

Complete

Yファイズ「ううしゃあーー！」

全「「「SUGEEEEEEEEE...」

！」「

一応映司もやってみたといふやりやがりました。

全「（（（……なんで？）））

Eファイズ「…なんか硬い…」

美羽「感想それだけ！？」

大智「海斗、変身の説明は？」

海斗「俺の長い変身解説つて需要無いだろ？から割愛」

「ヴリュイ…ブレイドにならフー～

フィリップ「今度もなかなかキツイよ」

・切り札の存在。・カードバトラー  
・相棒との相性が

士「そろそろ全員挑戦もシンディから条件から当てはまりそうなヤツがしよう」

海斗「まあ、以前分かつてるのは翔太郎とシンジが適合…」

美羽「その場合…相棒は翔太郎 フィリップ、シンジ 羽黒レン…？」

シンジ「レンさんー！」

翔太郎「だらうなあ」

カズマ「…逆に俺が条件に当てはまらない…」  
タクミ「…相棒を士さんに補完して下さい」

海斗「……じゃあ、今まで皆勲賞のコウスケと映司はどうなんだろ……」  
大智「条件に当てはまつて……なさそつだが?」

コウスケ「変身!」

トトロ　トトロ

ヨブレイド「っしゃああああああああ!?!?」

全「「「なんで!?!?」」

カズマ「オンドウルルラギッタンデイスカ!?!?」

フィリップ「適合条件にあつてないのに変身……興味深いね!」

ヨブレイド「あ……でもブレイドのFFR率高いから……イヤだなあ……」

FFR恐怖症予備軍

アスターク（（デンガツシャーが挿さりましたもんね……））

映司「これは流石に……変身!」

トトロ　トトロ

エブレイド「あれ?」

全「「「お前はもう自重しやがれ!?!?」」

エブレイド「重つ!」

美羽「感想それだけ!?!?」

（響鬼にならう!）

フィリップ「ブツブツ」

海斗「……フィリップが検索にはまつたから試行錯誤するしか……」

翔太郎「いや、フィリップからメモを渡された……条件はコレ

・実戦含む鍛え上げた力

大智「……俺とタクミとソウジさん?」

ソウジ「……ショウイチは?」

ショウイチ「やつてみてもいいが……ソウジ、なんで俺を呼ぶ?」

ソウジ「イジメは退学だ」 ドヤッ

ショウイチ「イジメつてなんだ!? 退学つてなにがだ!?!?」

アスム「…あのう…服、焼けますよ?」

海斗「そうだった!—これは中止!—流石に女の子いるのにむり!」

麻依（…居るだけだけどね!）

美羽「待って…じゃあなんでアスムくんは服が…?」

士「デイケイド七不思議の一つだな」

シンジ「ちなみに他には俺の服の色の変化、TV版最終回と映画の繋がり、Wの対シャドームーン戦の圧倒的な強さなどがあるよ」  
カズマ「…と言つても作者も七つそろえてないけど…」

明日無「DCD七不思議募集中! 感想などで教えてください!」

アスム「はい?」 超絶スマイル〇円（ただし、オーラにはオマケ付き）

美羽「はい? ジャ「すみませんでした!」な…JK…なんで謝るの!?」

JK「いや、危ないです、美羽さん!—」

大智、ソウジ、ツバサ、タクミ、ショウイチ、ユウスケ、映司適合

（カブトになろうーー）

翔太郎「…『ゼクターに聞いてくれ』…だと」 メモ見ながら

士「いや、どうやって…」

海斗「全員やつていつたら…」

カズマ「ソウジさん、お願ひします」

ソウジ「うむ…キュイキュイイイイン?」

カブトゼクター「キュイイイイイン」

ソウジ「うむ…大智、士、アスムくん、ユウスケ、体が大丈夫なら賢吾…とオマケにライダー好きそうな美羽と海斗もOK」

全（（（…ゼクターと会話したのか…！？）））

シンジ「俺は？」

カブトゼクター「キュイン」

ソウジ「OKだつて」

カズマ「俺も！」

ハセガワ 繁次郎

海斗「ちゅう！？ 映司は！？」

ソウジ「キューイン?」

カブトゼクター「キュイイイイイイイ」

ソウジー『そもそも自重しろ！今までの適合率の高さは自重しないかのだ』

映司「…………ソウジさん、このメカカブトムシ折つていいですか？」

「ジマ、お前が何者だ？」

アスタークワタ（（（ソウジさんがガチで焦ってる…）））

ソウジ「…ゼクターは俺の友人だ！！」

全（（（あれ？さつきの発言聞かなかつた方が良かつた気が物凄く

あらわし

ユウスケ「なんで俺は高確率で適合?」

「その理由、やつと分かつたよ……」

海斗「おかえりー」

まくるのか… それは、君が平成ライダー適合率が極めて高いからだ

！… というか適合しないのはG3システム系統とその他一部なんだ」

美羽「ブレイドにおける融合率みたいなものね？」

フィリップ「微妙な例えだが…まあそうだろう」

士「つまりユウスケは…」

フィリップ「ライダー超適合者（命名者シュラウド）だよ」

ユウスケ「…嬉しいのか嬉しく無いのか…微妙だな…」

海斗「いや、嬉しいでしょ！？」

（電王に…）

リョウタロウ「…電王は次回へ保留にして」

全「…何故？」

リョウタロウ「特異点があるとは限らないからプラットフォームはみんないけるとしてもイマジンによって憑依出来る人出来ない人いるらしいから…」

海斗「Wとオーズも後編にまわす…じゃないと…うん」

士「大体分かった、文字数が多すぎるんだな」

（キバになる）

キバットバット？世「言つておくけど…適合条件は、人より上の存在…だぜ？」

ワタル「大丈夫です、キバット。ここは人外の宝庫のようなものですから」

ユウスケ「…ワタル！それは無いぜ…！」 超適合者

ショウイチ「それって俺の事か！？」 AGIT と言つ名の人類の進化系

タクミ「いや…僕でしょう…。」 オルフェノクと言つ名の人類の進化系

カズマ「うえい！？」 将来性アンデット化危つい&“カズマ”の系譜

アスム「僕は違いますよね」 鬼

ソウジ「ん？」 タキオン粒子浴び過ぎ＝ネイティブ？

映司「俺？違う違う」 自重しない男

大智「うんうん」 最近目立たないがド耐での防御力はチート

ツバサ「俺、人間じゃないからいいもーん」 歩く人知を越えた核

爆弾

ダイエリ「ロボットだから」 ロボット

士「…リイマジでマトモなのってシンジとリョウタロウだけ？」

リョウタロウ「うわあ…」

シンジ「待つて士！カズマは…？」

カズマ「うえい！」

ソウジ「チーズ！俺はまだ人間…！」

海東「でもそのうちオリジナルの一の舞じやない？」

カズマ「…。」

シンジ「ヨシヨシ…おい、馬海東カズマ泣かすな」

弦太郎「…」こんなにキャラ濃い人（？）たちと友達になれるのか…？」

ユウキ「弦ちゃん、ファイト！」

賢吾「あんまりファイトして欲しくないがな」

「ディケイドになろう…」

フィリップ「…ディケイドとディエンドの制限はライダーの資格者

…ただし、激情態は士と海東のみ…だって」

タクミ「あれ？ 海斗…」

大智「ま、こんなもんか…」

映司「うん、残りは次にまわそう」

弦太郎「お、おい！フォーゼは？」

全「「「体が丈夫かどうか」」

弦太郎「…。」

タクミ「と言つか海七…」

大智「今度は電王、W、オーズ、G5の適合事情をしらべるぞ」  
士「ユウスケの能力は何処まで万能なのか！？」

タクミ「あのー…」

シンジ「俺とカズマの出番はあるのか！？」

カズマ「そりいえば後藤さんと伊達さんがいない…」

翔太郎「確かに多過ぎてもシンドイからその二人と女性陣で水族館に

…

麻依「私と美羽さん、ユウキさん以外は水族館つてわけです」

タクミ「海斗つてー…」

映アス海海「「「では、また後編をお楽しみに！」」

## 十八枚目

## オーズとダブルと電王と“系譜”～13ライダーになろう！・後編

まず前編をご覧いただいてからこちらをご覧頂ければ幸いです

海斗「予告通り電王からいくよー！」

（電王になろう！）

士「プラットフォームは制限なし……だな」

リョウタロウ「あとはどのイマジンが憑依可能か…」

・Case of モモタロス

モモタロス「カズマとアスマとショウイチとソウジとワタルと士と翔太郎とフィリップ…」

士「関連性が見えないんだが…」

シンジ「…最終形態剣使い…」

カズマ「あ、なるほど！シンジ賢い！」

士「いや、その場合俺は？」

ワタル「…あれ？超適合者のユウスケは？」

ユウスケ「…電王だけは絶対イヤ」

タクアス（（どれだけひっぱるんだ…このネタ…））

・Case of ウラタロス

ウラタロス「…士、翔太郎、海東、大智、アンク…」

全「…アンク！？」

アンク「ふん！ 知るか！」

タクミ「繫がりはキザ野郎…と」

大智「俺…キザか？」

#### • Case of キンタロス

キンタロス「ショウイチにアスマにカズマ、ワタルにソウジに弦太

郎…そして映司と士」

士「…アスマとカズマはまだ分かるんだが…」

アスマ「なんですか！？」

シンジ「基本スペックが95kg以上のライダー縛りだと思つんだ

が、たぶん映司は紫コアの反応だ」

映司「俺ギルじやないよ！？」

#### • Case of リュウタロス

リュウタロス「シンジにー、タクミにー、士にー、海東！！」

カズマ「最終形態銃使い…ってことか」

アスマ（というか士さん皆勤賞…）

士「あれ？ ジークは？」

リョウタロウ「何者？ それ

♪ Wになろう！♪

フィリップ「時短のためそれぞれの適合を纏めたよ

全適合…コウスケ

・ジョーカー、メタル、トリガー…カズマ、ショウイチ、リョウタロウ、ワタル、タクミ、士、大智、弦太郎ジョーカーのみアスマ

・サイクロン、ヒート、ルナ…シンジ、ソウジ、アスマ、イマジン

ズ、海東、海斗、賢吾

・ファング… 映司

・エクストリーム… カズマ&シンジ、ショウイチ&ソウジ、ショウイチ&アスマ、アスマ&ソウジ、タクミ&アスマ、ワタル&アスマ、リョウタロウ&イマジンズ、アスマ&海東、大智&海斗、弦太郎&賢吾（ユウスケ&ライダーズ）

ちなみに適合しないメモリを使ってもドライバーが動きません

士「…エクストリームはやはり心が通い合つた者同士ってわけか…ユウスケは微妙だが」

ショウイチ「ちょっと待て！なんで俺とソウジが通い合つてる」とになるんだ！？」

ソウジ「受け入れる、ショウイチ」

タクミ「というかアスマ君の適応力の高さが…」

（オーブにならう…）

フィリップ「…これはしらみつぶしにやつていくしか方法が無い…みたいだね…」

アンク「俺のメダルは渡さ無いぞ！？」

映司「と言うかアンク居たんだ！」

アンク「居たわ…」

ちなみにアンクは今までちゃんと居たんですがその発言がことじとく作者に無視されたため目立ちませんでした。アンク好きな人、すみません

もつとちなみにメダルは赤、青、黄、緑、無彩色、紫、橙の各二種ずつを海東のコレクションより抜き取りました。

海東「通りで1／5無いなと思ったら…」

士「…いや、どんだけ持つてんだよ…」

## ユウスケの場合

士「……いや、もう全適合だな……」

ユウスケ「……いや、橙と白？の時スキヤナーが読み込んでくれない……」

士「ほらな？ ユウスケはやつ……ええええええええええ……？」

ユウスケ「だつて……ほら」

映司「ホントだ……動かない……」

アンク「フンッ当たり前だ！そもそもオーブズとは（割愛）」

## ショウイチの場合

ショウイチ「ん！？あれ！？くそ！？」

映司「どうしました？」

ショウイチ「コンボをいれようとすると胸部分を入れた瞬間頭のメダルが飛び出る……○rn」

映司「……つまりタトバ以外のコンボは不可……」

ショウイチ「タトバすら不可……○rn」

ソウジ「……どんま「お前に慰められたくはない……」……」拗ねた

タクミ「あれ？でもまだブラカワニは挑戦して無いですよね？」

ショウイチ「……エ？ナンノコトカナ？タクミクン」

タクミ「ブラカワニは挑戦して無いですよね！？」

ショウイチ「キコエナイキコエナーイ！」

アスマ「ショウイチさん……どうしたんですか？」

ソウジ「……ショウイチ、昔川で遊んでたらカメに……というかスッポンに……ガブつと……らしい」

ショウイチ「……ガクガクブルブル

タクミ（水被りライダーなのになあ……）

映司「俺も蛇ダメですがやつたんですね！！」

ショウイチ「キコエナイキコエナイ――――――」

カズマ「腹くくつてください、ショウイチさん！――」

ショウイチ「俺を呼ぶなああああああああああああああああああ――」

ショウイチ、ブラカワニ適合

### シンジの場合

シンジ「あ、赤だけ適合した」

士「意外だな。龍繫がりで紫もイケると思つたんだが……」

海東「… プテラ、龍？」

士「いや、恐『竜』」

明日無「… もしかして… シンジ！変身してくれ！」

シンジ「え！？…まあとりあえず… 变身！」

タカ！クジャク！コンドル！タージャードール！――

士「何をする気だ…？」

明日無「クジャク光弾を… そうだな… 大智に」

大智「俺に！？」

TSタジャドル「ハツ！」

士「いや、ホントにするのかよ！？」

大智「ぐはつ――… いつてえ！――」 2メートル吹つ飛ぶ

麻依「大智、それで済むの！？」

明日無「やつぱり…」

全「…？」

明日無「師匠（＝ハルルさん）のとこであきらかになつたんだけど… 単色適合は能力がアップするらしいんだ！――」

ツバサ「つまり普通のクジャク光弾だったら大智は吹つ飛ばないのに一メートルも吹つ飛んだってことはウチでもそのルールが適合されるつてこと！――」

大智「俺は実験台やないぞ！？」 マジギレ「分前

麻依「大智、ストップ！ストップ！」

シンジタジヤドルの場合… クジャク光弾及びギガスキンが通常の3・5倍の威力

単色適合について詳しくはハルルさんのスピノフを見て下さい

タクミの場合

タクミ「これ…絶対乾さんはラトーラーター単色ですよ…猫舌だし」  
ソウジ「猫舌は関係無いと思うぞ」

士「とりあえずタクミはどうだった？」

タクミ「えつと…これだけでした」

シャチ！ウナギ！タコ！シャツシャツシャウタ！シャツシャツシ  
ヤウタ…！」

〇トシャウタ「シャウタのコンボボイスイイですよね」  
海斗「うんうん！シャツシャツシャウタ シャツシャツシャウタ  
タクミシャウタの場合：水中移動の速さが2倍速くなる + シャチ  
放水の威力、飛距離2倍

カズマの場合

カズマ「チーズー！手伝つてー！」

士「そのくらい一人でしろ！」

カズマ「うえ…うえええええ…！」 泣

士「あー、もー分かつたから泣くなみつともない！」

明日無（カズマが着々と系譜を踏んでいってやがるよ…）

カズマ「結局、ガタキリバだけだつたー」

明日無「…いや、ちょっと待て。それだと俺の立つ瀬が無くなるん

だ。他ホントに無いのか?」

士「縁以外受け入れないんだ」

明日無「いや、いくら雷属性(?)で虫だからカズマ…」といつても  
也二適合

他に適合か

アスム「どうしてガスマのガタキリハ適合を恐れてるんです?」

明日無「…カズマの緑色単色適合能力は目に見えてるんだ…」

トムス・ダーリング

明日無「…士、お前が一番身を持つて知つていたぞ…師匠のとこで

は……それでも分からぬいなら……アレをみろ」

ええ！」「

全「「「オンドウルルラギツタンディイスカ———!?!?」」

カズマ、ガタキリバの場合…最大759体まで分身可能（現時点）

（）で

## アスムの場合

ショウイチ「…お前、俺の弟になるか…？」

「……………」  
「……………」

「…弟にしてやるが…？」

ショウイチ「ああ……来い、タク!!」Jの前をせぐれただろう

アスム「あつちやあ  
赤がだぬか

士「……響く鬼から炎が消える……だと！？」

アスム「あ！これはいけました！」

ライオン！トラ！チーター！ラトラター！ラトラーター！！

アラトラーター「にゃん」両手を曲げて片足上げて猫のポーズ  
士「…いや、何を狙ってるんだ！？」アスム！？「ウツカリときめ  
いた

全「「「…………」」むしろみんなときめいた

海東「…少年くん…君、伊吹鬼流にはいるべきだつたんじゃないか  
な？」鼻血の川源流

アラトラーター「あそこ男子禁制です」

美羽「イブキさんは男だけ？」

アスムラトラーターの場合…速さは100mを0・105秒+ラ  
イオディアスの攻撃時間最大3分

### ソウジの場合

ソウジ「あー、カズマとかぶつた

大智「つまりガタキリバ単色適合…」

クワガタ！カマキリ！バッタ！ガータガタガタキリバガタキリバ

！！

TSガタキリバ×50「「五十体以上増えないな…」」

ショウイチ「ソウジが百人とか地獄だぞ…（…主に俺に）…」

明日無「ふふふふ…俺たちはもう…地獄に居るじゃ無いですか、シ  
ヨウイチアニキ？」

TSガタキリバズ「「「オイ、こらそこ…やさぐれるな…あと、み  
んなに言つておく…」」

全「「「？」」

TSガタキリバズ「「「クロックアップ可能だ」」

全「「「もはやはるかにチート超えてる！…？？」」

ソウジガタキリバの場合…クロックアップ（に限りなく近い速度

リョウタロウの場合…

リョウタロウ「… 橙できた！」

全「… 七転び八起きブラカワニですかそうですね？」

リョウタロウ「結果的にタトバと橙と… イマジンだね  
士「ここまでくるとショッカーもいけるんじゃないかな？」

リョウタロウ「… 入らない…」

タクミ「ショッカー メダルがツンデレな件について」

アスム「それよりもサゴーヴがツンデレな件について」

单色適合で無いですがリョウタロウブラカワニは通常より少し早く回復出来ます、七転び八起きなんで

## ワタルの場合

ワタル「ふふふ… ふふふふふふふふ…」

リョウタロウ「ねえ、あの子つて何歳？」

(ワタルは十三歳設定です。アスムも十三歳設定)

ワタル「ふふふのふー」

士「ワタル、お前年齢サギか？」

海斗「というか早く発表したらどうだ?」

ワタル「いいんですか? いいんですね?」

シャチ!ウナギ!タコ!シャシャシャウター!シャシャシャウタ!

!

Wシャウタ「ふふふのふー」

全( ( (ドS王子に電気ムチ…だと…?) ) )

Wシャウタ「ふふふのふー?」 海東を見る

海東「う!…につにげ」 ウナギムチ束縛

W シャウタ 「ふふふのふー？」

ワタルシャウタの場合…ウナギムチの長さ×3+電流の強さ×3・

5

海東はワタルによつてクソまづく頂かれました

士の場合

士「まずこれ」

タカ！トラ！バッタ！タトバ！タトバタツトツバ！-

K T タトバ「んでこれ」

タカ！クジヤク！コンドル！タージャードル！

K T タジャドル「あとこれ」

シャチ！ウナギ！タコ！シャツシャツシャウタ！シャツシャツシ

ヤウタ！-

ブテラ！トリケラ！ティラノ！ブツトツティラーノザウルース！

！K T プトティラ「あとはカマキリとライオン…」

映司「うん、とっても微妙」

海東の場合

海東「…………」全身がもはやおかしい方向に曲がっている  
ソウジ「『僕は何故か白以外は全適合だよ』…と言つている

アスム「なら師匠ブラカワ二になつてくださいよ！…？？」

海東回復中

翔太郎の場合

翔太郎「…何故かコレだ…」

サイ！ゴリラ！ゾウ！サゴーゾ…サゴーゾ…！

全「…シンデレサゴーヴ…?」 「…

明日無「押すゾ?」

映司「作者、それサゴーヴ違い」

HUサゴーヴ「…ホントなんでこれ?」

士「ダブル軽いのに…」

タクミ「というかどうして翔太郎さんなんだ、サゴーヴ…?」

翔太郎サゴーヴの場合…重力操作範囲×2+全体的パワーアップ

フィリップの場合

フィリップ「…やれやれ…「レだけか…」

! プテラ!トリケラ!ティラノ!プツトツティラノザウルース!

ワタル「…ファング関係?」

SRプロティラ「恐らくね?だけ?…「レはとても興味深いね!」

大智「検索は変身を解いてからお願ひします」

フィリッププロティラの場合…動きが身軽になりクロックアップ並みのスピード

大智の場合

大智「…へえー青と白と橙は反応してくれ無いんだ!」

タクミ「橙も相当なシンデレですよね」

カズマ「というか大智の防御力からいくと白も橙もなんで適合し無いんだる?…」

シンジ「…カズマ、俺はカズマにそっくりそのままそれを聞きたいよ…」

明日無「というかそもそも俺は“カズマ”の系譜について知りたいよ」

「…」

大智「中でもしつくりくるのはコレ」

タカ！トランバッタ！タトバ！タトバタツトツバ！！

TDタトバ「ぼよー————ん」  
バッタレッグで超大ジャ

「高シ！？」  
「え！？」  
「ちよ！」

カズマ、イイなあ、俺もやりたいな、……」

シンドジーなら大智におんぶなりなんなりしてもらつて一緒に飛んだ

アスム「…それじゃ意味な「うえい！！」…くも無いんですね！？」  
大智のバッタレッグは東京スカイツリーを軽く飛び越えます。

## 海斗の場合

海斗「やつふううううううううーー。」

全「「「...What?」」」

! !

タカ！ クジヤク！ コンドル！ タージャードル！！

タケミ、モニレエはタシヤトルは優しくしてすよね。

66

映同「」の隠し文字が見えない!?

海ナタジヤドレの湯】 僅限までクロツカラツプに近い速度で飛

べます。

## 弦太郎の場合

弦太郎「まさかの…」

全「... おなかの?」」「

サイ！「ゴリラ…ゾウ…サゴーツ…ガゴーツ…

KGサゴーツ「サゴーツ…キター……！」

全「…白いおにぎりライダーはやはり白かった…！」

賢吾「いや、エレキとかファイアーとかで色変わるが…？あとおにぎりじゃない…！」

弦太郎サゴーツの場合：重力操作によつて自分が飛べる+重力操作の性能UP

大智「こんぐらいか…」

海斗「いや、BESTやG5は？」

フィリップ「BESTは高家の本家筋末裔で陰陽の血が強い者、G5は…ほぼ不可…つまり、G5はおいといてBESTは大智のみだろ？」

全「…めんどうせえ…！」

大智「当たり前だ！」

フィリップ「これにて一応終わり…だね」

明日無「あ…いやあオース面倒くさい…」

士「しかしショウウイチがまさかカメニガテとは…」

カズマ「可愛いのに…」

ショウウイチ「…殴られたいのか？」

映アス海海「…ではまたお会いしましょーつーちょーならー…！」

ソウジ+思いつき=要注意！？→学力テストで逝こう→

ソウジ「時にショウイチ…仮面ライダーを見ている世代とは?」

ショウイチ「きゅつ急になんだ？ 恐らく幼稚園児から小学校…」

広く愛されてるんだー。」「

ジコハチそそがなのが

シロウトイチ「井あ、寺最<sup>ミツ</sup>お子様イメージが強くてあるがひな」

ソウジ「とこいわけで…」

100

ソウジ「仮面ライダーも学習せよ！抜き打ちテスト！」

全集

ショウイチ「どちらかといつとお笑い系を見るぞ!？」

シンジ - え、アトマの世界! ?

「アーニー、マジで？」

翔太郎「あー、それ以上は難しいから置いておくぞ」

士「だから呼び出される前になんかテスト的なものやらされたのか

! ?

ソウジ「教えたなら抜き打ちじゃねえだろ」

(テスト(全五問)はリイマジと士、海東、翔太郎、映司、弦太郎、大智が受けました)

ソウジ「御託はいいッ！…採点したが：なんだこの結果は…！」

タクアスワタ（（（ソウジさん、酔つてません？）））

ソウジ「とりあえず正解をみて学べ！」

全「「「ええええええええええええ！」？」」

シンジ「…読者の方も問題に挑戦してください」

- ・第一問、何かと話題になつた原発のエネルギー源答えよ。

ソウジ「流石に分かるよな…？」

ショウイチ「最近ニュースでよく流れてたし…」

シンジ「ATTASHIジャーナルも取り上げたし」

全（（（龍騎の世界の住人以外ATTASHIジャーナルの雑誌読めませんが？）））

ソウジ「正解はこちら」

(大智の答案) ウランやプルトニウムなど

大智「専門的に言つと…」

ショウイチ「ヤメる、誰もついていけなくなる」一応公務員  
ソウジ「…実際大智の答案大抵、模範解答レベルだった…とりあえ  
ずどれか一つでも書けていれば丸…不正解者は…ユウスケ、ワタル  
くん、弦太郎」

不正解者「…ダッテワカラナインダモン…！」

ソウジ「そんな彼らの解答を見てみよう」

(ユウスケの答案) 石油

(ワタルの答案) ロカ

(弦太郎の答案) 水

ショウイチ「ワタルの答案が危な過ぎる！？」

ワタル「パツと浮かんだ単語がそれだつたんですね」

ショウイチ「いや、それ余計危ないぞ！？」

翔太郎「と言うかユウスケ…それじゃあ火力発電だ…」

ユウスケ「あ、そつか」

ソウジ「あと…正確に言えば水は使うんだ…使つんだが…エネルギー  
ー源では無いから…バツ」

弦太郎「もしかしておしい！？」

大智「…不正解には変わらないが」

- ・第二問、無人島に漂流してしまった。飲み水を確保するには下記の物のどれかを組み合わせて使ってどうしたら一番良いか？

持ち物：黒いゴミ袋、石、コップ（一つ）、スコップ、海水、木の枝

タクアスワタ（（（いきなり難易度急激に上がりますよねー！？））

ソウジ「尚、これは一番効率のいいやり方が正解だ」

士「…まず、火を起こして海水を使って蒸留させるのが普通だろ？」

ソウジ「…だけどコップ一つで蒸留はムリだろ？」

翔太郎「そつなんだよ…何か…何か方法が…」

ソウジ「じゃ、答えはこちら」

（映司の答案）まずスコップである程度大きな穴を掘ってその中心にコップを置く。つぎにその上に黒いゴミ袋を穴に被せて周りを石で重しにし真ん中に石を置いて待つ。

全「…なんでそれが正解？」

映司「ほら、地面の下つて湿つてるだろ？地面の中にも水分があるんだ。だから掘ったところから出てきた水分を黒いゴミ袋で受け止めて更に真ん中の石で高低差をつけてるから集まつた水滴が上手くコップに入るってわけ」

ソウジ「映司は流石放浪人としか言いようが無いな…大智と映司のみ正解だ」

不正解者「…こんなもんわかる訳無い…！」

ソウジ「にしても不正解は大抵蒸留を何とかしようとしてた者ばかりだ（ワタルは川を探す、アスマは井戸を掘るだったが）…しかし

弦太郎…「コレはヒドイぞ」

（弦太郎の答案）海水を飲む

全「…その発想マジ危ねえ！…」「…」

弦太郎「飲まないよりマシだろ！…？」

ソウジ「万が一海水を飲んでしまつたらその塩分のため死ぬまで飲み続けなくてはならなくなつてしまふ（らしい）ので大変危険です、絶対にやめましょ！」

- ・第三問、日本最古の物語は？

ソウジ「…みんなも昔読んだよな？」

大智「日本国民なら概要は知ってるはず…」

ソウジ「答へばコレだ」

（アスマの答案）竹取物語

（注：かぐや姫でも勿論可）

ソウジ「不正解者は…ワタルくんとリョウタロウ…」  
リョウタロウ「あ、竹取の方か…うつかり源氏に…」

ソウジ「ま、許容範囲内だな問題は…」

（ワタルの答案）ブレーメンの音楽隊

全「「「日本じゃねえええええええええええええ…!？」」  
ワタル「そうなんですか？」

ソウジ「といふか弦太郎が正解だからワタルくんが最下位だぞ」  
弦太郎「古典は任せろ!」 古典のテスト29点

大智「任せられねえよ!…?」

ワタル「知らないものは知りません」

タクミ「開き直らないで頑張ろうよ!…?」

・第四問、次の英語を日本語に訳しなさい。

History repeats itself.

ソウジ「ちなみに諺だ」  
ショウイチ「有名だな」

ソウジ「答えは…」

(ワタルの答え) 歴史は繰り返す。

ソウジ「不正解はアスマくんに弦太郎に海東か」

ショウイチ「弦太郎かワタルが必ずいるな…つづうか海東…」

海東「僕はちょっと読み間違えただけだよ!…?」

(海東の答案) 歴史は僕のお宝さ

ショウイチ「いや、どこのをどう間違えた!…?」  
海東「…」 口笛

アスム「英語なんて…！…英語なんてええええええええええ！」

号泣

大智「ヨシヨシ、泣くな泣くな」

士「まず猛士たけしが英語を使うのは考えにくいしな」

(アスムの答案) ヒステリー起りなによつてしましちょう?

アスム「えぐつ…えぐつ…」 泣き

カズマ「…、うん、ドンマイ」

シンジ「まずハテナマークある時点でアウト…」

タクミ「言わないので優しいです」

・第五問、下の名言の　のところに当てはまる答えを入れなさい。

- (1) と悪人、何かと迷惑な存在なのだ。
- (2) は飯から… と言つ字は人が良くなると書くつてな。

ソウジ「最後は仮面ライダーっぽくしてみたぞ!」

大智「どおりで分から無いと思つたら!？」

タクアス((といつかコレ名言なんですか?))

ソウジ「答えは…」

(土の答案)

(1) 神話

(2) 病・食べる

ソウジ「流石は様々な世界を旅する破壊者だな！」

士「ふん！当たり前だ！」（1）がアポロガイストで苛ついたが…」

ソウジ「不正解者は…（1）がワタルとアスムとタクミとリョウタ  
ロウと映司と翔太郎と大智…」

全「…大智！？」

大智「ヨイ、俺は仮面ライダーアギトとクウガくらいしか見てない  
ぞ…（しかも記憶飛んでるし）」

（大智の答案）戦争

全「…マジメだなあ！？オイ！…」

大智「だつてこれしか…！…」

185

ソウジ「そして（2）が大智のみ」

大智「俺だけかよ…。」

カズマ（仮面ライダーの知識少な過ぎじゃない？）

シンジ（…典型的な特撮離れティーンズだな）

（大智の答案）

全「…白紙かよ！…」

大智「…なにが当てはまんだよ…。」 悶絶

ソウジ「あと…ティーンズ代表弦太郎が第五問正解なのが意外」

弦太郎「当たり前！仮面ライダー部のメンバーが仮面ライダーを知

らなかつたらだめだろ！！」

全（（マスクドライダーサークルの  
部員が知らなかつたけどね！…））

ソウジ「さてと…正解率TOPは…」

タクミ「火野さんじやないですか？」

カズマ「えーじじや無いですか？」

シンジ「火野映司くんじや無いですか？」

リョウタロウ「僕を呼んだ人じや無いですか？」

ワタル「自重しない火野さんじやないですか？」

アスム「自重しない男の方じや無いですか？」

ショウイチ「自重を知らない男だろ？」

映司「うん、ワタルくん以降後で裏こい」　ウヴァ完全体オーラ

士「…と言つて…TOPは政治家ボンボンだつたぜ」

海東「エンディングはオーズくんの怒りを見ながらお別れだ！」

ユウスケ「いくら自重しない男だとしても映つてるから抑えなよ？  
…さよーなら…」

その後上三人も自重しない男にヤラレマシタ

## レッジ・コタツロー・パーティー

カズマ「そろそろ年末だねえ」「

シンジ「その前にXmasもあるな」

タクミ「Xmasがあ～」 リア充

ショウイチ「Xmasだな～」 リア充

士「そう言えばそうだな…」 リア充

シンジ「…なんだろ？、この言わなきや良かつた感…」

カズマ「でもここリア充率低いよね…」

ソウジ「仮面ライダー初の本格恋愛モノのキバが少年ライダーだからじゃないか？」

ユウスケ「そう言えば、ワタル、去年どうだった？」

ワタル「僕のところには去年一サンタ（お父）さんから一スパイダー

ファンガイア（おもちゃ）が届きました」

ショウイチ「そこは素直にサンタさんと言えええ…！」

士「あとついでになんてモノ送つてんだあの父…！」

ユウスケ「みんな、なんかサンタさんエピソードある？」「

カズマ「…6歳の時あつたよ…」

士「何があつた？」

カズマ「朝起きたら…コンクリート片があつて…」

全「…ええええええ！？」

カズマ「ちょ、最後まで聞いて…！」

ショウイチ「…正直これ以上ショッキングな爆弾は無いと思つ

士「ああ…」

翔太郎「お前の親なんだよ…」

カズマ「…ちゃんと聞いて…。」「

涙ぐむ

士「あー、すまんすまん、泣く泣くなカズマ、よーしょし」あやす  
一分後…

カズマ「…まあ、コンクリート片があつて、なんだろうと思つて持ち上げて…」

翔太郎「色々見てみた?」

カズマ「うー、それもやつたけど…」

映司「投げてみた?」

全「「何に!?」」

映司「サンタに」

カズマ「…いや、投げてないよ?」

シンジ「食べてみたんだろ、なんか分からぬいからどりあえず」

カズマ「うん」

士「まあ、小さな子つてなんでもかんでも食べようとするからな  
海東「うん、普通だね…」

全「「食べてみたああああー!?」」

カズマ「うん」

シンジ「味は?」

カズマ「んー、マズかった」

シンジ「まあ、消化出来たんだから大丈夫じゃない?」

カズマ「うん」

ショウイチ「いや、大丈夫じゃない…色々と大丈夫じゃねえええ  
!…」

アスム「これ以上の思い出あります?」

全「「ない」」

翔太郎「と言つたそれだけだったのか!?プレゼント!!」

カズマ「いや、実はコンクリート片はプレゼントじゃなくてホンモノはなんか電車のオモチャだった」  
士「何がしたかったんだ…コンクリート片で…」

ソウジ「よし、コタツ出来たぞ～」

全「おー……」「

大智「おー……つて、研究所を好き勝手にするな！？つてかいつの間に！？」

ショウイチ「テレビでも見るか……」 インコタツ

大智「和むな……」

結局みんなコタツに入りました

カズマから時計回りに会話（ただし、翔太郎とフイリップの前後は賢吾 フイリップ 翔太郎 海斗の順）

カズマ「…律儀にミカンがあるね…」

タクミ「まあ…欠かせない…かな？」

リョウタロウ「いっただっきまーす」 ミカン取る

シンジ「…あー今から鍋が出て来てそれが混沌を呼ぶんだと思つとミカン食べるしかねえ…」 ミカン取る

士「シンジ、それどこ情報だ！？あとお前夏海を食べる気か！？」

夏海「なんでそこは名前で呼ぶんですか！？」

海東「そうだ、士！ナツメロンに謝れ！」

アスマ「師匠も聞違えます！…」

ユウスケ「いや、だからさ…」

ワタル「できるはずです！…四回し…」

ショウイチ「あれ？ソウジは？」 ミカン食べてる

隼「…始めての出番がここか…」

野沢間「…」

JK「いやー、寒い日はコタツに限りますね～！？」

美羽「チアの格好、当たり前だけど寒いしね…」

ユウキ「なら宇宙服貸しましょつか？」 制服のポケットから宇宙

服out

弦太郎「賢吾！ラビットハッチにもコタツ作ろうぜーー！」

賢吾「あー、確かに月面寒いからな…つてバカか！置く場所がねえだろうが、場所がーー！」

フィリップ「翔太郎ーー興味深よーー！」

翔太郎「あー、コタツがか？」

フィリップ「いや、月面ーー！」

翔太郎「何故そつちにいつた！？」

海斗「と言うかもはや“地球”じゃないーー！」

大智「けつこうな人数だな…」

麻依「へえ、比奈さんも大変ですね…」

比奈「まあ、お兄ちゃん帰つて來たから…うん」

泉「アンク、落ち着け」

アンク「落ち着いて居られるかーなんかかなり俺が浮いてるじゃねえかーー！」

映司「まあまあ、座つて座つて、ミカン食べる？」 ミカン差し出す

小夜「お兄ちゃん落ち着いて？」

マユ「お兄ちゃんどこー？」

ソウジ「みんなー、鍋出来たぞー」「 廚房から鍋持ちながら○ut

マユ「お兄ーちゃん」

全「ーーつてか鍋！？いつの間に！？」

ダイキ「もともと今夜はそうするつもりだったんだ」 廌房から鍋持ちながら○ut

ツバサ「手伝いでーす」 廌房から鍋持ちながら○ut

エリカ「いや、ツバサ何もしてなかつたよねー？」 廌房から鍋持ちながら○ut

モヤモヤ… 鍋の匂い

士「ところで何鍋だ？さつきから物凄くえげつない匂いが…」

モワーン… 鍋の匂い

ソウジ「んー、何か色々いたから… 分からん」

モヤワーーン… 鍋の匂い

ショウイチ「大丈夫なのか！？コレ！？」

モフアーン… 鍋の匂い

ソウジ「大丈夫。：カメラが撮影出来なくなるの覚悟なら…！」

全「「「大丈夫じゃねえ！！！」」

：あれ？

翔太郎「どうした？」

いや、カメラの調子が…

ブチッ！！

：あ、完全に壊れた。

全「「「早速かよ！？」」

これ以降音声で頑張りますので、誰がどれか推理してみて下さい。鍋は四つあるので四組に別れました。ただし、ロボット達は食べません。なお、一つのグループ内の同じ番号の人は同一人物ですが鍋その1の1番と鍋その2の1番は違う人物…という様なルールです。

鍋その1～この中に土と海東とユウスケとカズマとシンジとショウイチとソウジがいます

1「ホントに壊れるなんて…」

2「ああ…」

3「お前…あんまりやらかすなよ…突っ込むの体力いるんだぞ…」

4「さ、誰から取ろうか？」

5「じゃ、俺から…ヨシヒト…」

1「何が取れた？」

5「……なんでレンさんの写真なの…？食えないじゃん…」

6「…何故だろう、お前がそれを言うと二つの意味で捉えてしまつ

…

5 「なんで！？」

6 「いや…すまん。他の世界のお前がそつだからだ…」

7 「次俺！…ウエイ！…」

5 「ちょつ！俺まだ食べ物取つてない！…」

7 「…チーズ！？」

3 「…つておい、ソウジ…チーズが全く溶けてない状態ででて来たぞ！？」

4 「この鍋の中はどうなつているんだい！？カブト…」

1 「これが天堂ミラクルですか、そうですか！？」

6 「お前は常識の破壊者か！？」

2 「…と言われてもな」

鍋その2～この中に仮面ライダー部のメンバーがいます～

1 「かつカメラが壊れるなんて…有り得ねえ…」

2 「コズミックエナジーが働いたのか…！？」

3 「絶対違うでしょ…！」

4 「…」

1 「とにかく俺からとらせてもらつぜー…おりやー…」

5 「なんだそれは…！？」

6 「あ、おでんの宇宙食だ！！」

7 「そんな宇宙食あるんスか！？」

3 「と言つかせめてパックから出しなさいよ…」

4 「…」

1 「おい、賢吾、次どれよ」

2 「…お、おづ…よつ」

6 「え…！？」

5 「何…！」

2 「バガミール…！？」

3 「ちょつ…？何てものいれてるのあのマイペース…」

予想外に分かりにくくなってしまったのでヒント…5はキングで  
7は神敬介エエエエ…です。

鍋その3～」の中にフイリップ、翔太郎、映司、アンク、泉、大智、  
海斗、麻依がいます

1 「なつ鳥、だと！？」 タンドリー チキンGET

2 「え？ なんでアイスがとけて無いんだ！？」 アイスGET

3 「アンク、俺もアイス取れたから交換しよう！」 アイスGET

1 「当たり前だ！」

2 「あーずるい映司くん…！」

4 「何このオーブズチームのアイス率！！一人（？）共食いだが」

5 「あ、おつきなしゅうくりいむだあ！」 おつきなしゅうくりい

むGET

6 「ウソだろ！？」 あ、良かつた、俺は豆腐だ」 豆腐GET

4 「…何で大智よりしょぼいの、俺！」 菊菜GET

7 「…検索を」

8 「始めなくていい…！」

鍋その4～」の中に比奈、小夜、マユ、夏海、リョウタロウ、アス  
ム、ワタル、タクミがいます

1 「…」 何かをGET

2 「どうしたの？」

1 「…！」 何かを戻す

3 「わ、ワタル！ キバットをお湯に戻さないで下さい…！」

1 「取らなかつた事にするだけです」

2 3 「やめて上げて下さい！？」

4 「ミッミカンつて何これイジメですか…」 ミカンGET

5 「…あ、桃が取れた」 桃GET

6 「」のおでん（卵）はお兄ちゃんが作ったモノかな？」 おでん

（卵）GET

7 「一体この鍋の中は何なのかな…？」

何かをGET

∞ 「 ちが 一 一 一 ? 」 『 』

全「「「月影だとシ一?」」」

月影「何かの正体」

シヨウイチ「何てもの

江ノ島の名所

新春あけおめ♪♪！（だけど中身はそうでもない？）

映司「あけまして…」

全「…おめでとうござりますーーー！」

弦太郎「つて、なんで俺じゃ無く火野さんなんだ！？」

映司「あは」

賢吾「いや、それを言つと本来主役であるはず高見が何故それをしなかつたのかが問題だと思つ…」

大智「なんか…何時の間にか年あけたな…」　問題の高見

海斗「ほんとだよ…色々あつたな～」

麻依「まあ、主にあの人たちが原因なんだけれどね…」

ワタル「ユウスケ！」　原因

ユウスケ「だからダメだつて！」　原因

アスマ「ゴーヒーいました～」　原因

タクミ「あ、ありがと～」　原因

海東「少年くんナイス！」　原因

士「あれ…俺の分は？」　元凶

カズマ「うえ？」　問題児

映司「うえーーー」　問題児

翔太郎「何語！？オンドウル！？」　不憫

フィリップ「ヤレヤレ…」　問題児

ショウイチ「正月と言えば…おせちだろ！？なぜおでん！？」

ソウジ「ん？いや、おでんだろ」　超元凶

伊達「だよなあ」　超元凶

後藤「石頭石頭石頭石頭石頭石（「」）」　石頭

シンジ「終焉終末終焉終末終焉終焉終焉終（「」）

異世界病重症

患者

辰巳シンジが異世界病なのはハルルさんのDCDRW及びスピノフをみれば分かります。辰巳シンジに癒しを！

ダイキ「…一人ドンマイな奴がいるぞ」

エリカ「せめて2人にしましょつよ」

ツバサ「ふふふのふー」元凶

弦太郎「…いや…本当にこんなメンバーと友達になれるのか…？」

ユウキ「だいじょーぶ！弦ちゃんもキャラ強いから！」

弦太郎「それ褒めてるのか！？」

賢吾「そういうえば…仮面ライダーフォーゼ見てて、俺の体弱い描写が全然無い気がするんだが？」

ソウジ「確かに体が弱いから変身出来ないんだよな？」

賢吾「そうなんだが…なつ！」

弦太郎「どうした賢吾！？」

賢吾「…ガンバラライドカード一枚なくなってる…」

全「…オイコラ」「」

タクミ「と言づかガンバラライドしてたんですか！？」

弦太郎「誰が盗った！？」

海東「フォーゼくん熱いね」

ワタル「そうですね、後でオホーツク海に突き落とします」

アスム「下手したらオホーツク海蒸発ですね…」

ユウスケ「いやいやそれ人間業じやないから…マグマードーパントだ

からー！」

大文字「普通に考えて一番怪しいのは海東とか言つやつじゃないか？」

？」

海東「今回だけは僕じゃない」

美羽「じゃあワタルくん？」

ワタル「オホーツク海行きですね」

弦太郎「じゃ、誰だよ！？」

？？？「おはよー」

海バサ「おつはー」

全「誰かキター————！」

大智「なあ、海斗とツバサに突っ込んでいいか？」

麻依「聞いた瞬間もうアウト……」

明日無「ん？お前は……」

映司「もしかして……この前の？？」

高野エイジ「おひさしひぶりです！先輩！皆さん！」

映司「あー！やつぱりー！……って俺先輩！？」

エイジ「ハイ……」

日置ジン「お、おい、エイジ！お前盛大にネタバレ……」

エイジ「お正月だし、無礼講で行こうぜ、ジン……」

ジン「あー、モー……」

弦太郎「もしかして……」

弦太郎「お前らが賢吾のガンバラيدカードを！？」

エイジ「え？ ガンバラيدカードならさつき拾つたけど……コレ？」

賢吾「それだ！！そのフォーゼー！」

美羽「ほんとフォーゼ好きね！」

野沢間「…この前…フォーゼ以外のカード全部捨ててた…」

JJK「食わずに嫌い！？つてか捨てるくらいなら売りましょううつよ…」

弦太郎「早く返せ…！」

エイジ「はい、どーぞ」

弦太郎「サンキュー おう… 賢吾…はい、カード…」

賢吾「傷ないな… 怪我ないな…」

仮面ライダー部「「過保護か…！」」「」

明日無「困ったな…」

士「どうした？」

明日無「いや…」

ユウスケ「一月一日からしようとしてたけどミスって去年の大晦日から新連載の仮面ライダー×仮面ライダーのキャラクターでしょ？2人」

海斗「あれミスだつたんだ…？」

明日無「うん…まあネタバレはいいんだが…ジンはともかくエイジはまだまだでないんだが…？」

エイジ「うん、だから今日は早く出してつて頼みにきた」

明日無「無理」

エイジ「…ええ…」

明日無「無理だもん」

エイジ「まあ、いいや…とりあえず今日はそれともう一つ去年大晦日から始まる仮面ライダー×仮面ライダーの作成スタッフ一同の皆さんに一言頂こうと思つてきたんだ」

ジン「まあ俺たちも出るんだけどな」

エイジ「では、仮面ライダーディケイドメンバーから一言ずつ…」

インタビューアー担当

ジン「主役2人は最後な。どうぞ…」マイク、カメラ担当

夏海「はい、夏海こと光夏海です。えーとみなさん一話と一話まで公開されてるんですよ…ね?ご覧になつていただけましたか?…私たちが最初に訪れた世界は?私たちはこれからどうなつしていくのか?そしてですね、えー、スーパーネオショッカーの陰謀とは?と言つのがコレからどんどん明かされていくので楽しみにして下さい!」

ユウスケ「えー、みなさんこんにちは、小野寺ユウスケです。元気ですかー!!……ハイ、元気ですと言つ声も聞こえてきました!えーっと…何言えばいいんだこれ…(笑)」

士「頑張ります!つて事くらい言つたらどうなんだ?(笑)」

ユウスケ「あ、そうか…うん、俺、頑張りますんで皆さん応援して下さい!!お願いします!!」

海東「次は僕、海東大樹だね!えーとこれから僕がいただいたり戦つたりいただいたりいただいたり戦つたりするシーンが沢山あるからみんな、そして士、僕の活躍、見ててくれたまえ!!」

エイジ「はい、ディケイドメンバーの皆さん、ありがとうございます!」

した」

アスマ「ギャグ要素が無いですね」

エイジ「そうだね、と言つわけで次はきっと面白くしてくれるよ!」

麻斗「ちょっとまつてよ!?」

エイジ「では麻依さんと海斗くんからどうぞ!」

ジン「なんか初回プレミア試写会みたいだな…ズーム カメラ弄る

麻依「え? 私から? えつと…私の名前…知つてますよね…? 佐原麻依です。こんにちわ! えつと、私はあんまり活躍出来ないと思うけ

ど大智達の活躍、しつかり！」覧下せ……」

海斗「みんなー！一之瀬海斗だよーーーこの仮面ライダー×仮面ライダーは皆さんに愛される様にスタッフ一同頑張っていきたいと思つてるんでハラハラドキドキして待つてね！あ、あと、俺の活躍、見逃さないでね！！」

エイジ「面白くなかったね……まあいつか

ジン「ではこの作品の作者にもインタビューしてみよう……」

明日無「俺も！？え、えっと、作者の時流です。相変わらずの下手な文章ですし更新頻度も遅いですが読んで頂ければ幸いです。どうぞ暖かい田で読んで頂ければと思います。お願いたします」

エイジ「そう言えば今回は新キャラが沢山てるらしいですね」

明日無「そうですね。さて、皆さん、“エイジ”がいると言う事はディケイド達は……って事です」

ジン「あと他の作者さんからもキャラをお借りして書くそつだな」

明日無「朽木呂さんと剣崎シンジさんからキャラをお借りして戦います！ですからかなり多くのライダーによる戦いが行われますよ！」

「！」

エイジ「はい、そんなハラハラドキドキするかもしない仮面ライダー×仮面ライダーの主人公、高見大智と門矢士に最後一言ずつ言つてもらいましょう！」

大智「えーっと、ご紹介に預かりました、高見大智です。この作品では俺もかなり活躍しますんで是非期待してて下さい……ってあんまり期待しすぎないで下さいね？」

士「主人公が弱氣でどうする！次俺だな。俺は通りすがりの仮面ライダー、門矢士だ！今回でヒ

エイジ「はいそれではインタビューは終了…お疲れ様で…」

士「いやいや俺！俺何も言つてない…！」

ジン「気にすんなもやし、お前の発言なんて誰も聞いてない」

士「ウソだ！」

全「…え？」

海東「僕は…フグッ！？」　コウスケに口を押さえられた

コウスケ「え？」　押さええつづ首を締めている

数分後

士「…お…」

海東「…屍

エイジ「じゃ、俺達は今回からちょくちょくくる事にするよ

ジン「本格的に来るのは仮面ライダー×仮面ライダーがある程度進んでからな」

エイジ「ではみんなまたね～！！」

十の思いつき=要注意→心理テストDVD「仮面ライダー適性診断753号室」

士斗東「「「仮面ライダー適性診断753号室」！」」「」

映リョウ弦カズ「「「いえ――――い！！」」

ユウシヨウ翔ジン「「「ちょい待てえええええい！？」」

大智「おお、やつてるやつてる」

麻依「酒盛りでもするのかな？」

エイジ「そうなの？先輩！」

映司「違うみたいだよ？」

後藤「……と言つか少しはネタバレを考えた方がいいんじゃないかな

！？火野、高野！」

Wエイジ「「オーブズ…」」

ユウスケ「そもそも仮面ライダー適性診断753室ってなんなんだ  
！？」

翔太郎「この前の違うライダーになつた企画とどう違うんだ！？」  
士「まあ、怒るな怒るな。とりあえず、これが何なのか簡単に纏め  
たDVDがあるから…」

ユウ翔「「DVDかよ！？」

海東「士！スクリーン準備出来たよ…」

海斗「DVD、セタップ！」

士「じゃ、いくぞ…翔太郎！」

弦太郎「任せろ！ダチの願いは俺の願い！DVD…キタ――――

！！」スイッチオン！

ショウイチ「その下り無駄だろお！？」

／＼＼＼以下DVD（語り手・門矢士）

／＼＼＼

あれは… そう… 正月の事だつた…

士「正月つて案外暇だよなー カズマー」

カズマ「うえーいチーズ（訳・だね）士（）」

海斗「あ、士！DVD見ない？」

士「何のドラマだ？」

カズマ「うえい？（訳・ほえ？）」

海斗「花より 子」

士「そうか…なら翔太郎を…」

海斗「あーーーゴメンウソウソ！ホントはガチで探せー君だけの仮面ライダーつて奴。借りてきたんだ」

カズマ「うえーい（訳・いいねえ）」

士「そーか…じゃあ、見てみるか…」

（視聴中）

カズマ「うえうえーいーーー（訳・シンジすげえ！）」

海斗「G3おかしいよーーー！」

士「つてか先輩の 見よひとつするなよーーー！」

（視聴後）

海斗「中々面白かった～」

士「意外とな～はーーー！」

カズマ「うえーーー（訳・え？どうしたの？士）」

士「…心理テストでどの仮面ライダータイプか診断するつて企画はどうだ？」

海斗「心理テストで仮面ライダー診断か…いいねーーー！」

カズマ「うえい！」



2・気遣いが出来る

3・多才

4・賢いけどちょっと怖い

5・力持ち

アスマ「僕は…2ですかね?」

ワタル「僕は4ですね」

アスマ「え!?怖いらしいですよ!?」

ワタル「…僕が本当の怖さを教えてあげますよ…」

シンジ「アスマくんの為にもワタルくんと近づかないほうがいいと思ふんだ」

タクミ「まあ、大丈夫でしょう」

3、仮面ライダーと言えば?

- 1・戦わなくちゃ生きれない
- 2・人を守る
- 3・お仕事
- 4・偶然や奇跡が起こる
- 5・助け合い

翔太郎「6!街を泣かす奴を懲らしめる!…」

士「まんまお前じゃないか!…」

4、唯一無一の親友から相談を受けた、どんな内容?

- 1・彼女／彼氏と上手くいかない。
- 2・そもそも親友は人に相談しない。
- 3・昇級出来ない／成績が上がらない
- 4・実は気になってる人がいるんだが…
- 5・楽しいことないかな?

5、あなたは誰かに褒められとても嬉しく思いました。さて、褒めてくれたのは誰？

- 1・親友、または同年代の友達
- 2・家族
- 3・上司、上級生
- 4・恋人
- 5・近所の人

士「ま、少ないがコレだけだ」

海東「さて、それでは1から4まででもっとも多い数字を挙げたまえ」

カズマ「うーん…3？」

アスム「2ですね」

ワタル「えーっと…4？」

翔太郎「6！」

大智「6！？…んー、俺は2かなあ？」

士「じゃ、診断するぞ！1が多いお前は辰巳シンジタイプ、仮面ライダー龍騎だ！」

シンジ「俺か…って俺の好きな人＝クールってどう言つことだ！？」

海東「勿論、羽黒レンの事だよ！」

シンジ「レンさんはバディ！恋愛感情はない！」

リイマジ全（（（嘘だ…）））

シンジ「ライリイマジ共、ちょっとこいつち来い」

リイマジ全「「お前はHスパーか！？」」「

士「ま、完全に心理テスト省かれてるが詳しい説明を囁つと龍騎タイプは熱い心を持つていて仕事熱心、一度動いたらそれが終わるまで行動するような人間と言えよつ。また、恋愛事にも一途だ。一途故に浮氣とかはしないだろえが疑心の気がありヤンデレタイプに陥りやすい。注意しどけよーちなみにラッキーカラーは赤、身につけてたらしい事起じるかもな」

海東「さて、2が多かつた君は天堂ソウジタイプ、仮面ライダーカブトだ」

ソウジ「ん？俺？」

海東「2の君はオールマイティに物事こなそとと思えば出来る力を持つているね。さらには頼りがいもある。いい奥さん、旦那さんになるだろひ。また情け深く友情や恋愛には熱いね。だけど恋愛事などは鈍感になってるかもしねない。もうちょっと周囲に目を向けてあげて？ラッキーカラーは銀だよ、がんばりたまえ！」

海斗「3が多かつた貴方は剣立カズマタイプ、仮面ライダーブレイドです！」

カズマ「うえーい」

海斗「プライド高く、完璧主義傾向があります。ですから一度プライドがズタズタになるとショックも大きいでしょう。そんな時は士達の言葉「ゼロからのスタート」を思い出して下さいね。恋愛も真面目に取り組める傾向があります！ラッキーカラーは青！」

士「4を選んだお前は芦川ショウウイチタイプ、仮面ライダーアギトだ」

ショウウイチ「俺かい！？俺の番号の答えかなりヤバかつたぞ！？」

士「（ぶつちやけ）レガ1番少ないと思うんだが）ショウウイチタイプは真面目だけどヘタレの可能性があるぞ、特に恋愛面でな。奥手に回らすたまには自分からいってみたらどうだ？ラッキーカラーは黄色だ」

ショウウイチ「おこいらもやし、ヘタレってなんだ」

海東「5が多かった君は火野映司タイプ、仮面ライダー オーズだね」  
映司「俺かあ……」

海東「オーズの君は欲が少なく謙虚で親切な性格だ。人に頼まれると断れなくてついつい流されてしまうかもしね。断る時はしつかり断ることをオススメしよう。恋愛面は……頑張りたまえ！」

ショウウイチ「ちょおい！ 適当だな！？」

海東「ラッキーカラーは虹色！！」

ショウウイチ「いや、終わりかよ！？」

士「意外と大変だったな」

海東「まあ、楽しかったじゃないか」

海斗「あ、そうだ、『皆様にお願いがござります。現在ドタバタ耐戦では』当地のお国自慢を募集しております。皆様が住んでいる県あるいは隣県、あるいは自分とは関係ないけど、この県のは良かった！などの情報を出来るだけ詳細に作者の方までお寄せ下さい」

…はい、大智」

大智「えーっと…『お寄せ頂いた意見を参考にしましてドタバタ耐戦のお国自慢スペシャル（仮）に使わせていただきます。応募方法は活動報告、感想、メッセージのどれでも構いません。特に住んで

る県をあまり公開したくない方はメッセージからご応募頂ければあります。期間は未定ですができる限りお早い内にお願いします』

海斗「皆様の『』応募、お待ちしております!」

今回行つた心理テストは心理テストと言いながらも心理学的根拠はありませんのでご注意下さい。

翔太郎「つてか6を選んだ人への配慮は!?!?」  
全「「「お前だけだろ!?!?」」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1945w/>

仮面ライダーBEST×平成ライダー～ギャグとリイマジとドタバタ耐戦！？～

2012年1月14日16時55分発行